

# きべりはむし

第48巻 第2号

2025



NPO 法人こどもとむしの会

「きべりはむし」編集委員会  
委員長 池田 大  
編集委員 阪上洸多・末宗安之・中峰 空・森 正人・安岡拓郎

## 兵庫県のゲンゴロウ類目録 (2)

森 正人<sup>1)</sup>

### はじめに

前報(森, 2024)に引き続き, 兵庫県内におけるゲンゴロウ類のうちセスジゲンゴロウ亜科以降の種データを整理した。採集者については筆者自身のものは省略, それ以外は明記した。分類, 学名・和名の扱いは原則「日本昆虫目録 第6巻鞘翅目(第1部)」(2022)に, 配列は「改訂版 図説日本のゲンゴロウ」(2007)に概ね準じている。種の番号は前報から引き継いでいる。

### 各種解説

ゲンゴロウ科 Family Dytiscidae (続き)

セスジゲンゴロウ亜科 Subfamily Copelatinae

以前はヒメゲンゴロウ亜科に含まれていたが, 現在は独立の亜科として扱われている。日本産は以下の1族。

セスジゲンゴロウ族 Tribe Copelatini

コセスジゲンゴロウが所属変更となり, 兵庫県産は以下の2属となる。

コセスジゲンゴロウ属 Genus *Austrelatus*

兵庫県産は以下の1種。

#### 3 0. コセスジゲンゴロウ *Austrelatus parallelus* (Zimmermann, 1920)

【文献記録】Setsu [Zimmermann, 1920].

Shaverdo et al.(2023)によって*Copelatus*属から上記属に変更された。基準産地の「Setsu(摂津)」は現在の大阪府と兵庫県の一部をさす。その後, 大阪府の淀川, 滋賀県と京都府の琵琶湖淀川水系から得られているが, 兵庫県内からの確実な記録はない。京都市宇治川での観察では, 主にヨシが密生したうす暗い草間床に生息し, 水枯れ時でも落葉下などの湿った地面に潜んでいた。Watanabe et al. (2017)は京都府産本種を飼育し, 卵, 幼虫, 蛹の記載と繁殖生態について報告している。環境省のレッドリスト(2020)では絶滅危惧ⅠA類(CR)と高いカテゴリーにランクされている。日本特産種とされていたが, 近年になって韓国(Jung et al., 2020)や中国(Jiang et al., 2022)からも記録された。掲載画像は京都市産。

セスジゲンゴロウ属 Genus *Copelatus*

日本産は13種, 兵庫県では以下の5種が確認された。

#### 3 1. ホソセスジゲンゴロウ *Copelatus weymarni* Balfour-Browne, 1947

【文献記録】宝塚市大原野松尾[芦田, 1993];豊岡市小田井[高橋, 1997];兵庫県西部[市川・大庭, 2015].

【標本記録】2exs., 美方郡香美町香住三田浜, 6-IX-2021; 1ex., 豊岡市但東町大河内, 22-VII-2012, 市川憲平採集; 2exs., 養父市葛原大野峠, 14-IX-2020; 1ex., 養父市杉ヶ沢高原 800m, 22-X-2023; 1ex., 三田市福島, 15-VII-2017, 脇村涼太郎採集保管; 7exs., 西宮市すみれ台, 5-IX-1993; 2exs., 神戸市北区八多町, 19-II-1987; 9exs., 神戸市北区淡河, 1-X-1989; 2exs., 神戸市北区藤原台, 11-V-1989; 1ex., 神戸市六甲山かわうそ池, 9-V-1987; 2exs., 淡路市小倉, 8-XI-2025, 辻 悠祐採集保管。

北海道, 本州, 四国, 九州に広く分布している。県内でも全域に分布しているが, 情報はそれほど多くない。主に湿地や放棄水田など, 時に一時的止水(水溜まりなど)にも生息している。

#### 3 2. セスジゲンゴロウ *Copelatus japonicus* Sharp, 1884

【文献記録】Kobe[Sato, 1985];養父郡氷ノ山, 伊丹市, 出石町小人[高橋, 1997];洲本市厚浜海岸[初宿, 2011].

本州, 四国, 九州に分布しているが, 県内の記録は意外と少なく, 筆者も県内では採集出来ていない。本属のなかでは比較的安定した水域を好むように思える。

#### 3 3. テラニシセスジゲンゴロウ *Copelatus teranishii* Kamiya, 1938

【文献記録】神戸市本山[大倉, 1955].

本州と九州に分布しているが, 生息地は少なく局地的となる。県内では古い文献記録1例のみである。近畿地方では滋賀県内での生息地が多い。標本画像は滋賀県産。

#### 3 4. カンムリセスジゲンゴロウ *Copelatus kammuriensis* Tamu & Tsukamoto, 1955

【文献記録】宝塚市安倉[高橋, 1997];西宮市甲山[初宿, 2011];姫路市仁寿山, 四郷町[檀野, 2025]。

<sup>1)</sup> Masato MORI 環境科学大阪 株式会社

【標本記録】2exs., 豊岡市城崎町桃島池, 8-VII-1998; 20exs., 豊岡市高屋, 30-V-2017; 3exs., 豊岡市佐野, 26-V-2025; 3exs., 赤穂市真殿 (千種川), 12-XI-2011; 2exs., 赤穂市高雄 (千種川), 20-III-2020; 2exs., 姫路市の形, 18-IX-2011; 2exs., 加西市段下町, 30-VI-2012; 2exs., 加東市高岡, 12-VI-2016, 渡部晃平採集保管; 5exs., 加西市青野ヶ原, 29-IX-2013; 2exs., 加西市野田池, 9-VIII-2003; 4exs., 加古川市権現湖, 3-V-2019; 10exs., 小野市久茂町 (加古川), 8-VII-2018; 2exs., 小野市福甸町, 16-IV-2017; 4exs., 小野市女池, 29-VI-2014; 6exs., 三木市シビレ山, 30-IV-2019; 3exs., 三田市小柿, 18-VIII-2019; 7exs., 三田市青野ダム, 16-III-2014; 2exs., 宝塚市玉瀬, 10-IV-2011; 22exs., 西宮市甲山, 2-V-1987; 2exs., 神戸市北区山田町藍那, 20-III-2012.

本州西部, 四国, 九州に広く分布している. 基準産地は京都府の冠島. 県内では広く分布し, 本族のなかでは最も情報量が多い. 道端の不安定な水溜りに生息している場合も多く, 冬期間でも得られることがある.

### 3 5. ナチセスジゲンゴロウ *Copelatus tomokunii* M.Sato, 1985

【標本記録】1ex., 神崎郡神河町峰山高原, 8-VI-2013; 3exs., 同所, 21-VI-2014; 1ex., 同所, 11-VII-2015; 1ex., 同所, 27-VIII-2017; 6exs., 同所, 28-IV-2018; 13exs., 同所, 12-V-2018; 3exs., 同所, 29-V-2020; 4exs., 同所, 17-VI-2023.

基準産地は和歌山県の妙法山で, 福岡県英彦山を基準産地とするヒコサンセスジゲンゴロウ *C. takakurai* M. Sato と同論文に新種記載されたが, 両種は外部形態や♂交尾器中央片の形状が非常に似ており, その差異は必ずしも明瞭ではない. 田中ほか (2021) は両種の Holotype を含む標本調査を行い, ♂交尾器を含む明瞭な画像を図示し, その形態の違いについて検討した. そのなかで, 両種の新たな識別点として, 上翅末端における条溝端部の状態が有用であることを報告している. 峰山高原で得られた 31 頭のサンプルについて, その形質に着目すると, 多くはナチセスジとなるものの中間的な個体が混じり, その違いは必ずしも明瞭ではなかった. また, 14 ♂の交尾器中央片の形状を検討した結果, 中央部の開口部付近がやや広がり, そこから先端に向かって折れ曲がり細くなる傾向がある等, ナチセスジの特徴を示したが, これについても個体による変異が認められ明瞭に識別ができていない. ここではナチセスジとして報告するが, 菅谷ほか (2022) が述べているように, この両種の識別形質については今後も十分に精査する必要がある. 分子系統学的手法を用いた検討が必要である. 兵庫県からは初記録となるため, 確認されたサンプルすべてのデータを示した. 採集環境は開放的な明るい湿地環境であった.

ナチセスジゲンゴロウは和歌山県のほか, 千葉県 (佐

野・本間, 2021), 滋賀県 (河瀬, 2009), 三重県 (秋田・木村, 2004), 広島県 (坂本・秋山, 2001), 大分県 (三宅, 2023), 宮崎県 (笹岡, 2022) から記録されている. 一方, ヒコサンセスジゲンゴロウの方は福岡県のほか千葉県 (菅谷・亀澤, 2022), 神奈川県 (佐野, 2015), 静岡県 (多比良・北野, 2001), 愛媛県 (渡部・北野・上手, 2017), 佐賀県 (大塚, 1993), 大分県 (三宅, 2023), 長崎県 (深川, 2012), 熊本県 (松井, 1996), 宮崎県 (笹岡, 2022), 鹿児島県 (木村, 1993) から記録されている.

### マメゲンゴロウ亜科 Subfamily Agabinae

このグループも以前はヒメゲンゴロウ亜科に含まれていたが, 現在は独立の亜科として扱われている. 日本産は以下の 1 族.

### マメゲンゴロウ族 Tribe Agabini

日本産は 3 属で, 兵庫県産も以下の 3 属.

### マメゲンゴロウ属 Genus *Agabus*

日本産は 7 種で, 兵庫県産は以下の 3 種.

### 3 6. クロズマメゲンゴロウ *Agabus (Acatodes) conspicuus* Sharp, 1873

【文献記録】神戸市多井畑 [関, 1945a]; 氷上郡 [山本, 1958]; 神戸市白川, 藍那, 新宮町福原, 香住町小原 [高橋, 1997]; 関宮町出合, 村岡町祖岡, 西宮市甲東園, 北淡町育波, 大屋町氷ノ山 [初宿, 2011]; 豊岡市祥雲寺 [牧田・中安, 2011]; 兵庫県西部 [市川・大庭, 2015].

【標本記録】3exs., 美方郡村岡町相岡, 8-VIII-1995, 山本勝也採集; 3exs., 豊岡市佐野, 24-V-2011; 3exs., 豊岡市高屋, 30-V-2017; 3exs., 豊岡市城崎町飯谷, 13-V-2024; 1ex., 養父市葛原大野峠, 14-IX-2020; 1ex., 養父市鉢伏高原, 14-IX-2020; 1ex., 養父市中瀬, 26-VII—2025; 1ex., 宍粟市千種町ちくさ高原, 2-IX-2012; 3exs., 宍粟市波賀町上野, 18-V-2024; 10exs., 佐用郡佐用町西新宿, 6-VII-2014; 1ex., 宍粟市一宮町曉晴山登山口, 11-VIII-2020; 3exs., 神崎郡市川町笠形山, 25-X-1993; 4exs., 神崎郡神河町峰山高原, 16-XI-2013; 2exs., 神河町砥峰高原, 29-V-1987; 2exs., 神崎郡福崎町, 4-V-1987; 3exs., 神戸市須磨区離宮西町, 12-VI-2007.

北海道, 本州, 四国, 九州に広く分布している. 県内での分布も広く, また生息地での個体数も多い.

### 3 7. チャイロマメゲンゴロウ *Agabus (Acatodes) browni* Kamiya, 1934

【文献記録】神戸市多井畑 [関, 1945a]; 東条町森 [高橋, 1997]; 砥峰高原 [八木ほか, 2003]; 五色町鮎原, 姫路市広峰, 福崎町, 高砂市阿弥陀町, 高砂市曾根町, 三田市下相野, 大屋町氷ノ山 [初宿, 2011]; 兵庫県西部 [市川・大庭, 2015].

【標本記録】1ex., 宍粟市一宮町曉晴山登山口 600m, 11-VIII-2022; 3exs., 神崎郡福崎町, 4-V-1987; 5exs., 神崎郡神河町

砥峰高原, 29-V-1987; 1ex., 神崎郡神河町峰山高原, 11-VII-2015; 2exs., 加西市青野ヶ原, 10-V-1992; 1ex., 三田市下相野, 27-V-1993; 1ex., 明石市, 24-V-1987; 2exs., 三木市吉川町奥畑, 18-V-1994; 1ex., 西宮市名塩, 28-VII-1993; 4exs., 神戸市北区八多町, 5-V-1987; 10exs., 神戸市北区淡河, 11-VII-1992; 1ex., 神戸市摩耶山, 30-VI-1987; 1ex., 神戸市再度山, 20-IX-1987; 14exs., 洲本市五色町先山, 23-V-1991; 15exs., 淡路市久野々, 13-X-2025.

本州, 四国, 九州に広く分布しているが, 前種よりも明らかに生息地は少なく局地的となる. 県内では中南部での記録が多く, また淡路島からも得られている.

### 3 8. マメゲンゴロウ *Agabus (Acatodes) japonicus* Sharp, 1873

【文献記録】Hiogo[Sharp, 1873]; 神戸再度山 [高橋, 1940]; 武庫川, 神戸市多井畑 [関, 1945a]; 氷上郡 [山本, 1958]; 宝塚市香合新田 [芦田, 1993]; 神戸市白川, 押部谷, 広野, 長待山, 芦屋溪谷, 三木市三木, 志染, 日高町奈佐路, 西宮市武庫川, 城崎郡来日岳 [高橋, 1997]; 関宮町出合, 加西市青野ヶ原, 三田市有馬富士, 篠山市, 六甲山, 猪名川町仁部, 三草山, 北淡町育波, 大屋町古生沼 [初宿, 2011]; 兵庫県西部 [市川・大庭, 2015]; 姫路市仁寿山 [檀野, 2025].

【標本記録】4exs., 美方郡新温泉町上山高原, 4-IX-2023; 5exs., 美方郡香美町ハチ北高原, 8-X-2012; 1ex., 香美町村岡区大野峠, 1-IX-2016; 1ex., 香美町村岡区大笹, 23-VIII-2017, 脇村涼太郎採集; 2exs., 香美町村岡区高坂, 8-VIII-2025; 2exs., 豊岡市日高町神鍋, 7-IX-2021; 1ex., 豊岡市佐野雷神社, 30-V-2017; 5exs., 豊岡市城崎町飯谷, 13-V-2024; 3exs., 養父市鉢伏高原, 16-VI-2013; 2exs., 養父市杉ヶ沢, 28-VIII-2011; 1ex., 養父市中瀬, 26-VII-2025; 1ex., 宍粟市赤西溪谷, 7-VIII-2009; 1ex., 宍粟市波賀町上野, 18-V-2024; 2exs., 宍粟市千種町峰越峠, 24-V-2024; 5exs., 佐用郡佐用町西新宿, 6-VII-2014; 9exs., 神崎郡神河町峰山高原, 4-XI-2013; 10exs., 神崎郡福崎町, 4-V-1987; 1ex., 姫路市林田町中構, 23-VIII-2014; 2exs., 小野市青野ヶ原, 6-V-2014; 1ex., 小野市来住町, 30-IV-1997, 山本勝也採集保管; 1ex., 小野市河合西町, 3-III-2018, 脇村涼太郎採集; 2exs., 加西市網引町, 27-VI-2015; 3exs., 加西市網引町, 19-X-2014; 2exs., 加古川市権現湖, 27-VI-2015; 1ex., 丹波篠山市福住, 23-IX-2024; 6exs., 明石市大久保, 24-V-1987; 5exs., 三田市高次, 23-XI-2009; 3exs., 三田市下相野, 20-V-1993; 4exs., 三田市上野, 4-IV-1987; 2exs., 三田市波豆川, 25-IV-1999, 山本勝也採集保管; 2exs., 三田市福島, 12-I-2025 (活動中); 1ex., 伊丹市軍行橋 (猪名川), 23-V-1987; 5exs., 宝塚市玉瀬, 10-IV-2013; 7exs., 神戸市北区長尾町宅原, 8-V-1987; 1ex., 神戸市須磨区一の谷町, 15-VI-1998, 山本勝也採集保管; 1ex., 神戸市須磨区東須磨離宮公園新池, 23-VI-2019, 山本勝也採集保管; 5exs., 神戸市摩耶山, 30-VI-1987; 2exs., 神戸市六甲山上 (住友池), 13-VI-1987; 2exs., 神戸市六

甲山上 (かわうそ池), 4-V-1987; 4exs., 神戸市北区淡河町野瀬, 7-IX-2014; 4exs., 神戸市北区淡河町神影, 17-IX-2014; 6exs., 神戸市北区山田町鰻手池, 5-V-1987; 5exs., 神戸市北区八多町, 26-VIII-1993; 2exs., 神戸市北区道場生野, 30-V-1987; 1ex., 姫路市家島町家島, 6-IV-2019.

北海道, 本州, 四国, 九州から南西諸島まで広く分布しており, また垂直分布も広い. 離島では家島からも採集された. 冬季間でも水域で活動している.

### クロヒメゲンゴロウ属 Genus *Ilybius*

和名とは異なり, 現在はマメゲンゴロウ族として扱われている. 日本産は 4 種で兵庫県産は以下の 1 種.

### 3 9. キベリクロヒメゲンゴロウ *Ilybius apicalis* Sharp, 1873

【文献記録】Hiogo[D.Sharp, 1873]; 神戸再度山 [高橋, 1940]; 武庫川, 多井畑, 垂水 [関, 1945b]; 西宮 [大倉, 1955]; 川西市平野 [仲田, 1978]; 宝塚市武庫川町 [新家, 1988]; 宝塚市売布ガ丘 [芦田, 1993]; 伊丹市, 神戸市藍那 [高橋, 1997]; 加古川市別府, 西宮市甲東園, 北淡町育波 [初宿, 2011]; 豊岡市祥雲寺 [牧田・中安, 2011].

【標本記録】17exs., 加古川市今池, 6-VI-1992; 1ex., 神戸市西区押部谷, 4-V-1988; 1ex., 神戸市北区長尾町宅原, 8-V-1987; 1ex., 洲本市五色町先山, 23-V-1991.

北海道, 本州, 四国, 九州からトカラまで広く分布しているが, 生息地はやや局地的となる. 離島では淡路島からも採集された. 最近は見の機会がほとんど無くなった. 本種は環境省のレッドリスト (2020) では準絶滅危惧 (NT) として扱われている.

### モンキマメゲンゴロウ属 Genus *Platambus*

日本産は 9 種で, 兵庫県産は以下の 7 種. 主に流水域や流れのある湿地などに生息する.

### 4 0. モンキマメゲンゴロウ *Platambus pictipennis* (Sharp, 1873)

【文献記録】Hiogo[Sharp, 1873]; 武庫川, 甲東園, 猪名川町 [関公一, 1945]; 氷上郡 [山本, 1958]; 川西市見野, 笹部 [仲田, 1978]; 宝塚市売布ガ丘, 玉瀬, 武庫川町 [芦田, 1993]; 神戸市島原, 山の街, 宝塚市仁川, 新宮町福原, 神戸市垂水, 出石町内町 [高橋, 1997]; 神戸市道場 [森・北山, 1993; 森・北山, 2007]; 佐用町, 神戸市道場, 神戸市押部谷, 六甲山, 西宮市盤滝, 西宮市甲山, 川西市見野, 川西市笹部, 川西市多田, 尼崎市猪名寺, 宝塚市, 波賀町音水 [初宿, 2011].

【標本記録】3exs., 美方郡新温泉町藤尾 (久斗川), 3-IX-2023; 3exs., 宍粟市赤西溪谷 (赤西川), 7-VIII-2009; 2exs., 宍粟郡山崎町 (揖保川), 1-VIII-1995, 山本勝也採集保管; 6exs., 佐用郡佐用町, 21-IV-1991; 2exs., 赤穂郡上郡町上郡 (千種川), 10-V-2003; 4exs., 相生市陸, 21-IX-2018, 脇村涼太郎採集; 1ex., たつの市御津町 (揖保川), 7-VII-2003; 4exs., たつの市御津町萩原, 18-VII-2020, 脇村涼太郎採集; 32exs., 姫路市安富町雪

彦山, 24-XII-1994; 1ex., 姫路市林田町大堤, 24-VII-2016, 脇村涼太郎採集; 1ex., 朝来市多々良木, 25-V-2007; 5exs., 丹波市青垣町 (加古川), 2-X-2009; 5exs., 篠山市ささやまの森公園, 1-IX-2013; 4exs., 篠山市鰐市, 25-V-2014; 2exs., 篠山市八幡谷ダム, 22-X-2006, 山下俊一採集; 1ex., 篠山市福住, 4-XI-2007, 山下俊一採集; 1ex., 三田市福島, 21-XI-2021; 1ex., 加西市青野ヶ原, 10-V-1992; 1ex., 小野市来住町, 4-III-1998, 山本勝也採集保管; 3exs., 川辺郡猪名川町 (猪名川), 23-VI-1987; 2exs., 伊丹市軍行橋 (猪名川), 23-VI-1987; 1ex., 神戸市北区山田町谷上, 4-XI-2018, 脇村涼太郎採集; 1ex., 神戸市西区押部谷福住, 8-V-2005, 山本勝也採集保管; 3exs., 神戸市摩耶山, 30-VI-1987; 3exs., 神戸市六甲山紅葉谷, 24-X-2009, 轟玲弥採集; 22exs., 神戸市北区藤原台 (灯火), 25-VI-1987; 20exs., 神戸市北区道場 (武庫川), 26-V-1991; 3exs., 南あわじ市上田池, 29-IX-2001; 1ex., 南あわじ市灘土生 (細流の河口付近), 12-VI-2022.

北海道, 本州, 四国, 九州に広く分布している. 主に河川中流域に生息している. 県内ではほぼ全域で記録があり, 灘土生 (淡路島) では小渓流の河口部 (海まで数mの場所) でも得られた.

#### 4 1. ニセモンキマメゲンゴロウ *Platambus convexus* Okada, 2011

【文献記録】三田市福島 [岡田・森, 2025].

【標本記録】2exs., 三田市福島, 21-XI-2021; 16exs., 同所, 9-IV-2022; 10exs., 同所, 16-IV-2022; 10exs., 同所, 22-V-2022; 19exs., 同所, 4-IX-2022.(以上は報告済)

北海道江別市野幌及び尻内町, 今金町, 八雲町, 江差町など道央・道南地方の標本により新種記載 (Okada, 2011) された種類で, その後青森, 岩手, 秋田, 宮城, 福島, 千葉, 神奈川, 静岡, 愛知の各県及び長崎県対馬 (北野, 2012; 茅野ほか, 2023; 佐藤, 2020; 只野・相蘇, 2025; 吉井, 2012; 佐野・矢口, 2025; 藤原ほか, 2020; 渡部・小林, 2025; 萩原, 2020; 秋田・境, 2022) と分布域の解明が進んでいる. 三田市の生息地は小河川の上流域で, 岸辺が挟まれ樹木の根が被さった暗い場所から得られることが多く, 同水系のモンキマメゲンゴロウとは明らかに生息微環境が異なっている. また, ゲンゴロウ類としては活性が低いことも, 本種の発見が大きく遅れた理由のような気がする.

#### 4 2. キベリマメゲンゴロウ *Platambus fimbriatus* Sharp, 1884

【文献記録】川邊郡神津村 (軍行橋) [瀧口, 1933]; 武庫川, 武庫村, 甲東園, 猪名川, 垂水, 瓦木町 [関, 1945a]; 氷上町大岡 [高橋, 1961].

【標本記録】1ex., 赤穂市千種川河口, 30-VIII-2009; 11exs., 赤穂市高雄 (千種川), 11-X-2014; 2exs., 赤穂郡上郡町上郡 (千

種川), 10-V-2003; 17exs., 加古川市黍田町 (加古川), 21-VI-2021; 数頭, 加古川市上荘町葉栗, 22-VII-2021 (灯火), 安岡拓郎確認.

北海道, 本州, 四国, 九州に広く分布している. 主に河川中下流域に生息している. 県内では過去に武庫川や猪名川での記録が見られるが, 最近の記録や情報はない. 筆者は主に千種川水系で確認しているが, 最近になって「こども虫の会」の調査活動によって加古川でも確認された. 生息地での個体数は一般に多い. 環境省のレッドリスト (2020) では準絶滅危惧 (NT) に, 兵庫県RDB(2022) でも要調査のカテゴリーに選定されている.

#### 4 3. サワダマメゲンゴロウ *Platambus sawadai* (Kamiya, 1932)

【文献記録】温泉町扇ノ山, 波賀町引原ダム [八木, 2000]

【標本記録】5exs., 美方郡香美町村岡区大笹, 23-VIII-2017, 脇村涼太郎採集; 1ex., 豊岡市日高町神鍋溪谷, 7-IX-2021; 6exs., 宍粟市坂の谷林道, 24-V-2003; 1ex., 宍粟市波賀町音水溪谷, 2-V-1994; 1ex., 宍粟市赤西溪谷, 2-IX-2006; 5exs., 宍粟市赤西溪谷, 9-IX-2023; 1ex., 宍粟郡波賀町引原ダム, 11-VII-2008, 伊藤主計採集; 2exs., 姫路市安富町雪彦山, 24-XII-1994; 3exs., 丹波市青垣町栗鹿山, 8-X-2006.

北海道, 本州, 四国, 九州に広く分布している. 主に河川上流や源流域に生息している. 滝ツボに生息することも多い. 県内では中央部の山地で確認されている.

#### 4 4. クロマメゲンゴロウ *Platambus stygius* (Regimbart, 1899)

【文献記録】温泉町前 [森・北山, 1993; 森・北山, 2007]

【標本記録】3exs., 美方郡新温泉町上山高原, 2-IX-2016; 15exs., 新温泉町前, 28-X-1992; 1ex., 神崎郡神河町砥峰高原, 29-V-1987.

北海道, 本州, 九州とトカラで記録がある. 山地の細流や山路に沿った溝など清流域に生息しており, 湿地等の止水域で見たことはない. 県内では中央部以北の山地で確認されているが少ない.

#### 4 5. ホソクロマメゲンゴロウ *Platambus optatus* (Sharp, 1884)

【文献記録】関宮町出合, 三田市母子大池, 温泉町扇ノ山 [初宿, 2011]; 兵庫県西部 [市川・大庭, 2015]; 姫路市仁寿山 [檀野, 2025].

【標本記録】2exs., 美方郡香美町村岡区口大谷, 3-V-2022; 13exs., 香美町村岡区高坂, 8-VIII-2025; 2exs., 香美町ハチ北高原, 6-X-2012; 7exs., 豊岡市日高町神鍋溪谷, 4-V-2022; 3exs., 養父市鉢伏高原, 16-VI-2013; 10exs., 養父市奈良尾, 28-VI-2025; 2exs., 養父市杉ヶ沢高原, 22-X-2023; 10exs., 養父市奈良尾 800m, 28-VI-2025; 15exs., 宍粟市坂の谷林道, 20-VII-2014; 5exs., 宍粟市千種町志引峠, 24-V-2024; 3exs.,

宍粟市千種町峰越峠, 24-V-2024; 12exs., 宍粟市一宮町小原, 6-IX-1995; 4exs., 宍粟市一宮町東河内, 15-VII-2017; 6exs., 宍粟市一宮町晴晴山登山口 600m, 15-VII-2017; 3exs., 宍粟市千種町ちくさ高原, 2-IX-2012; 3exs., 佐用郡佐用町西新宿, 6-VII-2014; 4exs., 相生市, 28-IV-1991; 2exs., 丹波市市島町妙高山, 2-V-2019; 2exs., 神崎郡神河町砥峰高原, 13-IX-2009; 20exs., 神河町峰山高原, 11-VIII-2022; 2exs., 加東市社町鴨川, 2-IX-1997; 7exs., 三田市小柿, 18-VIII-2019; 2exs., 宝塚市丸山湿原, 23-III-1994; 3exs., 神戸市六甲山住友池跡, 22-IV-1987; 1ex., 神戸市淡河町, 6-VII-2024.

本州, 四国, 九州に分布し, 主に湿地や林内の緩流域, 水溜りなどに生息しているが, 流れの速い場所では見ない. 県内ではほぼ全域から確認され, 生息地での個体数は一般的に多い.

#### 4 6. コクロマメゲンゴロウ *Platambus insolitus* (Sharp, 1884)

【文献記録】波賀町氷ノ山坂の谷林道 [八木, 2000]

【標本記録】7exs., 豊岡市城崎町飯谷, 13-V-2023; 1ex., 宍粟市坂の谷林道, 28-VII-2013; 1ex., 養父市関宮町鉢伏高原, 10-V-2015, 山下俊一採集; 2exs., Haga-Tyo, 23-VII-1977, T. Saito 採集 (箕面昆虫館収蔵標本).

本州, 四国, 九州に分布し, 主に河川源流域や湿った落葉下などに生息している. 県内での情報は少なく, 主に中央部山地の源流域から確認されている.

#### ヒメゲンゴロウ亜科 Subfamily Colymbetinae

日本産は以下の 1 族.

#### ヒメゲンゴロウ族 Tribe Colymbetini

日本産は 2 属, 兵庫県では以下の 1 属.

#### ヒメゲンゴロウ属 Genus *Rhantus*

日本産は 4 種, 兵庫県では以下の 2 種.

#### 4 7. ヒメゲンゴロウ *Rhantus suturalis* (Macleay, 1825)

【文献記録】神戸再度山 [高橋, 1940]; 武庫川, 武庫村, 瓦木村, 住吉村, 本山村, 猪名川, 多井畑 [関, 1945b]; 氷上郡 [山本, 1958]; 川西市一鳥居, 大和, 笹部 [仲田, 1978]; 淡路島 [堀田, 1978]; 宝塚市武庫川町 [新家, 1988]; 宝塚市売布ガ丘, 香合新田 [芦田, 1993]; 神戸市摩耶山, 山の街, 広野, 押部谷木見, 吉川町奥山, 加西市畑, 氷ノ山, 伊丹市昆陽池, 波賀町上野, 出石町広原, 豊岡市福田 [高橋, 1997]; 洲本市安平・先山 [高橋, 1998]; 神戸市大沢町, 村岡町祖岡, 三原郡緑町広田~長田, 三田市大磯, 篠山市西浜谷, 家島町男鹿島青井, 神戸市東垂水, 神戸市道場町生野鎌倉峡, 神戸市山の街, 西宮市甲東園, 川西市一の鳥居, 川西市笹部, 川西市大和, 猪名川町仁部, 猪名川町上阿古谷, 猪名川町民田, 北淡町育波, 大屋町氷ノ山古生沼 [初宿, 2011]; 豊岡市祥雲寺 [牧田・中安, 2011]; 姫路市仁寿山, 四郷町 [檀野, 2025].

【標本記録】1ex., 美方郡新温泉町上山高原, 2-IX-2016; 2exs.,

美方郡村岡町祖岡, 8-VIII-1995, 山本勝也採集保管; 2exs., 美方郡香美町香住三田浜, 6-IX-2021; 2exs., 香美町村岡区高坂, 8-VIII-2025; 5exs., 豊岡市神鍋高原, 28-VIII-2011; 4exs., 豊岡市城崎町桃島池, 6-VIII-1992; 5exs., 養父市葛原大野峠, 14-IX-2020; 5exs., 養父市丹戸, 16-IX-2020; 2exs., 養父市大屋町杉ヶ沢高原, 17-VII-1996, 山本勝也採集保管; 1ex., 養父市杉ヶ沢高原 800m, 22-X-2023; 1ex., 養父市道の駅やぶ, 14-IX-1996, 山下俊一採集; 1ex., 養父市葛原大野峠, 14-IX-2020; 18exs., 宍粟市千種町ちくさ高原, 27-IX-1993; 5exs., 神崎郡福崎町, 16-VIII-1987; 3exs., 神崎郡市川町笠形山, 25-X-1993; 1ex., 相生市陸, 9-XII-2020, 脇村涼太郎採集; 3exs., 丹波篠山市福住, 15-VI-2025; 1ex., 丹波市氷上町三方, 25-VIII-2020; 5exs., 三田市高次, 23-XI-2009; 6exs., 三田市福島, 2-XI-2025; 2exs., 宝塚市西谷, 24-II-2020; 3exs., 宝塚市玉瀬, 19-VIII-2017; 1ex., 神戸市須磨区東須磨離宮公園新池, 23-VI-2019, 山本勝也採集保管; 1ex., 神戸市西区檀谷町寺谷, 15-VI-1992, 山本勝也採集保管; 4exs., 神戸市北区八多町, 22-III-1987; 5exs., 神戸市北区有馬町水無川, 10-V-1987; 4exs., 神戸市六甲山かわうそ池, 9-V-1987; 1ex., 神戸市六甲山三国池, 12-V-1987.

北海道, 本州, 四国, 九州と南西諸島に広く分布している. 兵庫県内でも広く分布し, 生息地での個体数も多い.

#### 4 8. オオヒメゲンゴロウ *Rhantus erraticus* Sharp, 1884

【文献記録】三原町八木養宣 [藤富, 1995]; 吉川町, 神戸市北区大沢町 [高橋, 1997]; 篠山町 Sasami, 神戸市八多町, 猪名川町民田 [初宿, 2011]; 豊岡市祥雲寺 [牧田・中安, 2011].

【標本記録】4exs., 小野市市場, 25-VI-2020; 5exs., 三田市木器, 23-IV-1990; 5exs., 三田市高次, 23-XI-2009; 3exs., 宝塚市玉瀬, 19-VIII-2017; 1ex., 宝塚市切畑奥ンベツ, 14-III-2010, 下野誠之採集; 6exs., 西宮市すみれ台, 5-IX-1993; 5exs., 芦屋市奥池, 21-IV-1987; 3exs., 神戸市北区山田町藍那, 7-XII-2003; 6exs., 神戸市北区山田町原野, 6-V-1987; 6exs., 神戸市北区山田町鰻手池, 5-V-1987; 1ex., 神戸市北区谷上, 10-II-1987; 5exs., 神戸市六甲山かわうそ池, 9-V-1987; 2exs., 神戸市北区八多町, 21-II-1987; 2exs., 神戸市北區道場生野, 13-VI-1992.

北海道, 本州に分布している. 薄暗いため池などの浅い止水域に生息している. 県内でも広く分布している.

#### ゲンゴロウモドキ亜科 Subfamily Dytiscinae

この亜科は, 以前ゲンゴロウ属が所属していたことから「ゲンゴロウ亜科」の和名が使われてきたが, 上位分類の変更によりゲンゴロウ属が別亜科 Cybistrinae として分けられたことから, 亜科和名に困ることになった. さいわい, 中島淳ほか (2020) が Dytiscinae に対して「ゲンゴロウモドキ亜科」の和名を新称しており, ここではこれに従うことにした. 日本産は 4 族で兵庫県は以下の 3 族.

## ハイイロゲンゴロウ族 Tribe Eretini

### ハイイロゲンゴロウ属 Genus Eretes

日本産は以下の 1 種.

#### 4 9. ハイイロゲンゴロウ *Eretes griseus* (Fabricius, 1781)

【文献記録】神戸市御影 [関, 1934]; 神戸再度山 [高橋, 1940]; 武庫川, 武庫村, 住吉村, 本山村, 徳井, 猪名川, 多井畑, 伊丹 [関, 1945b]; 氷上郡 [山本, 1958]; 猪名川町日生ニュータウン [仲田, 1978]; 家島町家島本島 [上田, 1981]; 宝塚市武庫川町 [新家, 1988]; 淡路島 [上田, 1991]; 宝塚市売布ガ丘 [芦田, 1993]; 神戸市山の街, 白川, 加西市畑, 西宮市弘広田山, 出石町堀堀, 豊岡市幸町 [高橋, 1997]; 洲本市安平町 [高橋, 1998]; 神戸市大沢 [森・北山, 1993; 森・北山, 2007]; 加古川市加古川河口, 神戸市東垂水, 西宮市甲東園, 川西市日生, 猪名川町内馬場 [初宿, 2011]; 兵庫県西部 [市川・大庭, 2015]; 上郡町 [大貝, 2018]; 三田市有馬富士公園 [片岡ほか, 2019]; 姫路市北原 [檀野, 2022].

【標本記録】6exs., 豊岡市城崎町桃島池, 6-VIII-1992; 12exs., 篠山市, 19-VIII-1994; 1ex., 加西市坂本町, 6-III-2020, 脇村涼太郎採集; 3exs., 加古川市加古川, 15-VII-2007, 山本勝也採集保管; 4exs., 小野市青野ヶ原, 11-VIII-1990; 2exs., 相生市陸, 7-XII-2020, 脇村涼太郎採集; 6exs., 川辺郡猪名川町槻並, 12-VI-1992, M. Takahama 採集 (箕面昆虫館収蔵標本); 1ex., 明石市, 10-VII-1988; 6exs., 三田市上野, 16-IX-1990; 9exs., 三田市木器, 16-IX-1990; 2exs., 三田市福島, 2-XI-2025; 3exs., 神戸市西区樋谷町寺谷, 19-VII-1992, 山本勝也採集保管; 26exs., 神戸市北区大沢町, 18-XI-1990; 3exs., 神戸市北区道場, 18-VII-2002; 2exs., 淡路市小倉, 10-X-2025.

北海道, 本州, 四国, 九州から南西諸島まで広く分布している. 県内でも分布は広く, 淡路島や家島などの離島にも記録がある. 柴田ほか (2012) は水田における本種の生活史の一端について報告している.

## シマゲンゴロウ族 Tribe Hydatiini

日本産は 1 属.

### シマゲンゴロウ属 Genus Hydaticus

日本産は 9 種, 兵庫県は 5 種が分布する.

#### 5 0. シマゲンゴロウ *Hydaticus (Prodaticus) bowringii* Clark, 1864

【文献記録】神戸市御影 [関, 1934]; 神戸再度山 [高橋, 1940]; 武庫川, 徳井, 伊丹, 猪名川, 多井畑 [関, 1945b]; 氷上郡 [山本, 1958]; 洲本市安平町 [堀田久, 1959]; 宝塚市武庫川町 [新家, 1988]; 宝塚市売布ガ丘, 玉瀬, 武庫川町 [芦田, 1993]; 神戸市山の街, 押部谷木見, 藍那, 猪名川町日生ニュータウン, 伊丹市昆陽池, 但東町赤西, 日高町富田, 温泉町中辻 [高橋, 1997]; 温泉町中辻・神戸市道場 [森・北山, 1993; 森・北山, 2007]; 砥峰高原 [八木ほか, 2003]; 多可郡中町 [松尾, 2003]; 温泉町, 村岡町祖岡, 三田市大磯, 西宮市甲東園, 川

西市一庫, 川西市笹部, 猪名川町民田, 北淡町育波, 淡路島 [初宿, 2011]; 岡市祥雲寺 [牧田・中安, 2011]; 加東市河高 [徳平・高尾, 2013].

【標本記録】2exs., 美方郡新温泉町中辻, 18-V-1991; 10exs., 新温泉町多子, 18-VIII-1992; 5exs., 美方郡村岡町祖岡, 8-VIII-1995, 山本勝也採集保管; 5exs., 豊岡市日高町神鍋高原, 7-IX-2021; 5exs., 豊岡市高屋, 30-V-2017; 1ex., 豊岡市出石町寺坂 (出石川), 10-IX-2024; 3exs., 豊岡市佐野, 26-V-2025; 1ex., 豊岡市城崎町飯谷, 13-V-2024; 2exs., 宍粟郡波賀町安賀, 24-VII-2001, 山本勝也採集保管; 7exs., 宍粟市一宮町, 6-VIII-1989; 1ex., 宍粟市引原ダム, 30-VII-1995; 3exs., 篠山市幡路, 23-V-2004, 中峰 空採集保管; 3exs., 三田市木器, 10-IV-1987; 2exs., 三田市羽束山, 17-VI-1990; 1ex., 宝塚市玉瀬, 28-V-1991; 3exs., 川辺郡猪名川町槻並, 5-VI-1992, M. Takahama 採集 (箕面昆虫館収蔵標本); 1ex., 神戸市須磨区高倉町, 30-VI-1998, 山本勝也採集保管; 4exs., 神戸市北区長尾町宅原, 8-V-1987; 6exs., 神戸市北区大沢町, 9-V-1992; 8exs., 神戸市北区八多町, 25-VIII-1993; 2exs., 神戸市北区藤原台, 6-VI-1987; 4exs., 神戸市北区道場町, 26-VII-1987.

北海道, 本州, 四国, 九州からトカラまで広く分布している. 県内でも分布は広く, 淡路島からも記録があるが, 近年はかなり減少傾向にある. 渡辺 (2019) は本種の野外における産卵基質としてイネとヤナギタデを報告している. また, Watanabe et al. (2020) は本種幼虫の主な餌がオタマジャクシであると報告している. 環境省のレッドリスト (2020) では準絶滅危惧 (NT) に, 兵庫県 RDB (2022) でも要注目のカテゴリーに選定されている.

#### 5 1. スジゲンゴロウ *Hydaticus (Prodaticus) bipunctatus* Wehncke, 1876

【文献記録】淡路島 [関, 1945b]; Ikuha Awaji [林・初宿, 2003]; 豊岡市三宅 [渡辺・上田, 2024].

本州, 四国, 九州からトカラまで分布するが, 近年の記録は全くなく, 環境省のレッドリスト (2020), 兵庫県 RDB (2022) ではともに絶滅 (EX) と評価されている. 県内の記録は淡路島のみであったが, 渡辺・上田 (2024) は豊岡市産の古い標本の記録を報告した. 本種の種小名として永らく使用されてきた *satoi* Wewalka, 1975 は, Wewalka (2020) によって表記のシノニムとされている. 渡部・加藤 (2017) はラオス産本種の飼育下における繁殖生態について報告している. 標本画像は Thailand 産.

#### 5 2. マダラシマゲンゴロウ *Hydaticus (Prodaticus) thermonectoides* Sharp, 1884

【文献記録】神戸市須磨区多井畑 [生駒, 1938]; 多井畑, 谷上 [関, 1945b]; 市島町鴨庄 [山本, 1952]; 出石町荒木 [高橋, 1965]; 神戸市山の街 [高橋, 1997]; 豊岡市日高町羽尻 [渡辺・

上田, 2024].

本州と九州(福岡県)から記録がある。兵庫県では神戸市や丹波地域, 豊岡市から記録されている。日本での最近の生息情報は小林(2013)の奈良県内での報告以降は無い。山本(1952)によると, 鴨庄村(現在の市島町)で「灯火に飛来した1頭を確認」とあり, 当時でも稀種のようなだと記述されている。筆者の経験では, 本種の生息水域は冷涼で貧栄養な止水域で, 具体的には沢水が直接流れ込む上部水田やジュンサイが繁茂する池沼などであった。このような水域では, 同時に他のゲンゴロウ類があまり見られないことが多かった。

環境省のレッドリスト(2020)では絶滅危惧ⅠA類(CR)とランクが高い。また, 兵庫県RDB(2022)ではすでに絶滅と評価されている。環境省(2023)の「種の保存法」においては, 国内希少野生動植物種にも指定されている。標本画像は京都府産。

### 5 3. コシマゲンゴロウ *Hydaticus (Prodatiscus) grammicus* (Germar, 1827)

【文献記録】神戸再度山[高橋, 1940];武庫川, 武庫村, 本山村, 甲陽園, 猪名川, 妙見山, 多井畑[関, 1945b];氷上郡[山本, 1958];川西市大和, 見野, 笹部, 猪名川町槻並, 日生ニュータウン[仲田, 1978];淡路島[堀田, 1978];宝塚市武庫川町[新家, 1988];宝塚市売布ガ丘, 玉瀬[芦田, 1993];神戸市山の街, 伊川谷前開, 多井畑, 三木市内, 吉川町, 小野市来住町, 加西市畑, 三原町八木養宣, 伊丹市昆陽池[高橋, 1997];洲本市三熊山・安平町[高橋, 1998];宍粟郡音水[高橋, 1999];多可郡中町[松尾, 2003];猪名川町杉生新田, 加古川市別府駅北池, 篠山市西浜谷, 小野市青野ヶ原, 家島町西島, 神戸市須磨区一の谷, 神戸市道場町生野, 西宮市甲東園, 川西市一庫, 川西市見野, 川西市笹部, 川西市大和, 川西市日生ニュータウン, 猪名川町槻並, 猪名川町民田, 猪名川町木間生, 宝塚市武庫川, 大屋町氷ノ山古生沼[初宿, 2011];豊岡市祥雲寺[牧田・中安, 2011];兵庫県西部[市川・大庭, 2015];姫路市北原[檀野, 2022];新温泉町七釜付近[宇野, 2023].

【標本記録】2exs., 美方郡香美町村岡区大笹, 23-VIII-2016, 脇村涼太郎採集; 2exs., 豊岡市神鍋高原, 28-VIII-2011; 2exs., 豊岡市高屋, 30-V-2017; 3exs., 養父市葛原大野峠, 14-IX-2020; 1ex., 朝来郡和田山町, 14-IX-1995, 山本勝也採集保管; 13exs., 宍粟市千種町ちくさ高原, 27-IX-1993; 1ex., 赤穂市福浦, 6-VI-2021; 1ex., 赤穂市高雄, 11-X-2014; 1ex., 赤穂市千種川河口, 11-X-2014; 4exs., 宍粟市一宮町, 6-VIII-1998; 3exs., 宍粟市波賀町上野, 18-V-2024; 18exs., 神崎郡福崎町, 16-VIII-1987; 3exs., 神崎郡大河内町砥峰高原, 29-V-1987; 1ex., 丹波篠山市福住, 23-IX-2024; 1ex., 丹波市氷上町三方, 25-VIII-2029; 4exs., 加西市青野ヶ原, 5-V-1990; 1ex., 加西市福居町, 30-IV-2018, 脇村涼太郎採集; 1ex., 姫路市家島町男鹿島, 18-VII-1989; 3exs., 姫路市の形, 27-IX-1989; 1ex., 明石

市江井島, 29-IV-1994, 山本勝也採集保管; 20exs., 三田市木器, 16-IX-1990; 3exs., 三田市下相野, 20-V-1993; 9exs., 神戸市北区長尾町宅原, 8-V-1987; 9exs., 神戸市北区藤原台, 4-IV-1994; 1ex., 神戸市西区鞆台西神中央公園, 5-VI-1992, 山本勝也採集保管; 3exs., 神戸市再度山, 20-IX-1987; 2exs., 神戸市北区有馬町水無川, 10-V-1987; 21exs., 神戸市北区八多町, 4-V-1987; 10exs., 洲本市五色町先山, 23-V-1991; 2exs., 淡路市久野々, 13-X-2025.

北海道, 本州, 四国, 九州まで広く分布し, 最近の記録や情報も多い。県内でも広く記録され, 淡路島や家島諸島からも記録されている。

### 5 4. ウスイロシマゲンゴロウ *Hydaticus (Prodatiscus) rhantoides* Sharp, 1882

【文献記録】武庫村, 瓦木村, 本山村, 垂水[関, 1945b];宝塚市武庫川町[新家, 1988];宝塚市売布ガ丘, 武庫川町[芦田, 1993];神戸市藍那, 山の街[高橋, 1997];洲本市安平町[高橋, 1998];神戸市八多[森・北山, 1993; 森・北山, 2007];神戸市大沢町, 神戸市八多町, 高砂市曾根町天満宮心池[初宿, 2011];姫路市四郷町[檀野, 2025].

【標本記録】1ex., 宍粟市引原ダム, 15-VII-1994, 山下俊一; 3exs., 神崎郡福崎町, 4-V-1987; 1ex., 姫路市大塩, 22-IX-1992; 1ex., 姫路市の形, 15-II-2004; 3exs., 三木市瑞穂, 6-V-1987; 3exs., 三田市下相野, 20-V-1993; 2exs., 西宮市すみれ台, 5-IX-1993; 1ex., 明石市, 24-V-1987; 5exs., 神戸市北区八多町, 22-III-1987; 31exs., 神戸市北区大沢町, 18-XI-1990; 1ex., 姫路市家島町男鹿島, 18-VII-1989; 1ex., 洲本市五色町, 23-V-1991; 5exs., 淡路市小倉, 10-X-2025; 7exs., 淡路市久野々, 13-X-2025.

本州西部, 四国, 九州と南西諸島に広く分布している。やや局地性を示すが, 個体数は比較的多い。県内では南部地域の記録や情報が多く, 淡路島や家島諸島からも記録されている。

### メススジゲンゴロウ族 Tribe Aciliini

日本産はオオマダラゲンゴロウの再発見により4属となるが, 兵庫県は以下の1属。

### マルガタゲンゴロウ属 Genus *Graphoderus*

日本産は2種, 兵庫県は1種。

### 5 5. マルガタゲンゴロウ *Graphoderus adamsii* (Clark, 1864)

【文献記録】神戸再度山[高橋, 1940];武庫村, 谷上, 猪名川, 伊丹[関, 1945b];昆陽池[大倉, 1955];氷上郡[山本, 1958];神戸市山の街, 養父郡氷ノ山, 武庫川, 但東町畑山, 豊岡市福田, 城崎郡松ヶ枝[高橋, 1997];篠山市西浜谷, 西宮市甲東園[林・初宿, 2003];温泉町, 篠山市西浜谷, 西宮市甲東園[初宿, 2011];豊岡市祥雲寺[牧田・中安, 2011];養父市八鹿町[泉山, 2023].

【標本記録】4exs., 美方郡新温泉町多子, 18-VIII-1992; 3exs.,

美方郡香美町村岡区祖岡, 3-IX-1994; 6exs., 豊岡市日高町神鍋高原, 7-IX-2021; 3exs., 豊岡市栴江, 7-XII-2022; 1ex., 佐用町船越, 7-VIII-2024, 日野陽輝採集保管; 2exs., 丹波篠山市幡路, 23-V-2004, 中峰 空採集保管.

北海道, 本州, 四国, 九州に分布しているが, 生息地は局地性を示す. 県内では広く記録があるが, 南部地域では最近殆ど見られなくなった. 西部地域の佐用町では最近の情報が得られ, 北部地域の豊岡市などでは現在でも比較的普通に見ることができる. また, 豊岡市では冬季間に水中の泥底で越冬する個体を確認している. 渡部 (2011) および山崎・渡部 (2019) は, 本種の産卵基質としてイボクサ, スズメノテッポウおよびコナギを報告している. 環境省のレッドリスト (2020) では絶滅危惧 II 類 (VU), 兵庫県 RDB(2022) では C ランクとして扱われている. また, 環境省 (2023) の「種の保存法」において, 特定第 2 種国内希少動植物種にも指定されている.

#### ゲンゴロウ亜科 Subfamily Cybistrinae

#### ゲンゴロウ族 Tribe Cybistrini

#### ゲンゴロウ属 Genus *Cybister*

日本産は 7 種, 兵庫県は 4 種.

#### 5 6. クロゲンゴロウ *Cybister (Melanectes) brevis* Aubé, 1838

【文献記録】Hiogo [Sharp, 1873]; 川邊郡神津村 (軍行橋) [瀧口, 1933]; 神戸市御影 [関, 1934]; 神戸再度山 [高橋, 1940]; 武庫村, 尼崎市, 多井畑, 谷上, 垂水 [関, 1945b]; 神戸市山田 [大倉, 1955]; 氷上郡 [山本, 1958]; 洲本市安平町 [堀田, 1959]; 尼崎西南部 [新家, 1991]; 神戸市二十番, 山の街, 但東町西谷, 日高町弓場 [高橋, 1997]; 村岡町祖岡 [森・北山, 1993; 森・北山, 2007]; 神戸市六甲山, 西宮市甲東園 [林・初宿, 2003]; 村岡町祖岡, 神戸市灘区六甲山, 西宮市甲東園, 津名郡東浦町〜北淡町河内〜霊前, 温泉町春來峠 [初宿, 2011]; 豊岡市祥雲寺 [牧田・中安, 2011]; 兵庫県西部 [市川・大庭, 2015].

【標本記録】10exs., 美方郡新温泉町中辻, 18-V-1991; 8exs., 新温泉町多子, 18-VIII-1992; 32exs., 美方郡香美町村岡区祖岡, 3-IX-1994; 3exs., 香美町大野峠, 22-IX-2015; 2exs., 美方郡村岡町祖岡, 2-VII-1997, 山本勝也採集保管; 2exs., 村岡町兔和野高原, 28-III-2001, 山本勝也採集保管; 5exs., 豊岡市高屋, 30-V-20-17; 1ex., 豊岡市日高町神鍋溪谷, 15-IX-2020; 3exs., 豊岡市佐野, 26-V-2025; 2exs., 養父市杉ヶ沢高原 800m, 22-X-2023; 5exs., 養父市丹戸, 16-IX-2020; 1ex., 宍粟市波賀町上野, 18-V-2024; 7exs., 赤穂郡上郡町金出地, 30-IV-1990; 1ex., 神崎郡神河町峰山高原, 28-IV-2018; 1ex., 丹波市氷上町, 22-VII-1989; 4exs., 丹波市市島町鴨庄, 7-XI-1995; 8exs., 丹波市柏原町, 31-III-1991; 1ex., 丹波市春日町日ヶ奥溪谷, 6-IX-2008; 1ex., 伊丹市軍行橋 (猪名川), 27-X-2012; 4exs.,

宝塚市西谷, 1-VIII-1991.

本州, 四国, 九州に分布している. 県内では広く記録があり, 中北部地域では現在でも比較的多く産する. 大庭 (2010) および福岡ほか (2021) は, 本種幼虫の食性および餌選択性について調査し, トンボ科幼虫などの水生昆虫類を中心に捕食していることを報告している. なお, 山本 (1952) は氷上郡における水生甲虫のリストを掲載しており, 前述のマダラシマゲンゴロウ (1頭のみ) をはじめマルガタゲンゴロウ, ゲンゴロウ, コガタノゲンゴロウ (この 3 種は普通種と記述) などを多く記録しているが, ここにクロゲンゴロウの記録は無い. この資料の大部分の種は「蛍光誘蛾灯に飛来したもの」と記述があり, やはりクロゲンゴロウの走光性が低いことを示唆している. 確かに本種や南西諸島のトビイロゲンゴロウは夜間灯火にほとんど飛来しない. 本種は環境省のレッドリスト (2020) では準絶滅危惧 (NT) とされている.

#### 5 7. コガタノゲンゴロウ *Cybister (Cybister) tripunctatus lateralis* (Fabricius, 1798)

【文献記録】神戸市御影 [関, 1934]; 神戸再度山 [高橋, 1940]; 武庫川, 武庫村, 伊丹市 [関, 1945b]; 西宮市広田山 [大倉, 1955]; 氷上郡 [山本, 1958]; 神戸市山の街, 宝塚市武庫川, 豊岡市三宅 [高橋, 1997]; 兵庫県西部 [大庭・稲谷, 2010]; 西宮市甲東園 [林・初宿, 2003]; 西宮市甲東園, 西宮市 [初宿, 2011]; 豊岡市 [杉浦, 2021]; 兵庫県 [富本, 2024]; 新温泉町 [泉山, 2024]; 養父市 [泉山, 2025].

【標本記録】2exs., 淡路市久野々, 15-VIII-2025, 三輪洵太郎採集保管.

本州, 四国, 九州および南西諸島に分布し, 特に南西諸島での個体数が多い. 県内では南部地域での記録が少しあり, しばらく途絶えていたが, 最近では Sugiura (2021) が豊岡市で, 泉山 (2024, 2025) は新温泉町と養父市から記録し, 淡路島からも採集されている. Ohba et al. (2020) は本種幼虫の採餌生態を調査し, 主にトンボ目幼虫を捕食していることを報告している. 環境省のレッドリスト (2020) では絶滅危惧 II 類 (VU), 兵庫県 RDB(2022) では A ランクとして扱われている.

#### 5 8. マルコガタノゲンゴロウ *Cybister (Cybister) lewisianus* Sharp, 1873

【文献記録】神戸市徳井, 多井畑 [関, 1945b]; 伊丹市昆陽池 [大倉, 1955]; 淡路島 [堀田, 1978]; 洲本市先山 [高橋, 1998].

本州, 九州に分布しているが, 生息地はごく限られる. 県内の記録は南部と淡路島だけである. 環境省のレッドリスト (2020) では絶滅危惧 I A 類 (CR), 兵庫県 RDB(2022) では A ランクとランクが高く, また「種の保存法」においては, 国内希少野生動植物種にも指定

され、捕獲はもちろん商取引も禁止されている。標本画像は和歌山県産。

## 5 9. ゲンゴロウ *Cybister (Cybister) chinensis* Motschulsky, 1854

【文献記録】神戸市御影 [関, 1934]; 神戸再度山 [高橋, 1940]; 神戸市山田 [大倉, 1955]; 氷上郡 [山本, 1958]; 尼崎西南部 [新家, 1991]; 神戸市山の街, 武庫村一王山, 徳井, 多井畑, 谷上, 山の街, 但東町口藤, 豊岡市堀川橋 [高橋, 1997]; 篠山市東浜谷 [林・初宿, 2003]; 温泉町, 篠山市東浜谷, 豊岡市 [初宿, 2011]; 兵庫県西部 [市川・大庭, 2015].

【標本記録】2exs., 美方郡新温泉町中辻, 18-V-1991; 4exs., 新温泉町多子, 18-VIII-1992; 6exs., 美方郡香美町村岡区祖岡, 3-IX-1994; 1ex. (上翅のみ), 養父市関宮町出合, 27-VII-1990, 北山健司採集; 1ex., 篠山市草の上, 23-V-2004, 中峰 空採集保管.

北海道, 本州, 四国, 九州に分布しているが, 現在の生息地は限られる。県内の記録のうち南部地域では現在生息している可能性はほとんどないが, 中北部では少ないながら生息が維持されている。大庭 (2010) は, 本種幼虫の食性および餌選択性について野外および飼育下で調査し, 1 齢～3 齢までは主にトンボ科幼虫などの水生昆虫類を捕食し, 3 齢ではオタマジャクシやドジョウなどの脊椎動物も捕食することを報告している。竹田 (2017) は本種の飼育で, 3 年 10～11 ヶ月生存し, 蔵卵していた事例を報告した。

本種は環境省のレッドリスト (2020) では絶滅危惧 II 類 (VU) に, 兵庫県 RDB (2022) では A ランクに選定されている。また, 環境省 (2023) の「種の保存法」において, 特定第 2 種国内希少動植物種にも指定されている。

なお, 本種の種小名とされていた *japonicus* Sharp, 1873 は, Nilsson & Petrov (2007) により表記に変更されている。本種の和名についてはゲンゴロウ科全体と区別するためか, ナミゲンゴロウ, ホンゲンゴロウあるいはオオゲンゴロウを使用する事例があるが, 本種のように学名が変更された場合に混乱の原因となる可能性がある。学名は流動的であることを前提として, 和名だけは出来るだけ安定させておきたい。

以上, 前報と併せて兵庫県産ゲンゴロウ類 59 種の記録を整理して報告した。

八木剛 (2000) は「めざせ 50 種! 兵庫県のゲンゴロウ」と題する報文を, 以前本誌に報告している。あらためて拝見すると, その内容は当時のファウナ解明の熱い想いが感じられ, 大変に懐かしいものであった。この報文では, 兵庫県産のゲンゴロウ類を八木氏自身が 2 種追加して計 48 種とし, 今後発見される可能性のある 5 種 (ナガマルチビ, シマケシ, キボシツブ, オオイチモンジシマ, シャープゲンゴロウモドキ) を課題としてあげ, めざせ 50 種と言う内容である。今回の報告で八木氏の目標値 50 種を大きく越えたことで, 十分に解明が進んだように思えるのだが, 25 年前に八木氏が提案した課題種についてはあまり達成出来ていないのである。生物相の解明とは何と難しく, また奥の深い仕事なのだろう。具体的にはナガマルチビについては古い記録が発見されただけ, またキボシツブがごく最近になって確認されたが, 残り 3 種は引き続き課題として積み残されることになった。

ただ, シャープゲンゴロウモドキについては以下のような情報があり, この機会にふれておきたい。山本勝也 (2012) は「神戸市を中心とした陸水生物の記録」を自費出版し, 神戸市周辺における過去の生物の生息情報を聞き取り調査等によって整理し, 伝聞情報として残している。ここにはコゲンゴロウモドキ *Dytiscus sharpi validus* の項があり, 故) 黒佐和義博士から山本氏に宛てた書簡による情報として, 「武庫郡本山村にあった当時の旧制甲南高等学校の生徒が校舎で拾ったものを検している」という古い伝聞内容がある。本山村は現在の神戸市東灘区であるが, 確認年代や標本の有無も不明のため今回のリストには掲載しなかった。信頼性の高い情報ではと思っている。

私の子供の頃 (1960 年代) は実家 (神戸市有馬町) 周辺の街灯で, たくさんのガムシ *Hydrophilus acuminatus* に混じってゲンゴロウやタガメも採集できた。標本は残念ながら焼失して残されていないが, 水田やため池が殆ど無い地域なので今思うと不思議な気がする。それほど, 当時はごく普通の種類だったと思える。

最後に, 標本やデータ, 資料を提供して頂いた, 日野陽輝, 市川憲平, 伊藤主計 (故人), 北山健司, 三村寛子, 三村剣義, 三輪洵太郎, 中峰 空, 岡田亮平, 下野誠之, 轟 玲弥, 辻 悠祐, 脇村涼太郎, 渡部晃平, 山本勝也, 山下俊一, 安岡拓郎の各氏, 特に有益な情報提供を頂いた八木剛氏に厚くお礼を申し上げる。また, 収蔵標本を閲覧させて頂いた大阪府立箕面公園昆虫館館長の中峰 空氏にも改めてお礼申し上げる。

# 引用文献

- 秋田勝巳・境 良明, 2022. 対馬産ニセモンキマメゲンゴロウの記録. 月刊むし, (670): 47-48.
- 秋田勝巳・木村忠睦, 2004. 御浜町でナチセスジゲンゴロウを採集. ひらくら, 48(5): 72.
- 芦田 久, 1993. コツブゲンゴロウ科, ゲンゴロウ科. 宝塚の昆虫 II, 宝塚市教育委員会.
- 檀野将平, 2022. 兵庫県姫路市南部で採集した甲虫類の記録. きべりはむし, 45(1): 3-36.
- 檀野将平, 2025. 姫路市南部における甲虫類の追加記録. きべりはむし, 48(1): 35-72.
- 福岡太一・久保星・太田真人・大庭伸也・遊磨正秀, 2021. クロゲンゴロウ幼虫の食性および餌選択性. 環動昆, 32(1): 1-7.
- 藤 富正昭, 1995. 私版 淡路の昆虫リスト (2). Parnassius, (42): 1-5.
- 藤原大貴・内船俊樹・大澤啓志, 2020. 三浦半島から採集されたニセモンキマメゲンゴロウ. 横須賀市博物館研究報告 (自然科学), (67): 33-35.
- 深川元太郎, 2012. 長崎県におけるヒコサンセスジゲンゴロウの記録. こがねむし, (77): 88.
- 萩原涼太, 2020. 愛知県でニセモンキマメゲンゴロウを採集. 月刊むし, (596): 58-59.
- 林 成多・初宿成彦, 2003. 大阪市立自然史博物館収蔵のゲンゴロウ類標本: 特に希少種および絶滅危惧種について. 大阪市立自然史博物館研究報告, (57): 11-20.
- 堀田 久, 1959. 淡路島産甲虫類目録 (2). 兵庫生物, 3(5): 376-378.
- 堀田 久, 1978. 淡路島産甲虫採集記録 (II). Parnassius, (19): 10-14.
- 兵庫県, 2023. 兵庫県版レッドリスト 2022 年版 (昆虫類). [https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/jp/environment/leg\\_240/leg\\_289/2022](https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/jp/environment/leg_240/leg_289/2022).
- 市川憲平・大庭伸也, 2015. 兵庫県西部におけるタガメとゲンゴロウが繁殖する池と水田の水生昆虫相. 環動昆, 26(3): 89-93.
- 生駒健一, 1938. マダラシマゲンゴロウの多産地. 昆虫, (12): 33.
- 一般社団法人日本昆虫学会, 2022. 日本昆虫目録 第6巻 鞘翅目 (第1部). 131pp. 権歌書房.
- 泉山真寛, 2023. 養父市八鹿町でマルガタゲンゴロウを確認. きべりはむし, 46(1): 37.
- 泉山真寛, 2024. 美方郡新温泉町でコガタノゲンゴロウを初確認. きべりはむし, 47(2): 69.
- 泉山真寛, 2025. 養父市でコガタノゲンゴロウを初記録. きべりはむし, 48(1): 141-142.
- Jiang, Z. Y., Zhao, S., Yang, Z. Y., Jia, F. L., Hájek, J., 2022. A review of *Copelatus* Erichson, 1832 of Mainland China, with description of ten new species from the japonicus complex (Coleoptera: Dytiscidae: Copelatinae). Zootaxa, 5124: 251-295.
- Jung, S. W., Min, H.K., Lee, D.H., 2020. Aquatic beetles fauna in Nohwa and Bogil Islands, and *Copelatus parallelus* (Coleoptera: Dytiscidae) and *Scirtes sobrinus* (Coleoptera: Scirtidae) new to South Korea. Animal Systematics, Evolution and Diversity, 36: 128-138.
- 環境省, 2020. 環境省レッドリストの公表について. <https://www.env.go.jp/press/107905.html>.
- 片岡義方・秋山重信・金子留美子・桜井正臣・竹川應仁・西岡 稔・平田登志子・山本由紀子・芳川雅美, 2019. 有馬富士公園の昆虫相 -2018年の昆虫調査-. きべりはむし, 42(1): 57-73.
- 茅野輝昭・成瀬健一・菊地恭司・渡部晃平, 2023. 岩手県におけるゲンゴロウ科2種の初記録. SAYABANE N. S., (49): 24-25.
- 河瀬直幹, 2009. 鈴鹿山系のナチセスジゲンゴロウの記録. Came 虫, (153): 2-3.
- 北野忠, 2012. 青森県におけるニセモンキマメゲンゴロウの記録. SAYABANE N. S., (5): 27-28.
- 木村正明, 1993. ヒコサンセスジゲンゴロウ屋久島に産す. 月刊むし, (274): 5.
- 小林 智, 2013. 奈良県でマダラシマゲンゴロウを採集. Nature Study, 59(4): 16.
- 牧田 習・中安慎太郎, 2011. 兵庫県豊岡市祥雲寺の水生昆虫. きべりはむし, 33(2): 1-3.
- 松尾隆人, 2003. 多可郡中町の自宅灯火で得た甲虫. きべりはむし, 31(1): 46-51.
- 三宅 武, 2023. 杵築市と日出町で採集した水生昆虫. 二豊のむし, (61): 67-72.
- 森 正人, 2024. 兵庫県のゲンゴロウ類目録 (1). きべりはむし, 47(2): 1-11.
- 森 正人・北山 昭, 1993. 図説日本のゲンゴロウ. 文一総合出版, 217pp.
- 森 正人・北山 昭, 2007. 改訂版図説日本のゲンゴロウ. 第2刷. 文一総合出版, 231pp.
- 中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之, 2020. 日本の水生昆虫. 文一総合出版, 351pp.
- 仲田元亮, 1978. ゲンゴロウ科. 能勢の昆虫 (1): 41-47.
- Nilsson, A. N. & P. N. Petrov, 2007. On the identify of *Cybister chinensis* Motschulsky, 1854 (Coleoptera, Dytiscidae). Koleopterologische Rundschau, (77).
- 岡田亮平・森 正人, 2025. 兵庫県からのニセモンキマメゲンゴロウの採集記録. きべりはむし, 48(2): 52-53.

- Okada R., 2011. A new species of the genus *Platambus* (Coleoptera, Dytiscidae) from Hokkaido, Japan. *Elytra* N. S., 1 (1): 31-38.
- 大庭伸也, 2010. ゲンゴロウ属幼虫の食性: オタマジャクシは重要か?. *昆虫と自然*, 45(1): 30-33.
- 大庭伸也, 2023. 西日本で増加しつつあるコガタノゲンゴロウの謎. *昆虫と自然*, 57(4): 5-14.
- 大庭伸也・稲谷吉則, 2010. 兵庫県西部と島根県東部におけるコガタノゲンゴロウの記録. *きべりはむし*, 33(1): 14-15.
- Ohba S. & S. Ogushi, 2020. Larval feeding habits of an endangered diving beetle, *Cybister tripunctatus lateralis* (Coleoptera: Dytiscidae), in its natural habitat. *環動昆*, 31(3): 95-100.
- 大貝秀雄, 2018. 兵庫県赤穂郡上郡町の住宅団地内 1 区画における昆虫相. 播磨長翅目研究センター.
- 大倉正文, 1955. ゲンゴロウ科. 原色日本昆虫図鑑(上). 甲虫編. 保育社.
- 大塚健之, 1993. 九州のゲンゴロウ科 3 種の記録. *月刊むし*, (263): 41.
- 坂本 充・秋山美文, 2001. ナチセスジゲンゴロウの広島県における記録. *月刊むし*, (386): 42.
- 佐野真吾, 2015. 神奈川県初記録のヒコサンセスジゲンゴロウ. *神奈川自然史資料*, (36): 57-58.
- 佐野真吾・本間宇, 2021. 千葉県におけるナチセスジゲンゴロウの記録. *SAYABANE N. S.*, (44): 29-30.
- 佐野真吾・矢口孝太郎, 2025. 千葉県におけるニセモンキマメゲンゴロウの初記録. *SAYABANE N. S.*, (58): 3-4.
- 笹岡康則, 2022. ヒコサンセスジゲンゴロウとナチセスジゲンゴロウの宮崎県内の混生状況. *月刊むし*, (613): 42-47.
- 佐藤福男, 2020. ニセモンキマメゲンゴロウ秋田県での記録. *月刊むし*, (598): 12-13.
- Sato M., 1985. The genus *Copelatus* of Japan (Coleoptera: Dytiscidae). *Trans. Shikoku Ent. Soc.*, 17 (1/2): 57-67.
- 関 公一, 1934. 御影町付近の甲虫目録(四). *昆虫界*, 2(7): 41-43.
- 関 公一, 1945a. 阪神地方のゲンゴロウ科. *昆虫世界*, 49(569): 30-33.
- 関 公一, 1945b. 阪神地方のゲンゴロウ科(2). *昆虫世界*, 49(570): 48-50.
- Sharp, D., 1873. The Water Beetles of Japan. *Trans. ent. Soc. London*, 1: 45-67.
- Shaverdo, H., Hájek, J., Hendrich, L., Surbakti, S., Panjaitan, R., Balke, M., 2023. *Austrelatus* gen. nov., a new genus of Australasian diving beetles (Coleoptera, Dytiscidae, Copelatinae), with the discovery of new species from New Guinea. *Zookeys*, 1170: 1-164.
- 柴田耕作・柴田昇平, 2012. ハイイロゲンゴロウの水田における生活史と潜水中の活動. *へりぐろ*, (33): 27-32.
- 新家 勝, 1988. 宝塚大橋の甲虫(その1). *きべりはむし*, 16(1): 17-19.
- 新家 勝, 1991. 尼崎西南部の昆虫(その5). *きべりはむし*, 19(2): 37.
- 初宿成彦, 2011. ゲンゴロウ上科. 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫目録(1), 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第43集.
- 菅谷和希・亀澤 洋, 2022. 千葉県におけるヒコサンセスジゲンゴロウの記録. *SAYABANE N. S.*, (46): 26-28.
- Sugiura S., 2021. Rediscovery of *Cybister tripunctatus lateralis* (Coleoptera: Dytiscidae) in northern Hyogo. *ホシザキグリーン財団研究報告*, (24): 95-96.
- 只野心優斗・相蘇 巧, 2025. 宮城県からニセモンキマメゲンゴロウの初記録. *月刊むし*, (647): 53-54.
- 高橋寿郎, 1940. 神戸再度山付近産の甲虫目録. *昆虫世界*, 44(510): 14-17.
- 高橋寿郎, 1997. 兵庫県産水棲甲虫目録(1). *きべりはむし*, 25(1): 2-30.
- 高橋寿郎, 1998. 淡路島甲虫目録(1). *Parnassius*, (47): 1-9.
- 高橋寿郎, 1999. 音水・赤西溪谷(宍粟郡)の甲虫相(1). *てんとうむし*, (13): 15-25.
- 高橋 匡, 1961. 氷上郡昆虫目録追加(第2報). *Nature*, (18): 66-74.
- 高橋 匡, 1965. 出石郡昆虫目録(第2報). *VITA*, (2): 1-16.
- 多比良嘉晃・北野 忠, 2001. 静岡県引佐市でヒコサンセスジゲンゴロウを採集. *月刊むし*, (370): 7-8.
- 竹田正義, 2017. 4 歳齢のゲンゴロウで確認された蔵卵の事例. *兵庫陸水生物*, (67/68): 68.
- Takizawa, M., 1932a. The Dytiscidae of Japan, part.I. *Ins. Mats.*, 7(1/2): 17-24.
- Takizawa, M., 1932b. The Dytiscidae of Japan, part.II. *Ins. Mats.*, 7(4): 165-179.
- 瀧口浩, 1933. 大阪附近に産する龍虱科目録. *関西昆虫学会会報*, (4): 81-83.
- 田中昭太郎・深見訓士・松野茂富, 2021. ナチセスジゲンゴロウとヒコサンセスジゲンゴロウの簡易同定法. *月刊むし*, (604): 41-46.
- 徳平拓朗・高尾海星, 2013. 加東市で採集された注目すべき昆虫. *きべりはむし*, 35(2): 24-27.

- 上田尚志, 1981. 家島群島の昆虫 (2). きべりはむし, 9(1): 9-18.
- 宇野宏樹, 2023. 兵庫県新温泉町で 2021 年に見られた昆虫類の記録. きべりはむし, 46(2): 27-31.
- 富本五郎, 2024. 2021 ~ 2023 年の採集記録. Insect 丹後・丹波, (160): 6-9.
- 渡部晃平, 2011. マルガタゲンゴロウの産卵基質を自然下で確認. ホシザキグリーン財団研究報告, (14): 59-60.
- 渡部晃平, 2022. 自然下で確認されたクロゲンゴロウの産卵基質. SAYABANE N.S., (47):17-18.
- Watanabe K., M. Hayashi & M. Kato, 2017. Immature stages and reproductive ecology of *Coperatus parallelus* Zimmermann, 1920 (Coleoptera, Dytiscidae). Elytra, 7 (2): 361-374.
- 渡部晃平・加藤雅也, 2017. 飼育下におけるスジゲンゴロウの繁殖生態. SAYABANE N.S., (25): 36-41.
- 渡部晃平・北野 忠・上手雄貴, 2017. 四国におけるゲンゴロウ科 2 種の初記録. SAYABANE N. S., (28): 19-21.
- 渡部晃平・小林成彦, 2025. 静岡県におけるニセモンキマメゲンゴロウの初記録. SAYABANE N. S., (59): 75.
- 渡辺黎也, 2019. 野外下におけるシマゲンゴロウの産卵基質. SAYABANE N. S., (36): 18-19.
- 渡辺黎也・上田尚志, 2024. 兵庫県豊岡市におけるスジゲンゴロウ・マダラシマゲンゴロウの記録及び生息環境の変遷. 環動昆, 36(2): 23-29.
- Watanabe R., S.Ohba & T. Yokoi, 2020. Feeding habits of the endangered Japanese diving beetle *Hydaticus bowringii* (Coleoptera: Dytiscidae) larvae in paddy fields and implication for its conservation. Eur. J. Entomol., (117): 430-441.
- 八木 剛・中西明德・稲畑憲昭・杉野広一・植田義輔・勝又千寿代・木全俊明・古賀督尉・高島 昭・谷口登志夫・中濱春樹・福島秀毅・水野辰彦・森脇竹男・山崎敏雄・吉田 武, 2003. 砥峰高原の昆虫相 (第一部). きべりはむし, 31(1): 7.
- 八木 剛, 2000. めざせ 50 種! 兵庫のゲンゴロウ. きべりはむし, 28(2): 39-41.
- 山本勝也, 2012. 神戸市を中心とした陸水域生物の記録. 須磨ふるさと生きものサポーター・北須磨自然観察クラブ, 99pp.
- 山本義丸, 1952. 兵庫県 (丹波国) 氷上郡より記録する水棲甲虫. Ento. Investigation., 2(1): 13-18.
- 山本義丸, 1958. 兵庫県氷上郡昆虫目録. 氷上の自然第 3 集.
- 山崎 駿・渡部晃平, 2019. 飼育下で確認されたマルガタゲンゴロウの産卵基質. SAYABANE N. S., (33): 59.
- 吉井重幸, 2012. 福島県におけるニセモンキマメゲンゴロウ. ふくしまの虫, (30): 65-66.



30. コセスジゲンゴロウ.



31. ホソセスジゲンゴロウ.



32. セスジゲンゴロウ.



33. テラニセスジゲンゴロウ.



34. カンムリセスジゲンゴロウ.



35. ナチセスジゲンゴロウ.



36. クロズマメゲンゴロウ.



37. チャイロマメゲンゴロウ.



38. マメゲンゴロウ.



39. キベリクロヒメゲンゴロウ.



40. モンキマメゲンゴロウ.



41. ニセモンキマメゲンゴロウ.



42. キベリマメゲンゴロウ .



43. サワダマメゲンゴロウ.



44. クロマメゲンゴロウ.



45. ホソクロマメゲンゴロウ.



46. コクロマメゲンゴロウ.



47. ヒメゲンゴロウ.



48. オオヒメジゲンゴロウ.



49. ハイイロゲンゴロウ.



50. シマゲンゴロウ.



51. スジゲンゴロウ.



52. マダラシマゲンゴロウ.



53. コシマゲンゴロウ.



54. ウスイロシマゲンゴロウ.



55. マルガタゲンゴロウ.



56. クロゲンゴロウ.



57. コガタノゲンゴロウ.



58. マルコガタノゲンゴロウ.



59. ゲンゴロウ.

## 兵庫県で報告の少ないツトガ科の蛾類について

高橋輝男<sup>1)</sup>・坪田 瑛<sup>2)</sup>

### はじめに

筆者らはこれまでに兵庫県で報告の少ないツトガ科(ツトガ亜科1種, ノメイガ亜科31種, ヒナタメイガ亜科1種, ミズメイガ亜科4種)を確認しているののでここに報告する。記載順序は大図鑑(井上ら, 1982)に則った。なお大図鑑未記載種についてはその亜科の下に入れた。但しトチノメイガとハクウンボクノメイガについては最近分離されたため続けて記載した。各種の採集者は大部分が高橋であるため, 坪田採集分にはのみ採集記録に坪田採集と記載した。

またシロフクロノメイガとアメリカピンクノメイガについてはすでに報告している(坪田・高橋, 2021)のでここでは割愛した。

#### 1. ミヤマエグリツトガ *Glaucobaris vermeeri*

本種は北海道, 本州, 四国, 九州および屋久島に分布する。本種は高山蛾のイメージが強いが, 朝来市生野町黒川(標高約550m)でも採集した。発生時期は7月中・下旬となっているが養父市丹戸では8月下旬に採集した。

本種は兵庫県産蛾類分布記録データベース(宇野ら, 2024)の報告でも記載がなく, 本県初記録と思われる。

【採集記録】兵庫県養父市丹戸, 24.VIII.2020. 兵庫県朝来郡生野町黒川, 27.VI.2022. 兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 1.VII.2022.

#### 2. ハナダカノメイガ *Camptomastix hisbonalis*

本種の分布域は北は北海道から南は九州, 沖縄, 先島諸島, 台湾中国に及ぶが, 本県では鉢伏山周辺の比較的高所でしか観察していない。

本県では神戸市, 養父市および丹波市で報告がある(宇野ら, 2024)。

【採集記録】兵庫県養父市丹戸, 24.VIII.2020, 18.VI.2023, 24.VI.2023. 兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 14.VI.2021, 27.VI.2021, 1.VII.2021, 20.VIII.2021, 16.IX.2023.

#### 3. ヒメハナダカノメイガ *Camptomastix septentrionalis*

本種はハナダカノメイガに似るが小型で雄の翅はハナダカノメイガほど丸みを持たず, 雌雄の差はほとんど認められない。本種の分布は本州である。ハナダカノメイガとは対照的に筆者は本県では市川町のような低地でしか観察していない。

本種は兵庫県産蛾類分布記録データベース(宇野ら, 2024)の報告でも記載がなく, 本県初記録と思われる。

【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 18.VI.2017, 17.VII.2018, 19.IX.2018, 25.IX.2018, 16.VII.2019, 27.V.2023, 12.V.2024, 26.VII.2024.

#### 4. ハネナガコブノメイガ *Cnaphalocrocis pilosa*

日本における本種の分布は関東地方以西から西表島および小笠原である。筆者が観察したのはいずれも市川町のみである。

本種は兵庫県産蛾類分布記録データベース(宇野ら, 2024)の報告でも記載がなく, 本県初記録と思われる。

【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 10.VI.2017, 20.IX.2017, 17.IX.2019.

#### 5. イノウエノメイガ *Nacoleia inouei*

本種の分布は本州である。原記載の産地は新潟県朝日村(現在は村上市)および富山県宇奈月町小黒部(現在は黒部市)で, 北方系のガである。大図鑑(井上ら1982)の解説では8月に東北から北陸の山地で採れるとなっているが, 筆者は6月下旬から10月上旬にかけて確認している。

本県では相生市および上郡町から報告されている(宇野ら, 2024)。

【採集記録】兵庫県神崎郡福崎町大貫(日光寺山), 10.VIII.2016, 12.VIII.2018, 9.X.2017. 兵庫県神崎郡福崎町田口(小滝林道), 23.VIII.2017. 兵庫県神崎郡市川町屋形, 8.VIII.2017, 24.VIII.2017, 3.IX.2017, 8.VII.2018, 29.VIII.2022. 兵庫県朝来市生野町黒川, 27.VI.2022.

<sup>1)</sup> Teruo TAKAHASHI 兵庫県神崎郡福崎町; <sup>2)</sup> Teru TSUBOTA 兵庫県神崎郡市川町

#### 6. ネモンノメイガ *Nacoleia tampiusalis*

本種は関東および北陸以西の本州から四国, 対馬, 種子島, 屋久島, 中国および東南アジアに分布するが, 局地的な分布を示す稀ならしい。

本県では西宮市, 三田市, 多可町, 養父市および香美町から報告されているようだ (宇野ら, 2024)。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 6. VIII. 2023, 1ex.

#### 7. ヒメウコンノメイガ *Pleuroptya brevipennis*

本種は本州, 九州および対馬に分布し, その出現月は5~6月と7~8月である。

本種は兵庫県産蛾類分布記録データベース (宇野ら, 2024) の報告でも記載がなく, 本県初記録と思われる。

【採集記録】兵庫県朝来市生野町黒川, 12. VIII. 2020.

#### 8. トチノメイガ *Pleuroptya harutai*

これまでオオキバラノメイガ *Pleuroptya harutai* と呼ばれていたものは, 近年の研究 (Matsui and NaKa, 2021) により2種が混同していることが明らかになり, トチノメイガ *Pleuroptya harutai* と次種のハクウンボクノメイガ *Pleuroptya crepuscularia* に分離された。

本県ではトチノメイガとしては未報告である。これは従来オオキバラノメイガとされていたものがハクウンボクノメイガかトチノメイガか判定不能のためと考えられている。筆者もこれまでにオオキバラノメイガとして保管しているものを再検討してみた結果, トチノメイガとハクウンボクノメイガの両者を確認できた。分離後のトチノメイガとしては兵庫県初記録である。

本種トチノメイガと次種ハクウンボクノメイガの明瞭な相違点はトチノメイガの前翅外横線がM2とCu2脈間で強い波状を示すがハクウンボクノメイガのそれは弱いことと, 後翅外横線の後縁付近の傾きがトチノメイガは鋭角的であるハクウンボクノメイガは後縁に対して直角に近いことである。今回提示したハクウンボクノメイガの標本は損傷が激しく前翅の特徴は分らないが後翅外横線の特徴は明瞭に観察された。

【採集記録】兵庫県養父市丹戸, 8. VIII. 2020, 1ex. 兵庫県美方郡香美町村岡区大笹 (東鉢伏高原), 30. VII. 2021, 1ex., 3. VIII. 2021, 1ex., 26. VII. 2022, 1ex., 6. VIII. 2022, 1ex.

#### 9. ハクウンボクノメイガ *Pleuroptya crepuscularia*

前項ですでに述べたが, 本種はトチノメイガと混同されていたが近年に分離された。

本県では香美町での報告がある (宇野ら, 2024)。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹 (東鉢伏高原), 12. VIII. 2023, 1ex.

#### 10. ホソオビツチイロノメイガ *Syllepte pallidinotalis*

本種の日本における分布は北海道, 九州, 四国, 屋久島, 徳之島, 沖縄諸島, 先島諸島である。6~8月に温暖地に多い。幼虫はノブドウやエビヅルを喰う。

本県では南あわじ市での報告がある (宇野ら, 2024)。

【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 19. VI. 2016, 1ex., 25. VI. 2016, 1ex., 26. VI. 2018, 1ex., 13. VIII. 2018, 1ex. 兵庫県朝来市生野町黒川, 19. VI. 2020, 1ex. 兵庫県美方郡香美町村岡区大笹 (東鉢伏高原), 6. VIII. 2022, 1ex.

#### 11. チビスカシノメイガ *Glyphodes duplicalis*

本種の分布は本州, 四国, 九州, 対馬, 沖縄諸島である。筆者は市川町のような低地でしか観ていない。

本県では上郡町および西脇市での報告がある (宇野ら, 2024)。

【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 19. VI. 2016, 1ex.

#### 12. キササゲノメイガ *Sinomphisa plagialis*

本種の日本における分布は北海道, 本州, 四国, 九州および対馬である。別名はアズサノメイガである。幼虫はノウゼンカズラ科キササゲの枝を喰う。

本県では市川町, 洲本市 (宇野ら, 2024) および上郡町 (高橋, 2025) での報告がある。

【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 23. V. 2016, 1ex., 27. V. 2018, 1ex., 18. VI. 2018, 1ex., 22. VI. 2019, 1ex., 10. VIII. 2019, 1ex. 兵庫県朝来市生野町黒川, 23. VII. 2020, 1ex., 12. VIII. 2020, 1ex., 19. VIII. 2020, 1ex.

#### 13. ヒメセスジノメイガ *Sinibotys obliquilinealis*

本種は北方系のガであるが, 7月初旬から8月中旬にかけて鉢伏山でライトトラップを行うと必ず毎回飛来する。鉢伏山では本種と同属のセスジノメイガ *Sinibotys evenoralis* の飛来はなく, 全てが本種であった。

本県では神戸市, 宍粟市, 神河町および養父市での報告がある (宇野ら, 2024)。

【採集記録】兵庫県養父市丹戸, 31. VII. 2020, 1ex., 22. VII. 2023, 1ex. 兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 1. VII. 2021, 1ex., 14. VII. 2021, 5exs., 19. VII. 2021, 3exs., 30. VII. 2021, 3exs., 3. VIII. 2021, 3exs., 8. VIII. 2021, 1ex., 15. VIII. 2021, 1ex., 7. VII. 2022, 3exs., 20. VII. 2021, 2exs., 26. VII. 2022, 1ex., 2. VIII. 2022, 1ex., 12. VIII. 2023, 2exs.

#### 14. キホソノメイガ本州以南亜種 *Circobotys heterogenalis gensanalis*

本種の前翅は非常に長く後翅は小さい。日本では本州, 四国および九州に分布する。

本県では宝塚市および養父市での報告がある (宇野ら, 2024)。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 1. VII. 2022, 1ex., 7. VII. 2022, 1ex., 20. VII. 2022, 1ex.

#### 15. ケナガチビクロノメイガ *Herpetogramma stultale*

本種の日本での分布は関東以西の本州, 九州, 屋久島, 奄美大島および徳之島である. 幼虫はワラビ科ワラビおよびオシダ科イノデ, ホシダを喰う.

本県では川西市での報告がある (宇野ら, 2024).

【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 26. VIII. 2015, 1ex., 16. VII. 2023, 1ex.

#### 16. ヘリグロノメイガ *Herpetogramma cynarale*

本種の日本での分布は本州, 四国と九州の南部, 対馬, 屋久島, 奄美大島, 沖縄本島である. 出現時期は9-10月となっているが, 11月20に生野町で行ったライトトラップに♂1頭が飛来した.

本県では南あわじ市での報告がある (宇野ら, 2024).

【採集記録】兵庫県朝来市生野町黒川, 20. XI. 2020, 1ex.

#### 17. ウスオビクロノメイガ *Herpetogramma fuscescens*

本種の日本での分布は本州, 九州, 四国, 屋久島, 奄美大島である.

本県では宝塚市および西宮市での報告がある (宇野ら, 2024).

【採集記録】兵庫県神崎郡市川町奥, 17. VII. 2011, 1ex. 兵庫県神崎郡市川町屋形, 15. VI. 2015, 1ex., 20. VIII. 25. VIII. 2019, 1ex., 11. IX. 2019, 1ex., 15. IX. 2019, 1ex., 17. IX. 2019, 1ex. 兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 28. V. 2022, 1ex.

#### 18. ウラグロシロノメイガ *Sitochroa palealis*

本種の前翅は青みがかった淡黄色で後翅は白く翅頂に黒斑を表すことが多い. 裏面には鮮やかな黒褐色の斑紋がある. 日本における分布は北海道から沖縄本島までの平地から山地の広きに及ぶが余り多産しない.

本県では神戸市, 養父市, 丹波市および多可町での報告がある (宇野ら, 2024).

【採集記録】兵庫県養父市丹戸, 16. VIII. 2020, 1ex., 12. IX. 2020, 1ex. 兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 27. VIII. 2022, 1ex., 9. IX. 2023, 1ex.

#### 19. ウスベニオオノメイガ *Uresiphita prunipennis*

日本における本種の分布は北海道, 本州, 九州, 対馬である. 稀な種とされ, 幼虫はマメ科クララを喰う.

本県では猪名川町, 西脇市, 南あわじ市 (宇野ら, 2024) およびたつの市 (高橋, 2025) での報告がある.

【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 23. VII. 2016, 1ex.

#### 20. キノメイガ *Uresiphita flavalis*

本種は北海道および関東地方から中部の山地で採れる北方系の高地草原性のガである. このガは情報が極端に少ない.

本県では養父市での報告がある (宇野ら, 2024).

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 7. VII. 2022, 1ex., 27. VIII. 2022, 1ex.

#### 21. スジマガリノメイガ *Mutuuraia terrealis*

本種は北海道および本州に分布する北方系のガである. 幼虫はアキノキリンソウを喰う.

本種は兵庫県産蛾類分布記録データベース (宇野ら, 2024) の報告でも記載がなく, 本県初記録と思われる.

【採集記録】兵庫県養父市丹戸, 16. IX. 2020, 1ex., 19. V. 2021, 1♂, 20. V. 2023, 1♂. 兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 21. VI. 2021, 1ex., 28. V. 2022, 1ex., 9. IX. 2023, 1ex., 16. IX. 2023, 1ex., 15. IX. 2024, 1ex.

#### 22. ナカミツテンノメイガ本州以南亜種 *Proteurrhynchos ocellalis ocellalis*

本種は本州, 四国, 九州に分布する. 全体に暗いが前翅中室端の淡黄紋が鮮明である. ♀は前後翅とも♂より丸みを持ち淡黄紋が拡大している.

本県では宝塚市および養父市での報告がある (宇野ら, 2024).

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 19. VII. 2021, 1ex.

#### 23. フチグロノメイガ *Paratalanta ussuralis*

日本における本種の分布は北海道, 本州, 四国および対馬である. *Paratalanta* 属にはよく似た3種がいるが, 本種は外縁の暗色帯が狭く, 一般的に外横線は他の2種より細い.

本県では神戸市, 猪名川町, 多可町および養父市での報告がある (宇野ら, 2024).

【採集記録】兵庫県養父市丹戸, 12. IX. 2020, 1ex.

#### 24. ウンモンシロノメイガ *Togabotys fuscolineatalis*

本種の分布は東北から近畿地方および四国である. 6-8月に山地で多産する. 幼虫はマンサクを喰う.

本県では養父市での報告がある (宇野ら, 2024).

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 9. VI. 2021, 1ex., 1. VII. 2021, 1ex., 14. VII. 2021, 1ex., 31. VIII. 2021, 1ex. 兵庫県朝来市生野町黒川, 4. VI. 2022, 1ex.

#### 25. ウスチャオビキノメイガ *Yezobotys dissimilis*

本種の分布は北海道南部から東北地方, 関東, 北陸および四国である. 6月と8月に出現するが少ないガである. 本種は兵庫県産蛾類分布記録データベース (宇野ら,

2024) の報告でも記載がなく, 本県初記録と思われる。

【採集記録】兵庫県神戸市川町屋形, 16. VI. 2011, 1ex., 7. VII. 2019, 1ex. 兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 9. VI. 2021, 1ex., 17. VI. 2021, 1ex., 1. VII. 2021, 2exs.

## 26. ウスヒメトガリノメイガ *Anania albeoverbasalis*

本種は北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬に分布する。関東地方などの平地では 5 月と 7 月に, 中部山地では 7 月から 8 月に採れる。

本県では香美町での報告がある (宇野ら, 2024)。

【採集記録】兵庫県朝来市生野町上生野, 21. V. 2020, 1ex.

## 27. オオワタノメイガ *Haritalodes basipunctalis*

本種は大図鑑 (井上ら, 1982) にも記載がない。以前はワタヌキノメイガと呼ばれていた。本種の分布は北海道, 本州および四国である。幼虫はアオギリを喰う。

本県では神戸市 (宇野ら, 2024) および宍粟市 (高橋, 2025) での報告がある。

【採集記録】兵庫県神戸市川町屋形, 30. IX. 2015, 1ex., 5. X. 2015, 1ex. 兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 26. VII. 2022, 1ex., 12. VIII. 2023, 1ex., 1. VII. 2021, 1ex. 兵庫県養父市丹戸, 19. VIII. 2023, 1ex.

## 28. マツノゴマダラノメイガ *Conogethes pinicolalis*

本種は大図鑑 (井上ら, 1982) にも記載がない。日本における本種の分布は北海道, 本州, 四国, 九州, 屋久島, および奄美大島である。同属のモモノゴマダラノメイガに似るが本種は黒点が大きくて滲みがある。

本種は兵庫県産蛾類分布記録データベース (宇野ら, 2024) の報告でも記載がなく, 本県初記録と思われる。

【採集記録】兵庫県神戸市川町屋形, 26. VIII. 2014, 1ex.

## 29. コモンゴマダラノメイガ *Conogethes parvipunctalis*

本種は大図鑑 (井上ら, 1982) にも記載がない。日本における本種の分布は本州, 対馬, 徳之島, 沖縄本島, 奄美大島である。

本種は兵庫県産蛾類分布記録データベース (宇野ら, 2024) の報告でも記載がなく, 本県初記録と思われる。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 16. IX. 2023, 1ex.

## 30. サザナミノメイガ *Massepha ohbai*

大図鑑 (井上ら, 1982) には記載されていない。本種の分布は本州および九州である。

本種は兵庫県産蛾類分布記録データベース (宇野ら, 2024) の報告でも記載がなく, 本県初記録と思われる。

【採集記録】兵庫県神戸市福崎町大貫, 29. VII. 2017, 1ex., 兵庫県神戸市福崎町福田, 21. VII. 2018, 1ex. 兵庫県神戸市川町屋形, 15. X. 2018, 1ex.

## 31. トガリシロアシクロノメイガ *Omiodes indistinctus*

本種は大図鑑 (井上ら, 1982) にも記載がなく, 情報が少ないガである。同属のシロアシクロノメイガによく似ているが, 前翅外横線の前縁付近の屈曲状況が異なるので外見で区別出来る。

本種は兵庫県産蛾類分布記録データベース (宇野ら, 2024) の報告でも記載がなく, 本県初記録と思われる。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 6. VIII. 2022, 1ex.

## 32. フタシロオビノメイガ *Hymenia persectalis*

本種は大図鑑 (井上ら, 1982) にも記載がない。日本における本種の分布は本州, 九州, 対馬である。移動性の激しいガで, 近年かなりのスピードで北上しているようだ。

本種は兵庫県産蛾類分布記録データベース (宇野ら, 2024) の報告でも記載がなく, 本県初記録と思われる。

【採集記録】兵庫県養父市丹戸, 25. X. 2019, 1ex. (坪田採集)。

## 33. ヒメヨツモンヒナタメイガ *Heliothela nigralbata*

本種はノメイガ亜科から新設されたヒナタメイガ亜科に移されたガで, 日本における分布は本州, 四国, 九州, 徳之島, 奄美諸島, 沖永良部島および宮古島となっている。本種の裏面には 4 つの小さな白紋がありそれが名前の由来のようだ。

本県では宝塚市および上郡町での報告がある (宇野ら, 2024)。

【採集記録】兵庫県神戸市福崎町福田, 2. VIII. 2021, 1ex. (坪田採集)。

## 34. クロスジマダラミズメイガ *Elophila miurai*

本種の分布は本州で四国からも報告されているが, 稀な種とされている。

本県では相生市および西脇市での報告がある (宇野ら, 2024)。

【採集記録】兵庫県神戸市福崎町田口, 15. VI. 2015, 1ex. 兵庫県神戸市川町屋形, 9. VIII. 2015, 1ex., 4. VIII. 2016, 1ex.

## 35. シナミズメイガ *Elophila sinicalis*

日本での本種の分布は本州, 九州および五島列島である。幼虫はトチカガミ科トチカガミやウキクサを喰う。

本県では南あわじ市 (藤平, 2002) および佐用町 (高橋, 2025) での報告がある。

【採集記録】兵庫県神戸市川町屋形, 21. VIII. 2016, 1ex. (坪田採集), 25. VIII. 2017, 1ex., 30. VIII. 2017, 1ex., 3. IX. 2017, 1ex., 31. VIII. 2019, 1ex., 5. IX. 2019, 1ex.

## 36. クロテンシロミズメイガ *Parapoynx diminutalis*

本種の日本における分布は九州, 沖縄諸島および西

表島である。成虫は9月から10月と1月に採れるとなっているが、筆者は7月中旬から9月上旬にかけて採集している。

本県では相生市、たつの市（宇野ら, 2024）および上郡町（高橋, 2025）での報告がある。

【採集記録】兵庫県神戸市川町屋形, 18. VII. 2015, 1ex., 13. VII. 2016, 1ex., 6. IX. 2016, 1ex.



図1 ミヤマエグリツトガ



図2 ハナダカノメイガ

### 37. ニセマダラミズメイガ *Elophila nigrolinealis*

本種は大図鑑（井上ら, 1982）にも記載がなく、情報が少ないガである。幼虫の食餌も不明である。マダラミズメイガに似ているが後翅の斑紋や横線の走り方が異なる。

本県では相生市での報告がある（宇野ら, 2024）。

【採集記録】兵庫県神戸郡福崎町大貫, 12. VIII. 2017, 1ex. (坪田採集)。



図3 ヒメハナダカノメイガ



図4 ハネナガコブノメイガ  
開張 19.0mm

### 引用文献

井上 寛・杉 次郎・黒子 浩・森内 茂・川辺 湛・大和田 守, 1982. 日本産蛾類大図鑑. 講談社.

宇野宏樹, 2024. 兵庫県産蛾類の外観について - 兵庫県産蛾類分布記録データベースの作成にあたって. きべりはむし, 47(2): 12-27.

宇野宏樹・池田 大・阪上 洸多, 2024. 兵庫県産蛾類分布記録データベース. [https://www.konchukan.net/moths/moths\\_of\\_hyogo.html](https://www.konchukan.net/moths/moths_of_hyogo.html) (最終閲覧: 2025 年 8 月)

高橋弘樹, 2025. 2021 年～2025 年に西播磨地域で確認した兵庫県初記録及び県内で記録の少ない蛾類について. きべりはむし, 48(1): 86-100.

坪田 瑛・高橋輝男, 2021. 2021 年の東鉢伏高原における注目すべき蛾類について. きべりはむし, 44(2): 18-24.

藤平明, 2002. 淡路島南部の蛾 (1999) の訂正と追加. PARNASSIUS, 50: 11-13.

Matsui, Y. & NaKa, H., 2021. Discovery of an unknown species closely related to *Pleuroptya harutai* (Lepidoptera, Crambidae, Spilometi naae) feeding on *Styrax obassis* (Styracaceae). Lepidoptera Science 72(3/4):49-58.



図5 イノウエノメイガ

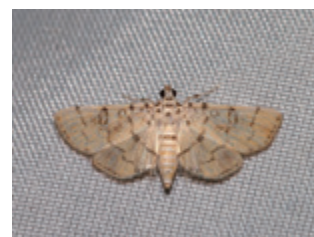


図6 ネモンノメイガ



図7 ヒメウコンノメイガ  
開張 26.0mm



図8 トチノメイガ  
開張 35.5mm



図9 ハクウンボクノメイガ  
開張 40.0mm



図10 ホソオビツチイロノメイガ  
開張 24.5mm



図11 チビスカシノメイガ



図12 キササゲノメイガ  
開張 29.5mm



図13 ヒメセスジノメイガ  
開張 25.5mm



図14 キホソノメイガ本州以南亜種  
開張 25.0mm



図 15 ケナガチビクロノメイガ  
開張 22.0mm



図 16 ヘリグロノメイガ  
開張 21.0mm



図 17 ウスオビクロノメイガ  
開張 20.5mm



図 18 ウラグロシロノメイガ  
開張 28.0mm



図 19 ウスベニオノメイガ



図 20 キノメイガ  
開張 28.0mm



図 21 スジマガリノメイガ  
開張 28.5mm



図 22 ナカミツテンノメイガ本州以  
南亜種 開張 35.5mm



図 23 フチグロノメイガ



図 24 ウンモンシロノメイガ  
開張 22.0mm



図 25 ウスチャオビキノメイガ  
開張 28.5mm



図 26 ウスヒメトガリノメイガ  
開張 23.5mm



図 27 オオワタノメイガ  
開張 30.5mm

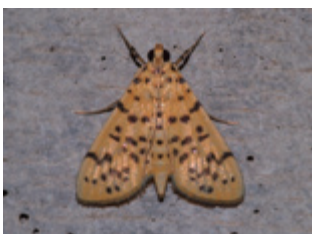


図 28 マツノゴマダラノメイガ



図 29 コモンゴマダラノメイガ  
開張 27.5mm



図 30 サザナミノメイガ



図 31 トガリシロアシクロノメイガ  
開張 27.5mm



図 32 フタシロオビノメイガ  
開張 19.0mm



図 33 ヒメヨツモンヒナタメイガ  
開張 10.0mm



図 34 クロスジマダラミズメイガ



図 35 シナミズメイガ  
開張 30.0mm



図 36 クロテンシロミズメイガ

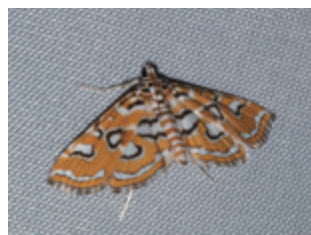


図 37 ニセマダラミズメイガ

## 兵庫県南部で撮影した県内初記録および記録の少ない蛾類

柴田 剛<sup>1)</sup>

### はじめに

兵庫県の加古川流域の自然を紹介する冊子づくりを目指して、2012 年頃から植物、野鳥、昆虫の写真撮影に取り組んできた。この冊子は、「生きている加古川」というタイトルで「NPO 法人野生生物を調査研究する会」が 2020 年 2 月に発行（非売品）し、加古川流域の全小中学校と図書館に無償配布を行った。その後も加古川流域と隣接する明石市を中心に、植物と昆虫の写真撮影を継続してきている。

2024 年に「NPO 法人こどもとむしの会」から「兵庫県産蛾類分布記録データベース（以下「データベース」と記載）」が公開され（宇野ほか, 2024）、これまで撮りためた写真を調べてみるとデータベースに未記録の種や記録市町の少ない種（データベースの記録が 4 市町以下の種）が相当数あることがわかった。そこで、写真で識別できたこれらの種について、ここに報告することとした。

### 掲載種と確認情報

#### ヒゲナガガ科

1. ウスキヒゲナガ *Nematopogon distinctus*  
小野市：小田町 25. IV. 2020.  
【データベース】神戸市、宝塚市、丹波市、南あわじ市
2. ホソフタオビヒゲナガ *Nemophora trimetrella*  
加西市：網引町 14. V. 2022.  
【データベース】西宮市

#### ヒロズコガ科

3. マエモンヒロズコガ *Dinica endochrysa*  
加西市：河内町 21. VII. 2020.  
【データベース】香美町、丹波市

#### ホソハマキモドキガ科

4. ツマキホソハマキモドキ *Lepidotarphius perornatellus*

小野市：万勝寺町（こだまの森） 10. VII. 2021.

【データベース】三田市、上郡町、丹波市、淡路島南部、南あわじ市

#### キヌバコガ科

5. ヨツモンキヌバコガ *Scythris sinensis*  
明石市：明石公園 3. VII. 2018.  
【データベース】上郡町

#### マルハキバガ科

6. カレハヒメマルハキバガ *Pseudodoxia achlyphanes*  
三木市：別所町（三木ホースランドパーク） 23. VI. 2020  
加西市：網引町 26. VI. 2024.  
明石市：明石公園 28. VI. 2025.  
【データベース】上郡町、宍粟市、香美町

#### ヒゲナガキバガ科

7. カクバネヒゲナガキバガ *Lecitholaxa thiodora*  
明石市：明石公園 9. VIII. 2022.  
加西市：網引町（網引湿原） 12. X. 2024.  
【データベース】相生市、上郡町、丹波市、南あわじ市

#### ニセマイコガ科

8. オオマイコガ *Stathmopoda stimulata*  
明石市：明石公園 25. IX. 2024.  
【データベース】香美町

#### カザリバガ科

9. クロギンスジトガリホソガ *Ressia quercidentella*  
明石市：明石公園 11. VI. 2021.  
【データベース】三田市

#### キバガ科

10. サクラキバガ *Anacamptis anisogramma*  
加西市：田原町 1. VII. 2019.  
【データベース】神戸市、宝塚市付近、上郡町、豊岡市

<sup>1)</sup> Takeshi SHIBATA 兵庫県明石市

11. ヤマモモキバガ *Thiotricha pancratiastis*  
明石市：明石公園 11. VI . 2025.  
【データベース】上郡町, 香美町, 南あわじ市

12. ウスツマスジキバガ *Dichomeris japonicella*  
明石市：明石公園 28. V . 2021 ; 26. V . 2024.  
【データベース】神戸市, 神河町, 香美町

#### スカシバガ科

13. ヒメコスカシバ *Synanthedon tenuis*  
明石市：明石公園 28. V . 2025 ; 23. VII . 2025.  
【データベース】西宮市, 上郡町, 南あわじ市

#### ハマキガ科

14. ギンボシトビハマキ *Spatalistis christophana*  
多可町：八千代区大屋 22. VI . 2020.  
【データベース】神戸市, 三田市, 宍粟市

15. イグサヒメハマキ *Bactra furfurana*  
加西市：畑町（奥池） 14. IX . 2025.  
【データベース】川西市, 上郡町, 南あわじ市

16. ツマジロクロヒメハマキ *Endothenia gentianaeana*  
宝塚市：蔵人（宝塚ゴルフ倶楽部） 26. VIII . 2024.  
明石市：明石公園 4. X . 2024 ; 26. V . 2025.  
【データベース】記録なし

17. スジオビヒメハマキ *Dactyloglyphia tonica*  
明石市：明石公園 13. VII . 2023.  
【データベース】南あわじ市

18. オオヤナギサザナミヒメハマキ *Saliciphaga caesia*  
小野市：下大部町（加古川河川敷） 16. VI . 2018.  
加東市：下久米（やしろの森公園） 15. VI . 2021.  
【データベース】相生市, 上郡町, 南あわじ市

19. カタシロムラサキヒメハマキ *Hedya iophaea*  
加西市：西剣坂町 5. X . 2024  
【データベース】南あわじ市

20. オオサザナミヒメハマキ *Hedya inornata*  
加東市下久米（やしろの森公園） 15. VI . 2021  
加西市：網引町 26. VI . 2024.  
【データベース】記録なし

21. スイカズラホソバヒメハマキ *Lobesia coccophaga*  
明石市：明石公園 6. V . 2025.  
【データベース】相生市, 上郡町, 南あわじ市

22. ヒノキカワモグリガ *Coenobiodes granitalis*  
明石市：明石公園 30. V . 2023.  
公園内のカイヅカイブキの生垣で大発生していた  
【データベース】宝塚市, 佐用町, 丹波市, 南あわじ市

23. ギンボシキヒメハマキ *Enarmonia major*  
明石市：明石公園 7. VI . 2025.  
加西市：網引町 9. VI . 2025.  
【データベース】記録なし

24. コギンボシキヒメハマキ *Enarmonia decor*  
小野市：河合西町（陸上自衛隊青野原演習場） 9. VI . 2024.  
【データベース】記録なし

25. モッコクヒメハマキ *Eucoenogenes ancyrota*  
明石市：明石公園 23. VI . 2025.  
【データベース】神戸市, 上郡町, 南あわじ市

26. ハナウドモグリガ *Epinotia majorana*  
明石市：明石公園 20. VIII . 2025.  
【データベース】神河町, 南あわじ市

27. バラシロヒメハマキ *Notocelia rosaecolana*  
明石市：明石公園 7. V . 2022.  
【データベース】上郡町, 神河町, 南あわじ市

28. スギヒメハマキ *Epiblema sugii*  
加西市：網引町 15. V . 2024.  
【データベース】記録なし

29. トビモンシロヒメハマキ *Eucosma metzneriana*  
明石市：明石公園 4. V . 2024.  
【データベース】神戸市, 西宮市, 上郡町, 南あわじ市

30. ナシヒメシンクイ *Grapholita molesta*  
明石市：明石公園 24. VI . 2025 ; 25. IX . 2025.  
【データベース】神戸市, 神河町, 宍粟市, 豊岡市

31. サンカクモンヒメハマキ *Cydia glandicolana*  
三木市：福井（三木山森林公園） 12. IX . 2020.  
【データベース】神戸市, 相生市, 上郡町, 南あわじ市

#### ハマキモドキガ科

32. コウゾハマキモドキ *Choreutis hyliogenes*  
三木市：志染町御坂（三木総合防災公園） 11. VII . 2018.  
加西市：田原町 1. VII . 2019. 網引町 28. VII . 2020.  
多可町：中区茂利 31. VIII . 2020.  
【データベース】西宮市, 丹波市

33. イヌビワハマキモドキ *Choreutis japonica*  
 明石市: 明石公園 1. VII. 2020; 2. VII. 2023; 26. V. 2024; 2.  
 VII. 2024; 8. XI. 2024; 24. XI. 2024.  
 明石公園には多い  
 【データベース】西宮市

#### ニジュウシトリバガ科

34. マダラニジュウシトリバ *Alucita spilodesma*  
 明石市: 明石公園 19. III. 2022.  
 【データベース】神戸市, 宍粟市, 上郡町, 南あわじ市

#### トリバガ科

35. トキンソウトリバ *Stenoptilodes taprobanes*  
 明石市: 明石公園 5. VII. 2023; 29. XI. 2023.  
 【データベース】相生市, 上郡町, 神戸町
36. コブドウトリバ *Nippopectia minor*  
 明石市: 明石公園 8. IX. 2021; 29. IX. 2024; 29. VIII.  
 2025.  
 【データベース】西宮市

37. ナカノホソトリバ *Fuscoptilia emarginata*  
 三木市: 福井 (三木山森林公園) 4. VII. 2020.  
 明石市: 明石公園 27. V. 2022.  
 加西市: 佐谷町 (奥池) 3. IX. 2025. 琵琶甲町 (奥野池)  
 13. IX. 2025. 下宮木町 (新池) 24. IX. 2025.  
 【データベース】宝塚市, 上郡町, 丹波市, 南あわじ市

38. モウセンゴケトリバ *Buckleria paludum*  
 小野市: 曾根町 10. IX. 2025.  
 【データベース】高砂市

39. フキトリバ *Pselnophorus vilis*  
 神戸市: 北区淡河町野瀬 (神戸青少年公園) 12. VI. 2020.  
 【データベース】宝塚市, 養父市, 豊岡市, 南あわじ市

40. ヒルガオトリバ *Emmelina argoteles*  
 加古川市: 尾上町養田 (加古川河川敷) 8. XI. 2015.  
 小野市: 黍田町 (加古川河川敷) 3. X. 2018.  
 明石市: 明石公園 21. III. 2021; 27. V. 2022; 29. II.  
 2024. 明南町 (野々池) 13. X. 2025.  
 【データベース】宝塚市, 西宮市, 川西市, 養父市

#### メイガ科

41. キモントガリメイガ *Endotricha kuznetzovi*  
 三木市: 福井 (三木山森林公園) 4. VII. 2020.  
 【データベース】高砂市, 西脇市

42. アカオビフトメイガ *Lepidogma tripartita*  
 明石市: 明石公園 30. V. 2022.  
 【データベース】相生市, 上郡町

43. キオビマダラメイガ *Etiella walsinghamella*  
 稲美町: 加古 (野村池) 2. IX. 2020.  
 加西市: 笹倉町 (宇双下池) 3. IX. 2025.  
 【データベース】記録なし

44. ヒトホシホソメイガ *Hypsotropa solipunctella*  
 明石市: 明石公園 16. VII. 2023; 30. VII. 2025.  
 【データベース】神戸市, 上郡町, 南あわじ市

#### ツトガ科

45. モンチビツトガ *Microchilo inexpectellus*  
 明石市: 明石公園 26. V. 2023.  
 【データベース】相生市, 上郡町

46. ヨシツトガ *Chilo luteellus*  
 明石市: 明石公園 11. IX. 2021.  
 【データベース】神戸町, 淡路市, 南あわじ市

47. ミドロミズメイガ *Neoschoenobia testacealis*  
 加西市: 網引町 (上池・下池) 30. IX. 2023.  
 【データベース】宝塚市, 南あわじ市

48. ウラグロシロノメイガ *Sitochroa palealis*  
 加古川市: 尾上町養田 (加古川河川敷) 31. V. 2018.  
 【データベース】神戸市, 多可町, 養父市, 丹波市

49. アメリカピンクノメイガ *Pyrausta inornatalis*  
 明石市: 太寺天王町 1. VI. 2022; 27. VI. 2024. 明石公園 4.  
 V. 2025. 明南町 (野々池) 13. X. 2025.  
 【データベース】西宮市, 高砂市, 香美町, 淡路市

50. イノウエノメイガ *Nacoleia inouei*  
 加西市: 網引町 (南網引公会堂) 15. VI. 2023. 網引町 (網  
 引湿原) 26. VI. 2024; 26. X. 2024. 畑町 31. VIII. 2025.  
 【データベース】相生市, 上郡町

51. ナイトウノメイガ *Duponchelia naitoi*  
 明石市: 明石公園 8. VIII. 2024; 5. XI. 2024.  
 【データベース】記録なし

52. スカシトガリノメイガ *Cotachena pubescens*  
 明石市: 明石公園 3. VI. 2024.  
 【データベース】姫路市, 豊岡市, 丹波市, 南あわじ市

## ツバメガ科

### 53. マルバネフタオ *Monobolodes prunaria*

小野市：福岡町（女池） 29. VIII. 2019.

【データベース】南あわじ市

## シャクガ科

### 54. ヒロバフユエダシャク *Larerrannis miracula*

明石市：明石公園 21. II. 2023; 26. II. 2024.

【データベース】神戸市, 相生市, 淡路市

### 55. クロバネフユシャク *Alsophila foedata*

三木市：福井（三木山森林公園） 15. I. 2021.

明石市：人丸町（人丸山） 27. I. 2021. 明石公園 15. I. 2022; 27. I. 2022; 20. I. 2023; 29. I. 2024 2. II. 2024.

【データベース】相生市, 上郡町, 福崎町

### 56. コガタヒメアオシャク *Jodis orientalis*

加古川市：尾上町池田 29. V. 2019.

高砂市：高砂町向島町（加古川河川敷） 29. IX. 2020.

【データベース】記録なし

### 57. ヘリグロヒメアオシャク *Hemithea tritonaria*

明石市：明石公園 17. V. 2022.

【データベース】神戸市, 芦屋市, 相生市, 南あわじ市

### 58. クロモンウスチャヒメシャク *Perixera absconditaria*

明石市：明石公園 2. VII. 2021.

【データベース】宝塚市, 相生市, 上郡町, 南あわじ市

### 59. ナガサキヒメシャク *Scopula plumbearia*

加西市：網引町 15. V. 2024.

【データベース】相生市, 南あわじ市

### 60. ルリオビナミシャク *Acasis viretata*

明石市：明石公園 2. V. 2021; 16. V. 2021.

【データベース】宍粟市, 養父市, 南あわじ市

### 61. アヤコバネナミシャク *Acasis bellaria*

明石市：明石公園 22. IV. 2025.

【データベース】宍粟市, 南あわじ市

### 62. イチモジフユナミシャク *Operophtera rectipostmediana*

明石市：明石公園 29. XII. 2024.

【データベース】神戸市, 相生市, 上郡町

### 63. ナナスジナミシャク *Venusia phasma*

明石市：大明石町（明石駅北側） 1. X. 2022.

【データベース】神戸市, 宍粟市, 佐用町, 養父市

### 64. ケブカチビナミシャク *Gymnoscelis esakii*

明石市：明石公園 25. XII. 2021.

【データベース】西宮市, 上郡町, 丹波市, 南あわじ市

### 65. ハラアカウスアオナミシャク *Pasiphila obscura*

神戸市：西区伊川谷町潤和（赤羽神社） 8. V. 2023.

明石市：明石公園 10. V. 2023.

【データベース】上郡町, 養父市

## ヒトリガ科

### 66. クロスジチビコケガ *Stictane rectilinea*

加西市：西剣坂町 5. X. 2024.

【データベース】相生市, 上郡町, 南あわじ市

### 67. スカシコケガ *Nudaria ranruna*

多可町：中区牧野（北播磨余暇村公園） 24. VI. 2021.

【データベース】宝塚市, 三田市, 相生市

### 68. ウスバフタホシコケガ *Schistophleps bipuncta*

明石市：明石公園 25. VII. 2023.

【データベース】宝塚市, 相生市, 上郡町, 南あわじ市

## コブガ科

### 69. フタモンコブガ *Nola exumbrata*

明石市：明石公園 1. VII. 2021; 21. IV. 2025.

【データベース】相生市, 上郡町

### 70. イナヅマコブガ *Meganola triangularis*

明石市：明石公園 26. VIII. 2021; 21. IV. 2023; 22. VII. 2024.

【データベース】相生市, 上郡町

## ヤガ科

### 71. ウラジロアツバ *Hypetrocon violacealis*

加西市：網引町 14. VI. 2021.

【データベース】西宮市, 上郡町, 西脇市, 南あわじ市

### 72. ナカグロクチバ *Grammodes geometrica*

加古川市：尾上町養田（加古川河川敷） 11. VI. 2017.

小野市：黍田町（加古川河川敷） 11. X. 2017.

明石市：明石公園 29. IX. 2022. 大久保町八木（八木海岸） 17. X. 2024.

加西市：網引町 14. VII. 2025. 笹倉町（宇双下池） 3. IX. 2025.

【データベース】神戸市, 三田市, たつの市, 南あわじ市

73. ムラサキヒメクチバ *Mecodina subviolacea*  
 明石市：明石公園 18. V. 2022.  
 【データベース】西宮市，相生市，丹波市，南あわじ市

74. アミメギンウワバ *Thysanoplusia daubei*  
 明石市：明石公園 11. X. 2023.  
 【データベース】神戸市，三田市，西脇市

75. イラクサギンウワバ *Trichoplusia ni*  
 明石市：太寺天王町 25. IV. 2021. 明石公園 8. VI. 2021.  
 【データベース】宝塚市，淡路市，南あわじ市

76. ウスサビイロヤガ *Amyna sugiorum*  
 明石市：明石公園 22. IV. 2024.  
 【データベース】相生市

77. フタイロコヤガ *Acontia bicolora*  
 明石市：明石公園 1. X. 2023；10. VIII. 2025；22. VIII. 2025.  
 【データベース】宝塚市，佐用町，丹波市，南あわじ市

78. ツメクサガ *Heliothis maritima*  
 加東市：野村（加古川河川敷） 23. IV. 2016.  
 【データベース】宝塚市，猪名川町，南あわじ市

79. クシナシスジキリヨトウ *Spodoptera cilium*  
 明石市：明石公園 5. XI. 2024；13. XI. 2024.  
 【データベース】芦屋市，淡路島南部，南あわじ市

## 引用文献

宇野宏樹・池田 大・阪上洸多，2024. 兵庫県産蛾類  
 分布記録データベース. [https://www. konchukan.  
 net/moths/moths\\_of\\_hyogo. html](https://www.konchukan.net/moths/moths_of_hyogo.html)（参照 2025 年  
 10 月 2 日）.



図 1. ウスキゲナガ  
 2020-4-25 小野市



図 2. ホソフタオビヒゲナガ  
 2022-5-14 加西市



図 3. マエモンヒロズコガ  
 2020-7-21 加西市



図 4. ツマキホソハマキモドキ  
 2021-7-10 小野市



図 5. ヨツモンキヌバコガ  
 2018-7-3 明石市



図 6. カレハヒメマルハキバガ  
 2024-6-26 加西市



図 7. カクバネヒゲナガキバガ  
 2024-10-12 加西市



図 8. オオマイコガ  
 2024-9-25 明石市



図 9. クロギンスジタガリホソガ  
 2021-6-11 明石市



図 10. サクラキバガ  
 2019-7-1 加西市



図 11. ヤマモモキバガ  
 2025-6-11 明石市



図 12. ウスツマスジキバガ  
 2024-5-26 明石市



図 13. ヒメコスカシバ  
2025-5-28 明石市



図 14. ギンボシトビハマキ  
2020-6-22 多可町



図 15. イグサヒメハマキ  
2025-9-14 加西市



図 16. ツマジロクロヒメハマキ  
2024-10-4 明石市



図 17. スジオビヒメハマキ  
2023-7-13 明石市



図 18. オオヤナギサザナミヒメハマキ  
2018-6-16 小野市



図 19. カタシロムラサキヒメハマキ  
2024-10-12 加西市



図 20. オオサザナミヒメハマキ  
2024-6-26 加西市



図 21. スイカズラホソバヒメハマキ  
2025-5-6 明石市



図 22. ヒノキカワモグリガ  
2023-5-30 明石市



図 23. ギンボシキヒメハマキ  
2025-6-9 加西市



図 24. コギンボシキヒメハマキ  
2024-6-9 小野市



図 25. モッコクヒメハマキ  
2025-6-23 明石市



図 26. ハナウドモグリガ  
2025-8-20 明石市



図 27. バラシロヒメハマキ  
2022-5-7 明石市



図 28. スギヒメハマキ  
2024-5-15 加西市



図 29. トビモンシロヒメハマキ  
2024-5-4 明石市



図 30. ナシヒメシンクイ  
2025-6-24 明石市



図 31. サンカクモンヒメハマキ  
2020-9-12 三木市



図 32. コウゾハマキモドキ  
2020-7-28 加西市



図 33. イヌビワハマキモドキ  
2024-11-8 明石市



図 34. マダラニジュウシトリバ  
2022-3-19 明石市



図 35. トキンソウトリバ  
2024-11-3 明石市



図 36. コブドウトリバ  
2025-8-29 明石市



図 37. ナカノホソトリバ  
2025-9-3 加西市



38. モウセンゴケトリバ  
2025-9-10 小野市



図 39. フキトリバ  
2020-6-12 神戸市



図 40. ヒルガオトリバ  
2015-11-8 加古川市



図 41. キモントガリメイガ  
2020-7-4 三木市

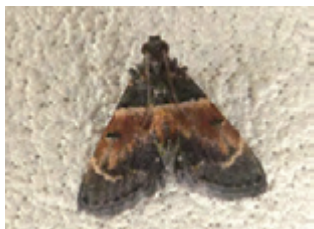


図 42. アカオビフトメイガ  
2022-5-30 明石市

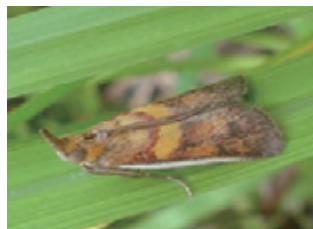


図 43. キオビマダラメイガ  
2025-9-3 加西市



図 44. ヒトホシホソメイガ  
2025-7-30 明石市



図 45. モンチビツトガ  
2023-7-14 明石市



図 46. ヨシツトガ  
2021-9-11 明石市



図 47. ミドロミズメイガ  
2023-9-30 加西市

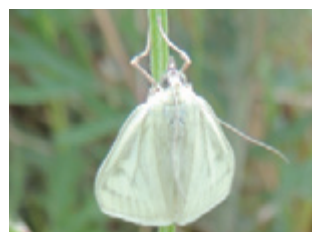


図 48. ウラグロシロノメイガ  
2018-5-31 加古川市

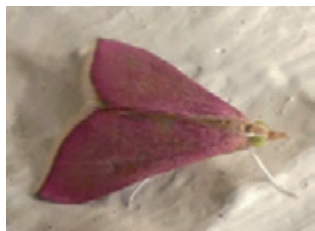


図 49. アメリカピンクノメイガ  
2022-6-1 明石市



図 50. イノウエノメイガ  
2024-10-26 加西市



図 51. ナイトウノメイガ  
2024-11-5 明石市



図 52. スカシトガリノメイガ  
2024-6-3 明石市



図 53. マルバネフタオ  
2019-8-29 小野市



図 54. ヒロバフユエダシャク  
2023-1-20 明石市



図 55. クロバネフユシャク  
2023-2-21 明石市



図 56. コガタヒメアオシャク  
2020-9-29 高砂市



図 57. ヘリグロヒメアオシャク  
2022-5-17 明石市



図 58. クロモンウスチャヒメシャク  
2021-7-2 明石市



図 59. ナガサキヒメシャク  
2024-5-15 加西市



図 60. ルリオビナミシャク  
2021-5-2 明石市



図 61. アヤコバネナミシャク  
2025-4-22 明石市



図 62. イチモジフユナミシャク  
2024-12-29 明石市



図 63. ナナスジナミシャク  
2022-10-1 明石市



図 64. ケブカチビナミシャク  
2021-12-25 明石市



図 65. ハラアカウスアオナミシャク  
2023-5-10 明石市



図 66. クロスジチビコケガ  
2024-10-5 加西市



図 67. スカシコケガ  
2021-6-24 多可町

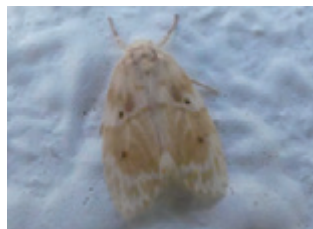


図 68. ウスバフタホシコケガ  
2023-7-25 明石市



図 69. フタモンコブガ  
2025-4-21 明石市



図 70. イナズマコブガ  
2023-4-21 明石市



図 71. ウラジロアツバ  
2021-6-14 加西市



図 72. ナカグロクチバ  
2017-6-11 加古川市



図 73. ムラサキヒメクチバ  
2022-5-18 明石市



図 74. アミメギンウワバ  
2023-10-11 明石市



図 75. イラクサギンウワバ  
2021-4-25 明石市



図 76. ウスサビイロヤガ  
2024-4-22 明石市



図 77. フタイロコヤガ  
2025-8-22 明石市

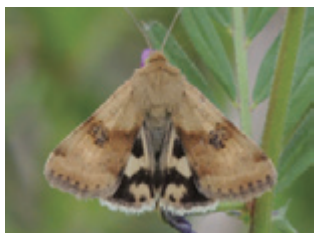


図 78. ツメクサガ  
2016-4-23 加東市



図 79. クシナシスジキリヨトウ  
2024-11-5 明石市

## 兵庫県西播磨地域で確認した県内初記録及び記録の少ない蛾類について (1)

高橋弘樹<sup>1)</sup>

### はじめに

筆者は2021年以降、兵庫県西播磨地域（相生市、たつの市、赤穂市、宍粟市、太子町、上郡町、佐用町）での蛾類の調査を行っており、地域内で採集・撮影した種の一部を高橋（2025）で報告した。

その後の調査で新たに撮影・採集できた種及び以前に採集・撮影していた種のうち、兵庫県内において初記録とみられる種、記録の少ない種、記録された地点は少ないものの発見地の近隣で未記録の種について新たに報告する。

兵庫県内に記録はあるが播磨地域全域で初記録の種には○を、西播磨地域で初記録の種には☆を種名の右に付した。採集・撮影者は特記したものを除き全て筆者であるため記載を省略している。

### 各種資料

兵庫県において初記録とみられる種

#### ニセマイコガ科

##### 1. シロテクロマイコガ *Atrijuglans hetaohei* 図1

1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 29. VIII. 2025.

標高約1000m地点でのライトトラップに飛来した。複眼は赤色、胸部および前翅は黒色。国内分布は北海道、本州、四国、九州、奄美大島、西表島。幼虫はクルミの果実を摂食する害虫として知られ、マタタビにおいては果実の虫こぶに食入することが報告されている（広渡ほか, 2013）。

#### ヒラタマルハキバガ科

##### 2. マエジロヒラタマルハキバガ *Depressaria taciturna* 図2

1♂, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 15. X. 2025.

前種と同じ地点でのライトトラップに飛来した。国内では北海道、本州、国外では朝鮮半島南部、ロシア南東部、ヒマラヤ山脈周辺に分布する。寄主植物はミズナラで、成虫は3～4月と7～11月に得られている（広渡ほか, 2013）。

#### ハマキガ科

##### 3. ウツギアミメハマキ *Acleris exsucana* 図3

1♂ 1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 15. X. 2025.

前々種と同じ地点でのライトトラップに飛来した。国内では北海道から九州にかけて分布し、成虫は5～11月に記録がある。寄主植物はマルバウツギ、オオカメノキ、カンボク（那須ほか, 2013）である。

##### 4. マエモンシロハマキ *Acleris lacordairana* 図4

1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 12. X. 2025.

ライトトラップに越冬型の個体が飛来した。国内では北海道、本州、佐渡島、四国、九州に分布し、ウリハダカエデを寄主とする。季節型があり、夏型は6～9月、越冬型は10～11月および3～5月まで記録がある（那須ほか, 2013）。

なお、筆者は養父市でも本種を確認しているので併せて報告する。1ex., 養父市奈良尾 氷ノ山国際スキー場, 4. XI. 2023.

##### 5. ニセウスキシロヒメハマキ *Gibberifera hepaticana* 図5

1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 20. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した。頭部は暗褐色。前翅基部は黒褐色、後半部はより褐色をおびた黒色である。肛角手前と中室末端に黒褐色紋をもつ（那須, 2021）。

##### 6. クロゲハイロヒメハマキ *Spilonota melanocopa* 図6

1♂, たつの市御津町碓岩 みはらしの森, 3. VIII. 2025.

海岸から2km程度離れた丘陵の山裾でのライトトラップに飛来した。雌雄で斑紋が異なり、♂の前翅は大きな前縁ひだをもち、灰色で、中央部に暗褐色線と翅頂部に外縁に沿った褐色線をもつ。♀は灰色で、多数の褐色点をもち、肛角が暗褐色、翅頂の外縁に褐色線をもつ。寄主植物はスダジイ、ツブラジイ、イスノキ（那須, 2021）。みはらしの森の里山整備に関わっておられる田中義則氏と茂見節子氏によると、これらのうちスダジイは同地の山中で確認できているとのことである。

##### 7. セクロモンヒメハマキ *Epinotia rasdolnynana* 図7

1♂, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 15. X. 2025. : 1♀, 同地, 1. XI. 2025.

ライトトラップに飛来した。国内分布は北海道、本州、四国、九州で、成虫発生時期は8～11月。寄主植物は日本では未知

<sup>1)</sup> Hiroki TAKAHASHI 兵庫県相生市

だが、ロシアではカエデ属（那須，2021）を摂食することが報告されている。

### メイガ科

#### 8. シロマダラメイガ *Euzopherodes oberleae* 図 8

1ex., たつの市新宮町光都, 13. VIII. 2025.

貯水池周辺でのライトトラップに飛来した。国内では北海道、国後島、本州、四国、九州、対馬に分布する。本州では年2化で、成虫は6～8月に、山地から亜高山帯まで見られるがあまり多くない。九州では5月に平地で得られている（那須ほか，2013）。

### ツトガ科

#### 9. マツノゴマダラノメイガ *Conogethes pinicolalis* 図 9

1♀, 佐用町船越, 23. VIII. 2025.

佐用町昆虫館の事業「昆虫学園中等部」の一環として瑠璃寺仁王門横の高台に設置したライトトラップに飛来した。モモノゴマダラノメイガに酷似するが、ラビアル・パルプスの第2節側

面が広く黒褐色であること、前・後翅にある黒点がやや大きく明瞭なこと、特に後翅の外横線に相当する点列は連続的になることなどで区別される。幼虫は針葉樹（マツ）の枝にトンネル状の巣をつくってその中にすみ、葉を食害するが、球果にも食入する（那須ほか，2013）。

### カギバガ科

#### 10. ヒメウスベニトガリバ *Habrosyne aurorina* 図 10

1ex., 佐用町船越, 23. VIII. 2025.

前種と同日、瑠璃寺仁王門横の高台に設置したライトトラップに飛来した。飛来確認直後、筆者を含めたスタッフが次々に撮影を行い、その後採集を試みたが飛び去ってしまった。全国的に広く分布し、平地から山地までごく普通（岸田，2011a）とされるが、兵庫県ではこれまで未記録だった。高島昭氏は大阪府箕面公園での採集記録を根拠に、本種を今後兵庫県で採集される可能性のある種の一つとしていた（高島，1999b）。

#### 11. ウスムラサキトガリバ *Epipsestis nigropunctata* 図 11

1♂ 1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 12. X. 2025. : 1♀ 1ex., 同地, 15. X. 2025.

標高約 1000m 地点でのライトトラップに飛来した。国内では北海道、本州、四国に分布する。年1化で秋に出現。寄主植物は未知である（岸田，2011a）。高島（1999b）は本種について「兵庫県からは今のところ記録は見つけれないが、分布域に入っており調査すれば見つかるものと思われる。」としていた。



図1 シロテンクロマイコガ, 宍粟市, 2025/8/29



図2 マエジロヒラタマルハキバガ, 宍粟市, 2025/10/15



図3 ウツギアミメハマキ, 宍粟市, 2025/10/15



図4 マエモンシロハマキ, 宍粟市, 2025/10/12



図5 ニセウスキシロヒメハマキ, 宍粟市, 2025/8/20



図6 クロゲハイロヒメハマキ♂と交尾器, たつの市, 2025/8/3



図7 セクロモンヒメハマキ, 宍粟市, 2025/10/15



図8 シロマダラメイガ, たつの市, 2025/8/13



図9 マツノゴマダラノメイガ, 佐用町, 2025/8/23



図10 ヒメウスベニトガリバ, 佐用町, 2025/8/23



図11 ウスムラサキトガリバ, 宍粟市, 2025/10/12



図12 ミナミクロモンアオチャク, 相生市, 2023/7/17



図13 マダラカバスジナミチャク♂と交尾器, 佐用町, 2025/5/3



図14 カバイロコブガ, 宍粟市, 2025/8/29

## シャクガ科

12. ミナミクロモンアオシャク *Comibaena subdelicata*

図 12

1 ♂, 相生市矢野町瓜生 羅漢の里, 17. VII. 2023. : 1 ♂, 上郡町金出地, 28. V. 2025. : 2 ♂, 佐用町船越 佐用町昆虫館, 18-19. X. 2025.

いずれもライトトラップに飛来した。クロモンアオシャクに似るが前翅後角と後翅頂の紋は濃色になる。特に前翅後角の紋はやや小さく暗色。後翅頂の紋はより大きく黒紫色になる。後翅外縁に並行して白線が生じる(岸田, 2011a)。同書発行時点での国内分布は四国, 九州, 屋久島となっていたが, 2024 年に広島県で撮影されたとされる画像がウェブ上で公開されている。

13. マダラカバズジナミシャク *Eupithecia tantilloides* 図 13

1 ♂, 佐用町船越, 3. V. 2025

瑠璃寺仁王門横の高台に設置したライトトラップに飛来したものを採集し, 検鏡した。♂交尾器のサクルスの先端は三角形に大きく突出する。♀交尾器のコルプス・ブルサエは長く, 尾方で曲がる。年 1 化。山地で 4 ~ 6 月に出現する(岸田, 2011a)。

## コブガ科

14. カバイロコブガ *Nola aerugula* 図 14

3exs., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 29. VIII. 2025.

標高約 1000m 地点でのライトトラップに飛来した。幼虫はミズナラ, カバノキ属, キイチゴ属など各種の樹木につく(岸田, 2011b)。同書は「北海道, 利尻島, 国後島, 本州(愛知県以北), 新潟県粟島に分布し, 本州西部や四国からは得られていないが, 九州では阿蘇山で 1 ♂の採集例がある」とするが, 2000 年に山口県上関町長島で記録されている(神保, 2001)。

兵庫県で記録の少ない種及び発見地の近隣で未記録の種

## ヒラタマルハキバガ科

15. モンシロヒラタマルハキバガ *Agonopterix costamaculella* 図 15

1ex., 佐用町船越 佐用町昆虫館, 23. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した。普通種とされ, 識別も容易であるが兵庫県内での記録はあまり多くない。宇野ほか(2024)での記録は相生市・朝来市付近・丹波市となっている。

## オビマルハキバガ科

16. カタキオビマルハキバガ *Deuterogonia chionoxantha* ○ 図 16

1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 20. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した。広渡ほか(2013)には寄主植物として, イヌシデとブナの枯れた樹皮や材部とそれに生じた菌類, ソメイヨシノの枝に発生したチャノカイガラダケとその枯

れた樹皮と材部が挙げられている。兵庫県内での記録は香美町ハチ北高原(阪上ほか, 2020)のみである。

## ヒゲナガキバガ科

17. フタテンハビロキバガ *Scythropiodes malivora* 図 17

1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 29. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した。兵庫県内の記録は相生市羅漢の里(高橋, 2023)のみである。

## エグリキバガ科

18. ネズミエグリキバガ *Acria ceramitis* 図 18

1ex., たつの市御津町礎岩 みはらしの森, 3. VIII. 2025. : 1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 29. VIII. 2025. : 2exs., 同地, 19. IX. 2025. : 1 ♂ 1ex., 同地, 12. X. 2025.

ライトトラップに飛来した。神戸市・宝塚市・相生市・神河町・南あわじ市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

19. シロモンクロキバガ *Aroga mesostrepta* 図 19

1ex., たつの市新宮町牧 牧運動公園, 23. IV. 2025. : 1ex., 上郡町金出地, 2. V. 2025.

ライトトラップに飛来した。国内では北海道, 本州に分布し, 成虫は 5 月中旬 ~ 6 月下旬に得られている(広渡ほか, 2013)。宝塚市・川西市・相生市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

## ハマキガ科

20. セウスイロハマキ *Acleris enitescens* 図 20

1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 12. X. 2025. : 1ex., 佐用町船越 佐用町昆虫館, 18-19. X. 2025..

ライトトラップに飛来した。平地から山地まで, 林縁や路傍などで見られる(那須ほか, 2013)とされるが, 兵庫県内で発表されている記録は上郡町・淡路市・洲本市(宇野ほか, 2024)のみである。

21. ナカジロハマキ *Acleris japonica* 図 21

1 ♂, たつの市新宮町光都, 13. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した。姫路市(宇野ほか, 2024), 宍粟市, 佐用町(高橋, 2025)で記録されている。

22. ブドウホソハマキ *Eupoecilia ambiguella* 図 22

1ex., 宍粟市波賀町鹿伏, 17. IX. 2023. : 1ex., たつの市新宮町光都, 17. IV. 2024. : 1ex., 上郡町金出地, 20. VI. 2025. : 1 ♂ 1 ♀, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 29. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した。ヨーロッパでは 2 化の幼虫はブドウの果実を食べる重要害虫として知られるが, 日本ではブドウでの発生はほとんど知られていない(那須ほか, 2013)。宇野ほか(2024)での記録は相生市・神河町・香美町・淡路島・南あわじ市となっている。

23. アカオビホソハマキ *Eupoecilia kobeana* 図 23

1ex., 上郡町金出地, 18. VII. 2025. : 1ex., 佐用町船越, 23. VIII. 2025. : 1ex., 同地, 18. X. 2025.

ライトトラップに飛来した. 神戸市・相生市・洲本市で記録されている (宇野ほか, 2024).

24. アカトビハマキ *Pandemis cinnamomeana* ☆ 図 24

1 ♂, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 29. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した. ♂の頭部は白色. 低地から山地の森林帯で見られるが、特に山地ではごく普通 (那須ほか, 2013) とされる. 神戸市・神戸町・養父市・丹波市で記録されている (宇野ほか, 2024).

25. イグサヒメハマキ *Bactra furfurana* 図 25

1ex., 相生市矢野町瓜生 羅漢の里, 6. IX. 2023. : 1 ♀, たつの市御津町碓岩 みはらしの森, 7. X. 2025.

外灯に飛来していた. 前翅は褐色がかかった灰色で, 基部はやや褐色, 翅全体に褐色波線をもつが, 色彩および斑紋とも変化に富む. 幼虫はイグサの主要害虫として知られる (那須, 2022). 川西市・上郡町・南あわじ市で記録されている (宇野ほか, 2024).

26. フタボシヒメハマキ *Ancylis selenana* 図 26

1ex., 佐用町船越 佐用町昆虫館, 24. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した. 兵庫県内では相生市羅漢の里 (高橋, 2023) のみで記録されている.

27. ニセハギカギバヒメハマキ *Semnostola magnifica*

○ 図 27

1ex., 宍粟市波賀町鹿伏, 5. VII. 2025.

水辺でのライトトラップに飛来した. 成虫は6~8月に採れており, ヤチダモ (モクセイ科) 自生地に産する (那須, 2022) とのことだが, ヤチダモの分布は北海道~中部地方の冷温帯 (林, 2014) であり, 当地は域外であるため近縁種を利用している可能性が考えられる. 兵庫県内では養父市のみで記録されている (宇野ほか, 2024).

28. マツズアカシムシ *Retinia cristata* ○ 図 28

1ex., 宍粟市千種町河内 三室高原, 5. V. 2025.

ライトトラップに飛来した. 幼虫はマツの新梢や球果に潜る (那須, 2021). 宝塚市・南あわじ市で記録されている (宇野ほか, 2024).

29. ヤマモモヒメハマキ *Eudemis gyrotis* 図 29

1ex., たつの市御津町碓岩 みはらしの森, 3. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した. 前翅の地色が茶褐色で, やや暗色の斑紋が明瞭な夏型および全体が暗褐色で, 後縁部に白っぽい波状紋をもつ秋型の2型がある (那須, 2024). 川西市・上郡

町・南あわじ市で記録されている.

30. クローバヒメハマキ *Olethreutes doubledayana* 図 30

1 ♀, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 19. IX. 2025. : 1 ♂, 佐用町東徳久, 2. X. 2025.

宍粟市ではライトトラップ, 佐用町では外灯に飛来したものを採集し検鏡した. 前翅長は前者が7mm, 後者が5mmだった. 日本ではシロツメクサの新芽や新葉を綴り, 害虫として知られる (那須, 2024). 兵庫県内の記録は上郡町高田台 (大貝, 2018) のみである.

31. オオセシロヒメハマキ *Rhopobota ilexi* 図 31

1 ♂, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 1. X. 2025.

ライトトラップに飛来した. 幼虫はソヨゴなどのモチノキ科植物の葉を綴る. 神戸市・相生市で記録されている (宇野ほか, 2024).

ハマキモドキガ科

32. イヌビワハマキモドキ *Choreutis japonica*

○ 図 32 ~ 34

1 ♀ 15exs. 以上, 上郡町光都 兵庫県西播磨総合庁舎内, 23. VII. 2025.

筆者は兵庫県西播磨総合庁舎の外壁で2024年6月1日と2025年7月18日に成虫各1頭を発見したが採集も撮影もできなかった. その後2025年7月下旬に庁舎内のコンコースに生えている樹高約4m, 根際の幹回り33cmのイヌビワの葉先及び葉裏で幼虫 (図32), 繭, 繭殻 (図33) を多数発見し, 7月23日に繭を作っている終齢幼虫を1頭, 同25日には終齢幼虫2頭を持ち帰って飼育した. 前者は7月31日に羽化 (図34), 後者のうち1頭は27日に繭を作り, 8月3日に羽化した. 幼虫は葉を巻いて1~数頭で生活していたが非常に俊敏で, 刺激を与えるとたちまち巣や繭から脱出して落下するため採集の際には注意を要する. 羽化殻は繭の外側に付着する. 兵庫県内の記録は西宮市のみである (宇野ほか, 2024).

メイガ科

33. ニシキシマメイガ *Mimicia pseudolibatrix* 図 35

1ex., 上郡町金出地, 18. VII. 2025.

ライトトラップに飛来した. 香美町 (阪上ほか, 2020), 宍粟市 (高橋, 2025) で記録されている.

34. ヒメアカシマメイガ *Bostra nanalis* 図 36

1ex., たつの市御津町碓岩 みはらしの森, 16. VII. 2025.

ライトトラップに飛来した. 7~9月に平地から山地まで見られるが少ない (那須ほか, 2013) とされる. 神戸市・宝塚市・川西市・西脇市・明石市・佐用町・淡路市・南あわじ市で記録されている (宇野ほか, 2024).

35. キガシラシマメイガ *Trebania flavifrontalis* ○ 図 37  
1ex., 佐用町船越, 28. VI. 2025.

瑠璃寺仁王門横の高台でのライトトラップに飛来した。国内では本州, 四国, 九州, 対馬に分布する。6 ~ 8 月に平地, 低山地で見られるが, きわめてまれ(那須ほか, 2013)とされる。養父市・丹波市・南あわじ市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

36. ツマグロフトメイガ *Noctuidea melanophia* ☆ 図 38  
1 ♂, 上郡町金出地, 20. VI. 2025.: 5exs. 以上, 佐用町船越, 23. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した。宇野ほか(2024)での記録は西脇市・養父市付近・南あわじ市となっている。

37. ネグロフトメイガ *Stericta kogii* ○ 図 39  
1ex., 宍粟市波賀町鹿伏, 3. VII. 2024.

ライトトラップに飛来した。宇野ほか(2024)での記録は宝塚市・朝来市付近・養父市付近・南あわじ市となっている。

38. ウスアカモンクロマダラメイガ *Ceroprepes ophthalmicella* ○ 図 40

1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 29. VIII. 2025.  
ライトトラップに飛来した。国内では北海道, 国後島, 本州, 九州, 屋久島に分布し, 6 ~ 9 月に山地でふつうに見られる(那須ほか, 2013)とされるが, 兵庫県内の記録は養父市のみである(宇野ほか, 2024)。

#### ツトガ科

39. シナミズメイガ *Elophila sinicalis* 図 41  
1 ♀, 上郡町金出地, 2. IX. 2022.

ライトトラップに飛来した。南あわじ市(宇野ほか, 2024), 佐用町船越(高橋, 2025)で記録されている。

40. ナカアカクルマメイガ *Clupeosoma pryori* ○ 図 42  
1ex., たつの市新宮町光都, 13. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した。5 ~ 9 月に平地で見られるが, あまり多くない(那須ほか, 2013)とされる。新温泉町・南あわじ市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

41. ネモンノメイガ *Nacoleia tampiusalis* ☆ 図 43  
1ex., たつの市新宮町光都, 25. VI. 2025.

ライトトラップに飛来した。西宮市・三田市・多可町・養父市・香美町で記録されている(宇野ほか, 2024)。

42. シナチクノメイガ *Eumorphobotys eumorphalis*  
○ 図 44

2 ♀ 1ex., 上郡町金出地, 20. VI. 2025.: 1 ♀ 1ex., 同地, 29. VII. 2025.: 3exs., たつの市新宮町光都, 25. VI. 2025.: 5exs. 以上,

佐用町船越, 28-29. VI. 2025.: 5exs. 以上, たつの市御津町碓岩 みはらしの森, 3. VIII. 2025.: 5exs., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 20. VIII. 2025.: 11exs., 同地, 29. VIII. 2025.: 1ex., 佐用町東徳久, 20. IX. 2025.

佐用町東徳久の個体は外灯, それ以外は全てライトトラップに飛来した。本種は中国南部からの外来種と考えられ, 国内では2022年に初めて記録された(岩下・松井, 2022)。兵庫県での初記録は2023年の香美町ハチ北高原(阪上, 2024)である。筆者による西播磨地域での調査では2024年以前は全く確認できなかったが, 2025年6月以降, 各地で多数が飛来するようになった。確認範囲はたつの市御津町碓岩(標高14m)から宍粟市千種町のちくさ高原(標高1000m)にまで及んでおり, 爆発的に分布を拡大したことが見て取れる。

#### シャクガ科

43. ヨスジアカエダシャク *Astygisa morosa* ○ 図 45  
1 ♂, 上郡町金出地, 28. V. 2025.

ライトトラップに飛来した。次種オオヨスジアカエダシャクと酷似しており, 同定には交尾器の調査が望ましいとされる。本種の♂交尾器はバルバの先端が細く長くのびてとがっている。♀交尾器のドクツス・ブルサエは強く骨化し太く短い(岸田, 2011a)。宇野ほか(2024)での記録は兵庫県・猪名川町・養父市となっている。

44. オオヨスジアカエダシャク *Astygisa chlororhynodes*  
○ 図 46

1 ♀, 上郡町金出地, 20. VI. 2025.: 1 ♂, たつの市新宮町光都, 25. VI. 2025.

ライトトラップに飛来した。♂交尾器はバルバの先端はスプーン状に広がっている。♀交尾器のドクツス・ブルサエは前種に比して明らかに細く長い。前種より普通に産する(岸田, 2011a)とされる。猪名川町・川西市・丹波市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

45. シャンハイオエダシャク *Macaria shanghaiaria*  
☆ 図 47

1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 20. VIII. 2025.: 1ex., 同地, 29. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した。ヤナギ類の多い河川敷や湿生環境に多い(岸田, 2011a)。神戸市・宝塚市・西宮市・三田市・西脇市・養父市・丹波市・南あわじ市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

46. ヒメナカウスエダシャク *Alcis medialbifera* ○ 図 48  
3 ♀ 10exs. 以上, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 19. IX. 2025.: 5 ♀, 同地, 12. X. 2025.

ライトトラップに多数が飛来した。寄主植物はモミ, トドマツ, コメツガ, トウヒで針葉樹に固有。北海道では広く生息するが,

本州以南では高標高地に限られる(岸田, 2011a)とされるが、兵庫県内では神戸市・宝塚市・養父市・南あわじ市で記録されている(宇野ほか, 2024)。宝塚市と南あわじ市の最高地点は573mと607.9mである。

#### 47. シロスジオオエダシヤク *Xandrames latiferaria*

○ 図 49

1 ♂, 宍粟市一宮町東公文 ろくろしの森キャンプ場, 19. VI. 2021.: 1 ♂, 宍粟市波賀町鹿伏, 21. V. 2022.: 2 ♂, 同地, 3. VII. 2024.: 2 ♂, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 29. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した。養父市・新温泉町・丹波市・丹波篠山市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

#### 48. オオマエキトビエダシヤク *Nothomiza oxygoniodes*

○ 図 50

1 ♀, たつの市揖保川町黍田 ヤッホの森, 9. IV. 2022.  
林内でのライトトラップに飛来した。マエキトビエダシヤクよりも暖かい地域に普通に産する(岸田, 2011a)。神戸市・西宮市・三田市・新温泉町・淡路市・洲本市・南あわじ市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

#### 49. ハガタキスジアオシヤク *Hemistola tenuilinea*

○ 図 51

2exs., 宍粟市波賀町鹿伏, 17. VII. 2022.: 1ex., 上郡町金出地, 26. VI. 2024.: 1ex., 相生市矢野町瓜生 羅漢の里, 1. VII. 2024.: 1ex., たつの市新宮町光都, 25. VI. 2025.  
いずれもライトトラップに飛来した。宝塚市・養父市・丹波市・洲本市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

#### 50. アカホシヒメアオシヤク *Comostola rubripunctata*

○ 図 52

1 ♂, たつの市御津町碓岩 みはらしの森, 7. X. 2025.  
丘陵の山裾でのライトトラップに飛来した。神戸市・宝塚市・洲本市・南あわじ市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

#### 51. シロモンアオヒメシヤク *Dithecodes erasa* ○ 図 53

1ex., 上郡町金出地, 29. VII. 2025.

ライトトラップに飛来した。前後翅に白色の横脈点があり、後翅のものはより発達し、三日月状になる。山地に産するが、あまり多くない(岸田, 2011a)とされる。宇野ほか(2024)での記録は兵庫県・川西市・養父市・丹波市となっている。

#### 52. ナガサキヒメシヤク *Scopula plumbearia* 図 54

1ex., 佐用町船越 佐用町昆虫館, 23. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した。相生市・南あわじ市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

#### 53. キリバネホソナミシヤク *Brabira artemidora* ○ 図 55

1 ♂, 上郡町金出地, 23. IX. 2023.: 1 ♂, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 20. VIII. 2025.: 1 ♀, 同地, 29. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した。全国的に低山地から山地に広く分布し、ごく普通に産する(岸田, 2011a)とされる。神戸市・豊岡市・養父市・丹波市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

#### 54. ヒゲブトナミシヤク *Sauris nanaria* ○ 図 56

1ex., 佐用町船越, 23. VIII. 2025.

瑠璃寺仁王門横の高台でのライトトラップに飛来した。本州では関東地方以西の山地に産するが、かなり少ない(岸田, 2011a)とのことである。兵庫県内の記録は丹波市のみである(宇野ほか, 2024)。

#### 55. マンサクシロナミシヤク *Asthena hamadryas* ○ 図 57

1ex., 上郡町金出地, 2. V. 2025.

ライトトラップに飛来した。ムスジシロナミシヤクとは斑紋では区別できないが、顔面の橙色部の割合が異なり、本種は2/3～4/5と多い(岸田, 2011a)。兵庫県内の記録は神戸市六甲山(八木ほか, 2002)のみである。

#### 56. フタマタシロナミシヤク *Asthena ochrifasciaria* ☆ 図 58

1 ♂ 2exs., 佐用町船越, 23-24. VIII. 2025.

佐用町昆虫館敷地内及び瑠璃寺仁王門横の高台でのライトトラップに飛来した。日本固有種で、本州、四国、九州、対馬に分布し、関東地方周辺では低山地から山地まで産し、普通に見られる(岸田, 2011a)とのことである。多可町、丹波市(宇野ほか, 2024)で記録されている。

#### 57. ハラキカバナミシヤク *Eupithecia subtacincta* ☆ 図 59

1 ♀, 佐用町船越 佐用町昆虫館, 23. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来したものを採集し、検鏡した。かなり小型で、腹部背面が赤褐色が目立つ。平地から山地まで広く分布し、7～8月に多産する(岸田, 2011a)とされるが、兵庫県内の記録は高砂市のみである(宇野ほか, 2024)。

#### 58. クニガミカバナミシヤク *Eupithecia ryukyensis* ○ 図 60

1 ♀, たつの市御津町碓岩 みはらしの森, 7. X. 2025.

ライトトラップに飛来したものを採集し、検鏡した。秋の蛾で9月～11月に出現するが少ない(岸田, 2011a)とされる。兵庫県内の記録は南あわじ市のみである(宇野ほか, 2024)。

#### 59. アザミカバナミシヤク *Eupithecia virgaureata* 図 61

1 ♀, 相生市那波野 岩屋谷公園, 8. IV. 2025.: 1 ♀, 佐用町船越, 3. V. 2025.: 1 ♀, たつの市御津町碓岩 みはらしの森, 7. X. 2025.

ライトトラップに飛来したものを採集し、検鏡した。宝塚市・伊丹市・上郡町で記録されている(宇野ほか, 2024)。

60. ホソバチビナミシヤク *Spiralisigna subpumilata* 図 62  
1 ♀, たつの市新宮町光都, 13. VIII. 2025.  
ライトトラップに飛来したものを採集し, 検鏡した. 分布が広く, 4 ~ 10 月に平地から山地まで各地で採れているが, あまり多くない (岸田, 2011a) とされる. 上郡町・南あわじ市で記録されている (宇野ほか, 2024).

## スズメガ科

61. クロスギバハウジャク *Hemaris affinis* ☆ 図 63  
1ex., 宍粟市波賀町鹿伏, 22. V. 2025.  
日中, 道路脇のウツギに訪花したものを採集した. 宝塚市・三田市・猪名川町・神河町・豊岡市・養父市・香美町・丹波市・丹波篠山市で記録されている (宇野ほか, 2024).

## シャチホコガ科

62. タカムクシャチホコ *Takadonta takamukui* ○ 図 64  
1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 29. VIII. 2025.  
ライトトラップに飛来した. 年 1 化, 8 月に出現. 寄主植物はブナ, イヌブナ (岸田, 2011b). 兵庫県に隣接する他県でも稀な種とされており, 産地はかなり局限されているのかもしれない (高島, 2001). 養父市・新温泉町で記録されている (宇野ほか, 2024).

## ヒトリガ科

63. スカシコケガ *Nudaria ranruna* 図 65  
1ex., たつの市新宮町光都, 26. VII. 2021. : 1ex., 上郡町金出地, 12. XI. 2021. : 1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 15. X. 2025.  
ライトトラップに飛来した. 房総半島以西に分布し, 7 ~ 10 月に得られているがくわしい化性などは不明. 寄主植物はアラカシ, ミミズバイ, ヒサカキ, サカキで, 照葉樹林に多い (岸田, 2011b) とされるが, 宍粟市では標高 1000m を越える地点で確認できた. 宝塚市・三田市・相生市で記録されている (宇野ほか, 2024).

## アツバモドキガ科

64. ウスオビアツバモドキ *Mimachrostia fasciata* 図 66  
1ex., 佐用町船越, 23. VIII. 2025.  
瑠璃寺仁王門横の高台でのライトトラップに飛来した. 相生市・南あわじ市で記録されている (宇野ほか, 2024).

## コブガ科

65. ソトジロコブガ *Manoba fasciatus* 図 67  
1 ♂, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 19. IX. 2025.  
ライトトラップに飛来した. 川西市・相生市で記録されている (宇野ほか, 2024).

## ヤガ科

66. ミジンアツバ *Hypenodes rectifascia* 図 68  
1ex., 佐用町東徳久, 20. IX. 2025.  
外灯に飛来していた. 上郡町・宍粟市で記録されている (宇野ほか, 2024).
67. オビマダラアツバ *Raparna roseata* ○ 図 69  
1ex., 上郡町金出地, 6. IX. 2021. : 1 ♂, 佐用町船越, 23. VIII. 2025.  
ライトトラップに飛来した. 神戸市・宝塚市・猪名川町・南あわじ市で記録されている (宇野ほか, 2024).
68. ヒロバチビトガリアツバ *Hypenomorpha calamina* ☆ 図 70  
1ex., たつの市新宮町光都, 6. IX. 2023. : 1ex., たつの市御津町碓岩 みはらしの森, 3. VIII. 2025. : 1ex., 佐用町船越, 23. VIII. 2025.  
ライトトラップに飛来した. 神戸市・川西市・神河町・西脇市・丹波市で記録されている (宇野ほか, 2024).
69. ツマトビコヤガ *Autoba tristalis* ☆ 図 71  
1ex., 相生市矢野町瓜生 羅漢の里, 21. VI. 2023. : 1 ♀, 上郡町金出地, 29. VII. 2025.  
相生市では外灯, 上郡町ではライトトラップに飛来した. 神戸市・西宮市・神河町・南あわじ市で記録されている (宇野ほか, 2024). 高島 (2003) に「県下では少ないながら低山地から山地にかけて分布を拡げているものと思われる」とある.
70. チャイロアツバ *Britha inambitiosa* 図 72  
1ex., たつの市新宮町光都 兵庫県西播磨総合庁舎付近, 13. VI. 2022. : 1ex., 宍粟市波賀町鹿伏, 30. VII. 2022. : 1 ♂, 佐用町船越, 24. VIII. 2025.  
ライトトラップに飛来した. 宝塚市・神河町・宍粟市・丹波市で記録されている (宇野ほか, 2024).
71. ウスベニツマキリアツバ *Tamba gensanalis* 図 73  
1ex., たつの市新宮町光都, 6. VI. 2022. : 1ex., 上郡町金出地, 2. IX. 2022. : 1ex., 佐用町船越 佐用町昆虫館, 29. VI. 2025. : 1ex., 同地, 24. VIII. 2025.  
ライトトラップに飛来した. 相生市・上郡町で記録されている (宇野ほか, 2024).
72. シロツマキリアツバ *Pangrapta porphyrea* 図 74  
1ex., 宍粟市波賀町鹿伏, 21. VIII. 2022. : 1ex., 上郡町金出地, 28. V. 2025.  
ライトトラップに飛来した. 宇野ほか (2024) での記録は神戸市・宝塚市・川西市付近・朝来市・宍粟市・豊岡市・養父市・丹波市となっている.

73. クロミツボシアツバ *Sinarella japonica* ○ 図 75

1 ♀, 佐用町船越 佐用町昆虫館, 24. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した. 兵庫県内では養父市で複数の記録がある (宇野ほか, 2024).

74. ムーアキシタクチバ *Hypocala deflorata* ○ 図 76

1 ♂, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 19. IX. 2025.

ライトトラップに飛来した. 伊丹市・養父市・丹波市で記録されている (宇野ほか, 2024).

75. ナカグロクチバ *Grammodes geometrica* 図 77

2exs., 佐用町東徳久, 20. IX. 2025. : 1ex., たつの市御津町 碓岩 みはらしの森, 7. X. 2025.

外灯に飛来していた. 日本本土では偶産と考えられる (岸田, 2011b). 宇野ほか (2024) での記録は兵庫県・神戸市・三田市・南あわじ市となっているほか, たつの市でも 2021 年に記録されている (高橋, 2025).

76. アオスジコヤガ *Inabaia culta* 図 78

1ex., 宍粟市波賀町鹿伏, 21. VIII. 2022. : 1ex., 上郡町金出地, 2. IX. 2022. : 1 ♀, 佐用町船越, 24. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した. 岸田 (2011b) に「暖地の平地に産するがまれな種」とあるが, 宍粟市北部でも確認できた. 神戸市・猪名川町・相生市・丹波市・洲本市で記録されている (宇野ほか, 2024).

77. ナカジロシタバ *Aedia leucomelas* ☆ 図 79

1 ♀, 上郡町金出地, 16. IX. 2022. : 1 ♀, 佐用町東徳久, 20. IX. 2025. 三村剣義.

上郡町ではライトトラップ, 佐用町では外灯に飛来した. サツマイモの害虫とされる (岸田, 2011b). 神戸市・宝塚市・西脇市・南あわじ市で記録されている (宇野ほか, 2024).

78. シロモンケンモン *Acronicta albistigma* 図 80

1ex., たつの市御津町碓岩 みはらしの森, 3. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した. 神戸市・宝塚市・猪名川町・宍粟市・佐用町・丹波市・南あわじ市で記録されている (宇野ほか, 2024).

79. ツマナミツマキリヨトウ *Data clava* ○ 図 81

1ex., たつの市新宮町光都, 6. IX. 2023.

ライトトラップに飛来した. 兵庫県内の記録は神戸市・宝塚市・猪名川町 (宇野ほか, 2024) で, 播磨地域などではこれまで未記録だったが, 高島 (2002) は「それほど局地的な種ではないと思われ, 南部の低山地域を探せば見つかると思われる」としていた.

80. アミメヒメヨトウ *Iambia transversa* 図 82

1ex., 佐用町船越, 29. VI. 2025.

ライトトラップに飛来した. シロマダラヒメヨトウに似るが小型で, 翅底部から中室下にかけての黒色影はあらわれない. 平地で採集されるが少ない (岸田, 2011b) とされる. 兵庫県内の記録は相生市羅漢の里 (高橋, 2023) のみである.

81. アオキノコヨトウ *Stenoloba assimilis* ○ 図 83

1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 20. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した. 前翅の内横線は直線状に斜行し, 外横線はなめらかに屈曲する. 後翅は褐色で横脈紋があらわれる (岸田, 2011b). 県下では少ない種で, 神戸市 (摩耶山), 養父市 (氷ノ山) で記録されているのみである (高島, 1999a : 宇野ほか, 2024).

82. シロイチモジヨトウ *Spodoptera exigua* 図 84

1ex., たつの市揖保町揖保上, 31. V. 2021. : 1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 29. VIII. 2025. : 1 ♀ 2exs., たつの市御津町碓岩 みはらしの森, 7. X. 2025.

ライトトラップに飛来した. 南極大陸を除く全世界に分布するが, 岸田 (2011b) の時点では産出量は少ないとされていた. 宇野ほか (2024) で取りまとめられている兵庫県内の記録は上郡町と南あわじ市のみである. しかし実際には県内各地に広く分布・多産しており, 兵庫県病害虫防除所が 2025 年 9 月 19 日に発表した病害虫発生予察注意報第 5 報では, 同年 8 月～9 月上旬の間に本種のフェロモントラップによる 5 日間の誘殺数が加西市で 200 頭程度, 朝来市で 500 頭以上, 南あわじ市では 10 日間で 900 頭以上にも及んでいる期間があること, 幼虫の発生が広く確認され, 県内各地でねぎ, ピーマン, カーネーション, 大豆栽培圃場及びたまねぎやレタスの育苗床で既に被害が認められていることなどを示し, 適切な防除指導を促している.

83. チャイロカドモンヨトウ *Apamea sodalis* 図 85

1ex., たつの市新宮町光都, 20. IX. 2021.

ライトトラップに飛来した. 5～6 月に羽化後, 洞窟内で越冬し, 8～9 月に出現する. 低山地から山地で採集される (岸田, 2011b). 宍粟市・養父市・丹波市・南あわじ市で記録されている (宇野ほか, 2024).

84. ヤナギキリガ *Ipimorpha retusa* ☆ 図 86

1 ♀ 1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 19. IX. 2025.

ライトトラップに飛来した. 成虫は 7～9 月に出現し, 幼虫はイヌコリヤナギなどのヤナギ科を寄主とする (岸田, 2011b). 神戸市・養父市で記録されている (宇野ほか, 2024).

以上 84 種を報告する. 兵庫県内で初記録の種が 14 種, 播磨地域全域で初記録の種が 27 種, 西播磨地域で

初記録の種が 11 種である.

## 謝辞

末筆ではあるが、みはらしの森の植生についてご教示いただいた茂見節子氏、田中義則氏に厚く御礼申し上げます。

## 引用文献

- 岩下幸平・松井悠樹, 2022. 中国南部からの外来種と考えられるノメイガ *Eumorphobotys eumorphalis* (Caradja, 1925) の日本からの初記録. 蛾類通信, 300 : 683-684.
- 宇野宏樹・池田 大・阪上洸多, 2024. 兵庫県産蛾類分布記録データベース. [https://www.konchukan.net/moths/moths\\_of\\_hyogo.html](https://www.konchukan.net/moths/moths_of_hyogo.html) (参照 2025 年 4 月 30 日).
- 大貝秀雄, 2018. 兵庫県赤穂郡上郡町の住宅団地内 1 区画における昆虫相. 94pp. 播磨長翅目研究センター.
- 岸田泰則 (編), 2011a. 日本産蛾類標準図鑑 I. 352pp. 学習研究社.
- 岸田泰則 (編), 2011b. 日本産蛾類標準図鑑 II. 416pp. 学習研究社.
- 阪上洸多, 宮野昭彦, 後藤聖士郎, 岩下幸平, クルズスキー淳子, 間野隆裕, 松井悠樹, Khine Mon Mon Kyaw, 那須義次, 奥 尉平, 富沢 章, 外村俊輔, 屋宜 禎, 2020. 兵庫県で開催した第 79 回レピドプテリストセミナー (レピゼミ) で採集された蛾. 誘蛾燈, 240 : 32-40.
- 阪上洸多, 2024. ハチ北高原から得られた蛾類 3 種の採集例. きべりはむし, 47(1) : 68 - 69.
- 神保宇嗣, 2001. 長島の昆虫類 2000 年 6 月の調査から. 長島の自然 瀬戸内海周防灘東部の生物多様性. 日本生態学会中国四国地区会報, 59 : 26 - 34
- 高島 昭, 1999a. 兵庫県のキノコヨトウ亜科とタバコガ亜科 兵庫県産蛾類分布資料・11. きべりはむし, 27 (1) : 22-27
- 高島 昭, 1999b. 兵庫県のカギバガ科・オオカギバガ科・トガリバガ科 兵庫県産蛾類分布資料・14. きべりはむし, 27 (2) : 61-75
- 高島 昭, 2001. 兵庫県のシャチホコガ (2) 兵庫県産蛾類分布資料・21. てんとうむし, 14 : 61-76
- 高島 昭, 2002. 兵庫県のカラスヨトウ亜科 (その 2) 兵庫県産蛾類分布資料・26. きべりはむし, 30 (2) : 32-43
- 高島 昭, 2003. 兵庫県のコヤガ亜科 兵庫県産蛾類分布資料・28. きべりはむし, 31 (1) : 81 - 95
- 高橋弘樹, 2023. 相生市「羅漢の里」公園で確認された蛾類の記録 (3) - 相生市三濃山麓の蛾 2020 -

2023 -. きべりはむし, 46 (2) : 1-16.

- 高橋弘樹, 2025. 2021 年～ 2025 年に西播磨地域で確認した兵庫県初記録及び県内で記録の少ない蛾類について. きべりはむし, 48 (1) : 86-100.
- 那須義次, 2021. 日本のハマキガ 1 モグリヒメハマキガ族 (鱗翅目, ハマキガ科, ヒメハマキガ亜科). 171pp. 日本蛾類学会.
- 那須義次, 2022. 日本のハマキガ 2 ハラブトヒメハマキガ族, クラークヒメハマキガ族, トガリバヒメハマキガ族およびカギバヒメハマキガ族 (鱗翅目, ハマキガ科, ヒメハマキガ亜科). 88pp. 日本蛾類学会.
- 那須義次, 2024. 日本のハマキガ 3 ヒメハマキガ族およびカギバヒメハマキガ族とモグリヒメハマキガ族の補遺 (鱗翅目, ハマキガ科, ヒメハマキガ亜科). 155pp. 日本蛾類学会.
- 那須義次・広渡俊哉・岸田泰則 (編), 2013. 日本産蛾類標準図鑑Ⅳ, 522pp. 学習研究社.
- 林 将之, 2014. 山溪ハンディ図鑑 14 樹木の葉 実物スキャンで見分ける 1100 種類. 759pp. 山と溪谷社.
- 兵庫県立農林水産技術総合センター病害虫部 (兵庫県病害虫防除所), 2025 年 9 月 19 日, 令和 7 年度病害虫発生予察注意報 第 5 号 シロイチモジヨトウの発生状況と防除対策について. <https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/press/documents/r7chuihou5goushiroitomijiyotou.pdf> (参照 2025 年 10 月 8 日)
- 広渡俊哉, 那須義次, 坂巻祥孝, 岸田泰則 (編), 2013. 日本産蛾類標準図鑑Ⅲ. 360pp. 学習研究社.
- 八木 剛・中西明德・青田紀子・稲畑憲昭・植田義輔・岡本俊治・勝又千寿代・金子留美子・古賀督尉・杉野広一・高島 昭・谷口日出二・谷口幸生・桧山咲美・林 成多・水野辰彦・山崎敏雄・山本勝也・吉田 武, 2002. 六甲山のブナ林とその周辺の昆虫相 - 2001 年の合同調査から -. きべりはむし, 30(1) : 1 - 45
- 新・廿日市市の自然観察 (昆虫), 2024 年 11 月 4 日, ミナミクロモンアオシャク (新顔) と ヒメクダマキモドキの 2 ショットが 1 1 9 種です. <https://new-2014no64.seesaa.net/article/505531727.html> (参照 2025 年 10 月 3 日).

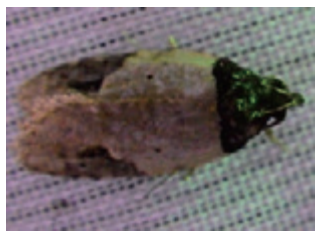


図 15 モンシロヒラタマルハキバガ, 佐用町, 2025/8/23



図 16 カタキオビマルハキバガ, 宍粟市, 2025/8/20



図 17 フタテンハビロキバガ, 宍粟市, 2025/8/29



図 18 ネズミエグリキバガ, 宍粟市, 2025/8/29



図 19 シロモンクロキバガ, たつの市, 2024/4/23



図 20 セウスイロハマキ, 宍粟市, 2025/10/12



図 21 ナカジロハマキ, たつの市, 2025/8/13



図 22 ブドウホソハマキ, 宍粟市, 2025/8/29



図 23 アカオビホソハマキ, たつの市, 2025/7/18



図 24 アカトビハマキ, 宍粟市, 2025/8/29

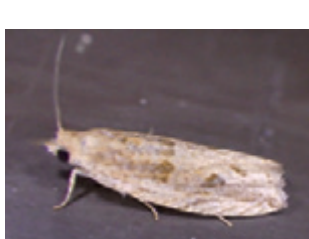


図 25 イグサヒメハマキ, 相生市, 2023/9/6



図 26 フタバシヒメハマキ, 佐用町, 2025/8/24



図 27 ニセハギギバヒメハマキ, 宍粟市, 2025/7/5



図 28 マツズアカシムシ, 宍粟市, 2025/5/5



図 29 ヤマモモヒメハマキ, たつの市, 2025/8/3



図 30 クローバヒメハマキ♂と交尾器, 佐用町, 2025/10/2



図 31 オオセシロヒメハマキ, 宍粟市, 2025/10/1



図 32 イヌビワハマキモドキ幼虫, 上郡町, 2025/7/23



図 33 イヌビワハマキモドキ繭と蛹, 上郡町, 2025/7/23



図 34 イヌビワハマキモドキ, 2025/7/31 羽化

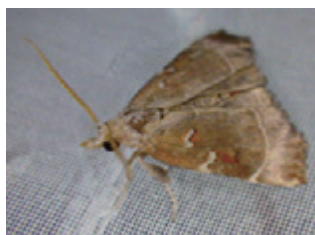


図 35 ニシキシマメイガ, 上郡町, 2025/7/18

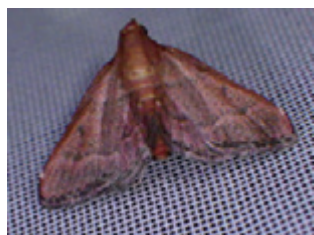


図 36 ヒメアカシマメイガ, たつの市, 2025/7/16



図 37 キガシラシマメイガ, 佐用町, 2025/6/28



図 38 ツマグロフトメイガ, 上郡町, 2025/6/20



図 39 ネグロフトメイガ,  
宍粟市, 2024/7/3



図 40 ウスアカモンクロマダラメイガ,  
宍粟市, 2025/8/29

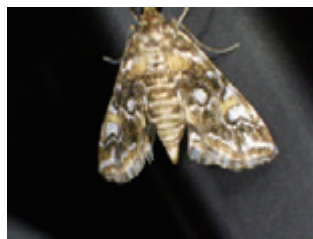


図 41 シナミズメイガ,  
上郡町, 2022/9/2



図 42 ナカアカクルマメイガ,  
たつの市, 2025/8/13



図 43 ネモンノメイガ,  
たつの市, 2025/6/25



図 44 シナチクノメイガ,  
上郡町, 2025/6/20



図 45 ヨスジアカエダシャク♂と交  
尾器, 上郡町, 2025/5/28



図 46 オオヨスジアカエダシャク♂  
と交尾器, たつの市, 2025/6/25



図 47 シャンハイオエダシャク,  
宍粟市, 2025/8/20



図 48 ヒメナカウスエダシャク,  
宍粟市, 2025/9/19



図 49 シロスジオオエダシャク,  
宍粟市, 2024/7/3



図 50 オオマエイトビエダシャク,  
たつの市, 2022/4/9



図 51 ハガタクスジアオシャク,  
相生市, 2024/7/1



図 52 アカホシヒメアオシャク,  
たつの市, 2025/10/7



図 53 シロモンアオヒメシャク,  
上郡町, 2025/7/29



図 54 ナガサキヒメシャク,  
佐用町, 2025/8/23



図 55 キリバネホソナミシャク,  
宍粟市, 2025/8/20

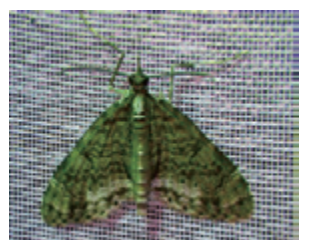


図 56 ヒゲブトナミシャク,  
佐用町, 2025/8/23



図 57 マンサクシロナミシャク,  
上郡町, 2025/5/2



図 58 フタマタシロナミシャク,  
佐用町, 2025/8/23



図 59 ハラキカバナミシャク,  
佐用町, 2025/8/23



図 60 クニガミカバナミシャク♀と  
交尾器, たつの市, 2025/10/7



図 61 アザミカバナミシャク♀と  
交尾器, たつの市, 2025/10/7



図 62 ホソバチバナミシャク♀と  
交尾器, たつの市, 2025/8/13



図 63 クロスギバハウジャク,  
宍粟市, 2025/5/22



図 64 タカムクシャチホコ,  
宍粟市, 2025/8/29



図 65 スカシコケガ,  
宍粟市, 2025/10/15



図 66 ウスオビアツバモドキ,  
佐用町, 2025/8/23



図 67 ソトジロコブガ,  
宍粟市, 2025/9/19



図 68 ミジンアツバ,  
佐用町, 2025/9/20



図 69 オビマダラアツバ,  
佐用町, 2025/8/23



図 70 ヒロパチビトガリアツバ,  
佐用町, 2025/8/23



図 71 ツマトビコヤガ,  
上郡町, 2025/7/29



図 72 チャイロアツバ,  
佐用町, 2025/8/24



図 73 ウスベニツマキリアツバ,  
たつの市, 2022/6/6

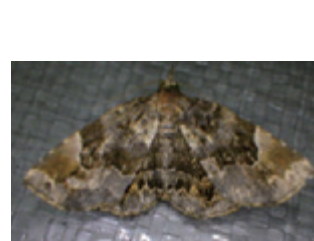


図 74 シロツマキリアツバ,  
宍粟市, 2022/8/21



図 75 クロミツボシアツバ,  
佐用町, 2025/8/24

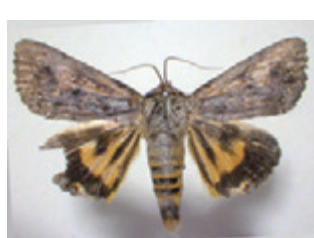


図 76 ムーアキシタチバ,  
宍粟市, 2025/9/19

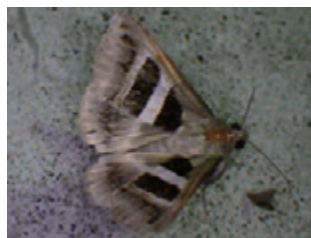


図 77 ナカグロクチバ,  
佐用町, 2025/9/20



図 78 アオスジコヤガ,  
佐用町, 2025/8/24



図 79 ナカジロシタバ,  
佐用町, 2025/9/20



図 80 シロモンケンモン,  
たつの市, 2025/8/3



図 81 ツマナミツマキリヨトウ,  
たつの市, 2023/9/6



図 82 アミメヒメヨトウ,  
佐用町, 2025/6/29



図 83 アオキノコトウ,  
宍粟市, 2025/8/20



図 84 シロイチモトウ,  
たつの市, 2025/10/7



図 85 チャイロカドモンヨトウ,  
たつの市, 2021/9/20



図 86 ヤナギキリガ,  
宍粟市, 2025/9/19

## 上郡町で得られた兵庫県で記録のない蛾類について

大貝秀雄<sup>1)</sup>

### はじめに

筆者はかつて、上郡町にある自宅敷地内の昆虫相を調査して 656 種の蛾類を記録し（大貝, 2018）、その後、一部の修正ならびに追加記録により 40 種が追加され（大貝, 2022）、合計 696 種を自宅敷地内で確認された蛾類として報告した。以上の拙著の成績も含めて、宇野ら（2024b）は兵庫県産の蛾類の記録を市町別にまとめ、結果を「兵庫県産蛾類分布記録データベース」として NPO 法人こどもとむしの会のホームページ上に公開した。それによれば、上郡町での記録が兵庫県下の市町で唯一の記録にあたる例が想定外に多種類であることがわかった。その多くは、ツトガ上科、ハマキガ科、キバガ上科に属する小蛾類であったが、ヤガ科の小型種もすくなく含まれていた。それらの中でもヨツモンキヌバコガ *Scythris sinensis* とブドウオオトリバ *Platyptilia ignifera* について、宇野（2024）は特にコメントを記しているため、これら 2 種について標本写真を付して再度記録することとした。

また筆者の昆虫相調査報告（大貝, 2018）ではテングイラガとして *Microleon longipalpis* の学名で記録していたが、宇野（2024）の指摘の通り、実はそれ以前に日本産のテングイラガ属は再検討され 3 種に分割されていた。そこで Sasaki (2016) に従い、当時の標本を改めて検討したので、その結果を示す。

また筆者が折にふれ上郡町内で採集・確認した蛾類の中に、宇野ら（2024a）ならびに、その後に西播磨地域から多くの希少な蛾類を記録した高橋（2025）に基づき兵庫県未記録と判断された種がいくつか認められたので、併せてここに記録する。

### ヨツモンキヌバコガとブドウオオトリバの再記録

ヨツモンキヌバコガ *Scythris sinensis* (Felder & Rogenhofer, 1875)

高田台：1 ♀, 28-V-2006. 開張 13mm. 図 1.

国内では北海道、本州、四国、九州に分布し、寄主はアカザとシロザ。

夏型は 6 月頃から摂食活動し夏に羽化するというので、5 月末に得られた高田台の標本は秋に蛹化して越冬した個体であったと考えられる。これは食草とは縁のないカモミールの花で得られたもので、吸蜜していたものと思われる。和名の由来となった前翅の橙黄色斑があらわれるのは夏型の特徴である。

ブドウオオトリバ *Platyptilia ignifera* Meyrick, 1908

高田台：1 ex, 11-XI-2007. 前翅長 8.5mm. 図 2-a,b.

国内では北海道、本州、九州と対馬から記録されている。ブドウ、ヤマブドウ、ヤブガラシが寄主とされる。

黒味の強い中形のトリバガで、中後脚の脛節とふ節に鱗粉が輪状に配列されることが種の重要な特徴の一つである。しかし小蛾について全くの初心者であった筆者の拙劣な標本作製の結果、わずかに左後脚のみが捻くれた形で残っていた（図 2-b）ので、それをもとに辛うじて同定結果を追認することができた。

上郡町では船坂地区を中心にブドウ栽培が盛んであり、また家庭菜園に植栽されているケースも少なくない。そのような寄主で発生した個体が飛来したものが 2007 年の記録であった可能性が想定される。

### テングイラガ *Microleon longipalpis* の記録の訂正

正：キマダラテングイラガ *Microleon decolatus* Sasaki, 2016

高田台：1 ♀, 13-VIII-2006, 1 ♀, 10-VI-2012, 1 ♀, 2-X-2016. 開張 17.5 ~ 19mm. 図 3-a,b,c.

2016 年採集の雄標本の交尾器を検討した結果、gnathos の T 字形の上辺は幅広く、かつ上辺に顆粒状の骨片が密に認められた（図 3-b）。また 4 本の sacculus arm の 1 本が他より顕著に長い（図 3-c）ことから、当該標本を本種と判断した。

キマダラテングイラガの前翅の黒褐色斑は、日本産同属 3 種の中では中間的で、よく発達するものから微弱なものまでである（佐々木, 2016）。上郡産（図 3-a）は交尾器未検討の雌個体も含めすべて黒褐色斑の発達が

<sup>1)</sup> Hideo OGAI 兵庫県上郡町

比較的弱いタイプであった。

従来テングイラガとされてきた種は3種に分割されたが、いずれも本州には広く分布するようなので、本種以外の2種も兵庫県から記録される可能性は大いにあると思われる。

# 兵庫県未記録と考えられる上郡産の蛾類

## クチブサガ科

ミダレモンクチブサガ *Ypsolopha distinctatus* Moriuti, 1977

旭日：1ex, 23-VII-2022. 開張 19mm. 図 4.

本州, 九州, 対馬, 奄美大島に分布。ウバメガシを寄主とする。色彩と翅の斑紋の変異が大きいとされる。

旭日の杉植林地と溪流に挟まれた道沿いの下草をスイーピングして得た。

サビイロクチブサガ *Ypsolopha fujimotoi* Moriuti, 1964

小野豆：1ex, 19-VI-2022, 2ex, 8-VII-2022. 開張 25 ~ 26mm. 図 5.

日本産蛾類標準図鑑第3巻では九州にのみ分布するとされていたが、その後、大阪府, 岐阜県, 石川県, 千葉県など本州各地で散発的に記録されている（清水, 2016; 宮野, 2018; 斎藤, 2019; 富沢, 2022）。寄主は不明。

小野豆では同一木と思われる樹種未確認の小高木から得られた。

## ヒラタマルハキバガ科

ヤマウコギヒラタマルハキバガ *Agonopterix encentra* (Meyrick, 1914)

佐用谷：1ex, 19-VII-2022. 開張 24.5mm. 図 6.

国内では本州から記録されている。寄主はヤマウコギ。写真で特に右の前翅に見える暗色の蛇行する縦条と、

前翅中室端にある黒斑ならびにその中央の青灰色鱗が種の特徴として重要とされる。

## ニセマイコガ科

シロテンクロマイコガ *Atrijuglans hetaohei* Yang, 1977

旭日：1ex, 17-VII-2022, 光都：1ex, 27-VII-2023. 開張 13mm. 図 7.

国内分布は北海道, 本州, 四国, 九州, 奄美大島, 西表島。クルミ, マタタビを寄主とする。

旭日では溪流沿いのオニグルミ樹梢で得たので、オニグルミも寄主になる可能性がある。光都では林間の陰湿な下草から得た。

## カザリバガ科

アシブサトガリホソガ *Ashibusa jezoensis* Matsumura, 1931

旭日：1ex, 1-VI-2025. 開張 16mm. 図 8.

北海道, 本州, 九州に分布。寄主は不明とされているが、鈴木（2021）はオオバアサガラ朽ちた細枝中にいた幼虫から本種を羽化させている。

旭日の杉植林地と溪流に挟まれた道沿いの下草スイーピングで得た。

## キバガ科

クルミシントメキバガ *Thiotricha trapezoidella* (Caradja, 1920)

上郡 鞍居川河川敷：1ex, 28-III-2023, 旭日：1ex, 1-VII-2019. 開張 17 ~ 19mm. 図 9.

国内では北海道, 本州, 四国, 九州に分布。寄主はサワグルミとオニグルミ。前翅斑紋や色彩に変異が大きいとされる。

小規模な河川沿いに群生したオニグルミの樹梢より得た。



図 1：ヨツモンキヌバコガ♀.



図 2：ブドウオトリバ. a 全形（背面）, b 左後脚.

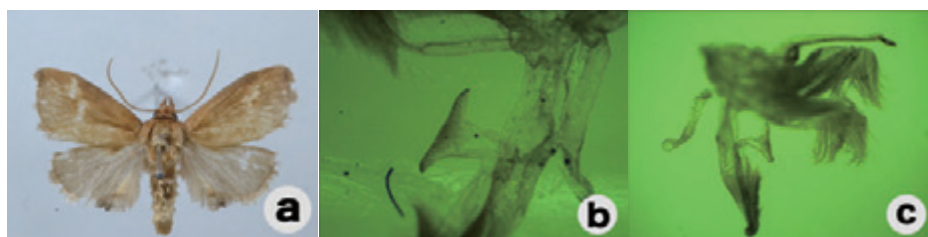


図 3：キマダラテングイラガ♂. a 全形（背面）, b・c ♂交尾器.

オドリキバガ *Dichomeris hoplocrates* (Meyrick, 1932)

与井: 1ex, 14-VI-2018. 開張 14mm. 図 10.

北海道, 本州, 四国, 九州に分布. ヘビイチゴ, ホウロクイチゴ, フユイチゴ, ナワシロイチゴを寄主とする.

昼間に日蔭の葉上でクルクル舞をしていたものを採集した. 同様の例は You Tube で公開されているケースもあり, この行動が和名の由来と考えられる.

## マダラガ科

ヒメクロバ *Artana funeralis* (Butler, 1879)

高田台: 1 ♀, 22-IX-2023. 与井: 1 ♂, 14-VI-2018. 野桑: 1 ♂, 19-I-VI-2025. 旭日: 1 ♀, 19-IX-2019. 開張 16 ~ 18mm. 図 11.

国内では北海道, 本州, 九州に分布. ササ類を寄主とする.

上郡では陰湿地の下草などでよく見られる. 昼行性の極めて地味な種なので注目されることが少なかったかと思われる.

## ハマキガ科

オオナミモンマダラハマキ *Charitographa mikadonis* (Stringer, 1930)

八保丙: 1 ♂, 14-VI-2021. 開張 15mm. 図 12.

国内分布は本州, 四国, 九州. 寄主はキタコブシとホオノキとされている.

本種は複雑な斑紋をもつあでやかな種である. 標本作製時に汚損したものの, 種の特徴である翅頂付近の黄色線や後縁の白色線, 外縁の 4 黒点を確認することができる.

コクワヒメハマキ *Olethreutes morivora* (Matsumura, 1900)

与井新: 1 ♀, 18-VI-2023. 小野豆: 1ex, 25-VII-2022. 開張 16mm. 図 13.

国内では北海道, 本州, 九州, 対馬に分布し, クワを寄主とする.

野生化したクワは上郡町では里山のふもとなどに多く見られる.

マノヒメハマキ *Olethreutes manoi* (Kawabe, 1987)

旭日: 1ex, 9-IV-2023. 前翅長 8mm. 図 14.

本州のみから記録されており, アラカシが寄主であるとされる.

前翅の中央やや外よりに白点がある. 展翅時に右前翅と腹部を損傷した. 杉植林地と溪流に挟まれた車道周辺の下草スイーピングで得たもので, 溪流沿いにはアラカシも点在する.

## トリバガ科

ウスキヒメトリバ *Adaina microdactyla* (Hübner, 1813)

八保丙: 1ex, 2025 年 6 月 27 日. 開張 12mm. 図 15.

国内では北海道, 本州, 九州のほか, 奄美大島以南の主要南西諸島と小笠原父島母島から記録され, 国外でもアジア, ヨーロッパなどに広く分布するとされる. ヨーロッパではフジバカマ属の茎に虫こぶを作るという.

八保丙のトンネル入口付近の壁に静止していたもので, 夜間トンネル天井の照明に誘引されたものと思われる.

## メイガ科

フタスジフトメイガ *Termiopycha bilineata* (Wileman, 1911)

八保丙: 1 ♂, 3-VIII-2024. 開張 25mm. 図 16.

国内分布は本州 (近畿地方以西), 九州, 屋久島, 西表島. ヌルデを寄主とする.

標本は鱗粉が脱落して不明瞭であるが, マキシラリパルプスに黄白色の長鱗毛があることから候補は絞られ, 前後翅の横脈上に黒点が認められるので本種と判断した.

## ヤガ科

ツマムラサキアツバ *Olulis japonica* Sugi, 1982

八保丙: 1 ♀, 19-VIII-2025. 開張 27mm. 図 17.

本州 (関東地方以西), 四国, 対馬, 屋久島, 沖縄本島に分布し, 暖地に産するが少ないとされる. 寄主は未知. 夜間トンネル天井の照明に誘引されたものと思われる.

## おわりに

「兵庫県産蛾類分布記録データベース」の構築は, 兵庫県産の昆虫相解明に向けての画期的な成果であった. これに基づいて本報では, これまで兵庫県から記録のなかったと思われるキマダラテングイラガの他に, 14 種を新たに記録することができた. ただ, ホソガ上科, スガ上科, キバガ上科, ハマキガ科などの小型で地味な種には, まだ多数の未記録種が残されているように思われる. また蛾類の愛好者が夜間採集を重視することが多いためか, 昼間活動性の蛾に記録漏れが多いと思われる点も気になった. 今後の課題として筆者も微力ながら取り組んで行きたい.

「兵庫県産蛾類分布記録データベース」や既に公開されている広畑らの「兵庫県の蝶」, アリ類データベース作成グループ 2008 による「日本産アリ類画像データベース」(種ごとに都道府県別の分布が掲載されている)に続いて, 他の分類群においても兵庫県産昆虫類の分布記録が集成されることを筆者は切望するものである. 例えば, カミキリムシ科やハナバチ類の最新情報に基づく分布記録などがまとめられれば大変有用なものとなるに違いない.

### 引用文献

- アリ類データベース作成グループ, 2008. 日本産アリ類画像データベース. <http://ant.miyakyo-u.ac.jp/J/JADG/JADG.html> (最終閲覧日 2025 年 8 月 22 日)
- 宮野昭彦, 2018. 岐阜県の蛾類相 I. 誘蛾燈 (Suppl.) 11: 1-156. (サビイロクチブサガ)
- 大貝秀雄, 2018. 兵庫県赤穂郡上郡町の住宅団地内 1 区画における昆虫相. 播磨長翅目研究センター, 上郡. 94pp.
- 大貝秀雄, 2022. 『兵庫県赤穂郡上郡町の住宅団地内 1 区画における昆虫相』の正誤リストならびに, この昆虫相に新たに追加される種名一覧. きべりはむし, 45(2): 61-65.
- 斉藤 修, 2019. サビイロクチブサガを千葉県で採集. 蛾類通信, (288): 317.
- Sasaki, A. 2016. A taxonomic note of genus *Microleon* (Limacodidae) in Japan, with descriptions of two new species. 蛾類通信, (279): 99-106.
- 清水 一, 2016. サビイロクチブサガを大阪府南西部で採集. 誘蛾燈, 224: 50-51.
- 鈴木知之, 2021. 鈴木友之の幼生期探訪⑥・アシブサトガリホソガ. 月刊むし, (606): 11-13.
- 高橋弘樹, 2025. 2021 年～2025 年に西播磨地域で確認した兵庫県初記録及び県内で記録の少ない蛾類について. きべりはむし, 48(1): 86-100.
- 富沢 章, 2022. 「石川県の蛾類, 2020」以降の初記録種および注目すべき蛾類. とっくりばち, (90): 21-28.
- 宇野宏樹・池田 大・阪上洸多, 2024a. 兵庫県産蛾類分布記録データベース. [https://www.konchukan.net/moths/moths\\_of\\_hyogo.html](https://www.konchukan.net/moths/moths_of_hyogo.html) (最終更新日 2024 年 10 月 18 日)
- 宇野宏樹・池田 大・阪上洸多, 2024b. 兵庫県産蛾類文献目録 2024. きべりはむし, 47(1): 45-62.
- 宇野宏樹, 2024. 兵庫県産蛾類の概観について—兵庫県産蛾類分布記録データベースの作成にあたって—. きべりはむし, 47(2): 12-27.

### 追記

本稿の投稿後に「兵庫県産蛾類分布記録データベース (2025 年版)」が公開された. 本稿中「兵庫県未記録と考えられる上郡産の蛾類」の項に挙げた各種が, 兵庫県では未記録であることを改めて確認した.



図 4: ミダレモンクチブサガ.



図 5: サビイロクチブサガ.



図 6: ヤマウコギヒラタマルハキバガ.



図 7: シロテンクロマイコガ.



図 8: アシブサトガリホサガ.



図 9: クルミシントメキバガ.



図 10: オドリキバガ.



図 11: ヒメクロバ.

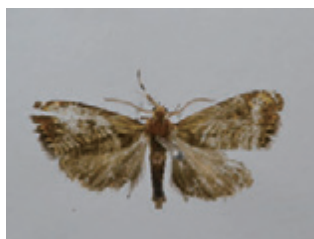


図 12: オオナミモンマダラハマキ.



図 13: コクワヒメハマキ.



図 14: マノヒメハマキ.



図 15: ウスキヒメトリバ.



図 16: フタスジフトメイガ.



図 17: ツマムラサキアツバ.

## 但馬海岸のカミキリムシ

小西和夫<sup>1)</sup>

### 1. はじめに

前号で 2024 年までに県内で確認したカミキリムシ 230 種を報告したが (小西, 2025), 2025 年は各産地の中で近年最も注目している御崎・三尾林道 (香美町香住区余部から御崎地区を経て新温泉町浜坂三尾地区に至る林道) <以下, 「御崎」と表記>に定期的に通った。

この地は対馬暖流が久斗山・蓮台山山系の山塊に接岸し, 但馬海岸を下に見て険しい山際を縫うように走る林道で, タブノキやナナカマドが共生, 自然度の高い豊かな植生を保持し, 南方系や山地系の種などが共存する特異なファウナを形成する。私は同じ対馬暖流に接する京都の冠島や福井の海岸, 島根半島等で記録のある島嶼性の希少種が当地にも生息している可能性があるのではと考えている。

また現地でも時々会った小椋隆氏からは, 御崎のケルシウム (*Ceresium*: ヒメカミキリ属) についてリュウキュウヒメカミキリではないかとの示唆があり, 先にヨコヤマヒメカミキリとテツイロヒメカミキリとして報告した記録をもう一度検証する目的もできた。

### 2. 御崎のケルシウム

一般にケルシウムは地域や個体間での変異も多く, 体色の変化も大きい同定の難易度が高い。私の場合は標本を作成していないので, 写真で判別できそうな前胸の形状, 縦線や小突起, 体毛, 触角の各節の長さ, そして産地の記録などを頼りに判定してきた。今回 2025 年の採集記録および過去の記録写真を照合するなかで, いくつかの誤同定が判明した。

ヨコヤマヒメカミキリは浜坂や冠島に記録があり, テツイロヒメカミキリは阪神間の報告では移入種とされる (三木, 2015)。また冠島ではリュウキュウヒメカミキリ, チャイロヒメカミキリの記録もある (岩田ほか, 1993)。御崎にはケルシウムが多く, たくさん採れる日には各個体のカメラでの撮影を省略していたことが悔やまれるが, 新たにヒゲナガヒメカミキリを採集 (図 6), 特徴を視認できたことで, 小西 (2025) でテツイロヒメカミキリとしていた個体 (2021. 8. 2) はヒゲナガヒ

メカミキリであることが確認できた。

また撮影時ヒゲナガヒメカミキリと思いながら体形に違和感を覚えた個体は, 後日写真を拡大して, 触角にトゲがあることからトゲヒゲトビイロカミキリと判明した。図鑑で見えていたトゲヒゲトビイロカミキリはトビイロカミキリの仲間というのでもう少し大きいとの思い込みがあり, 全く気づかなかった。ヒゲナガヒメカミキリは瀬戸内海に面した阪神間に記録があり, トゲヒゲトビイロカミキリも淡路島や阪神間で採れているが, 但馬では記録の無い島嶼性の種である。

ヨコヤマヒメカミキリとテツイロヒメカミキリ, リュ



図 1. トゲヒゲトビイロカミキリ 2025.7.17 図 2. ヨコヤマヒメカミキリ 2025.7.17 図 3. リュウキュウヒメカミキリ? ① 2025.6.30



図 4. リュウキュウヒメカミキリ? ② 2022.7.10 図 5. リュウキュウヒメカミキリ? ③ 2021.7.22 図 6. ヒゲナガヒメカミキリ 2025.6.30



図 7. リュウキュウヒメカミキリ 2018.7.2 沖縄 図 8. チャイロヒメカミキリ? 2024.6.16 北山

<sup>1)</sup> Kazuo KONISHI 西宮市

ウキュウヒメカミキリの判別は特に難しいが、池田氏のご指摘もあり、小西（2025）でテツイロヒメカミキリとしていた個体（図 5）は、リュウキュウヒメカミキリの可能性が高いと考えられる。またヨコヤマヒメカミキリとしていた 1 個体（図 4）も同種として、訂正しておきたい。沖縄や奄美のリュウキュウヒメカミキリ基亜種は暗褐色で暗い体色の印象が強く（図 7）、過去に兵庫の記録が無かったこともあってテツイロヒメカミキリとしていたが、やはり前胸の特徴が異なるようだ。御崎のケルシウム 3 種は、いずれも同じような明るい黄褐色の個体が多い。

そしてテツイロヒメカミキリとして小西（2025）で写真を掲載した西宮市北山の個体（図 8）は、淡路島でも記録のあるチャイロヒメカミキリ本土亜種の可能性があると思われる。

### 3. ヤツボシシロカミキリの新産地

御崎には島嶼性の種とともに、標高が 100 ~ 300m 程にもかかわらず 1000m 級の氷ノ山や鉢伏山で見られるような山地性の希少種も多い。

2025 年は島嶼性のトラフホソバネカミキリ（3exs. 18. VI）やチャイロチビヒラタカミキリ（2 exs. 5. VI）、サドチビアメイロカミキリ（2 exs. 18. VI）などの追加記録に加えて、新たに南方系のシロスジドウボソヤクロオビトゲムネカミキリを確認した。さらに城山園地ではムネマダラトラカミキリも得ている。

山地性の種ではトウキョウトラカミキリやクロサワヒメコバネカミキリ、フタコブルリハナカミキリ、ベニバハナカミキリ、チビコブカミキリ、アオカミキリ、オオアオカミキリなどに会えた。

なかでも驚いたのがヤツボシシロカミキリ。かねてツシマナナカマドは意識していたが兎和野以外では得られていないこともあり、完全に想定外であった。はじめリョウブの花を掬って本種が網に入ったので、あたりを見まわすと隣にナナカマドがある。さらに近くの枯枝が目立つナナカマドの生葉を掬って追加の 1 頭を得た。

兎和野の例を思い出し、これも近くのノグルミを掬うとタカサゴシロカミキリが網に入った。ここでも両種は同所的に生息しているようだ。

### 4. 御崎, 城山園地で新たに確認したカミキリ (2025 年)

前回の報文では御崎で 91 種を報告しているが、1 種（テツイロヒメカミキリ）を減じ、2025 年は新たに 21 種を確認した。また城山園地では従来の 48 種に加えて 1 種を追加、両産地の重複種を除くと全体で 125 種となる。

<\*印は、前号の報告種 (230 種) 以外の新規追加種、  
下線は前報文からの訂正記録>

1. フタコブルリハナカミキリ *Japanocorus coeruleipennis* (Bates, 1873) (図 9)

ミズキ等の花 ①御崎, 1 ex. 18. VI. 2025 ; 1 ex. 30. VI. 2025

2. チビハナカミキリ *Alosterna chalybeella* (Bates, 1884) (図 10)

①御崎, 2exs. 1. V. 2025

3. アカハナカミキリ *Aredolpona succedanea* (Lewis, 1879) (図 11)

①御崎, 1ex. 28. VII. 2025

- \* 4. ベニバハナカミキリ *Paranaspia anaspidoides* (Bates, 1873) (図 12)

ミズキ等の花 ①御崎 1ex. 18. VI. 2025

- \* 5. トゲヒゲトビイロカミキリ *Nysina rufescens* (Pic, 1923) (図 1)

枯枝や粗朶 ①御崎, 3exs. 17. VII. 2025

- [ヨコヤマヒメカミキリ *Ceresium holophaeum* Bates, 1873] (図 2)

①御崎, 4exs. 17. VII. 2025 ; 1ex. 28. VII. 2025 ; 1ex. 7. VIII. 2025 ; 1ex. 25. VII. 2024 ; 3exs. 10. VII. 2022. 養父市万久里 CVS, 1ex. 25. VI. 2024

- \* 6. リュウキュウヒメカミキリ? *Ceresium* sp. (図 3-5)

枯枝や粗朶 ①御崎, 1ex. 30. VI. 2025 ; 1ex. 10. VII. 2022 ; 1ex. 22. VII. 2021

- \* 7. ヒゲナガヒメカミキリ *Ceresium longicorne* Pic, 1926 (図 6)

枯枝や粗朶 ①御崎, 3exs. 30. VI. 2025 ; 1ex. 7. VIII. 2025 ; 1ex. 2. VIII. 2021

8. クロサワヒメコバネカミキリ *Epania septemtrionalis* Hayashi, 1950 (図 13)

クマノミズキの枯枝 ①御崎, 1 ex. 18. VI. 2025

9. オオアオカミキリ *Chloridolum thaliodes* Bates, 1884 (図 14)

カラスザンショウの花 ①御崎, 2exs. 17. VII. 2025 ; 2exs. 28. VII. 2025

10. アオカミキリ *Schwarzerium quadricollis quadricollis* (Bates, 1884) (図 15)

カラスザンショウの花 ①御崎, 1ex. 28. VII. 2025

- \* 11. ムネマダラトラカミキリ *Xylotrechus grayii grayii*  
(White, 1855) (図 16)  
枯枝に飛来 ②城山 1ex. 30. VI. 2025
- 12. トウキョウトラカミキリ *Chlorophorus yedoensis*  
(Kano, 1933) (図 17)  
カエデの花 ①御崎, 1ex. 1. V. 2025
- 13. マツシタトラカミキリ *Anaglyptus matsushitai*  
Hayashi, 1955 (図 18)  
①御崎, 1ex. 20. V. 2025
- 14. ハスオビヒゲナガカミキリ *Cleptometopus bimaculatus* (Bates, 1873) (図 19)  
①御崎, 1ex. 18. VI. 2025
- 15. シロスジドウボソカミキリ *Pothyne annulata annulata* Breuning, 1942 (図 20)  
枯枝や粗朶 ①御崎, 1ex. 18. VI. 2025
- 16. クワサビカミキリ *Mesosella simiola* Bates, 1884  
(図 21)  
①御崎, 3exs. 20. V. 2025 ; 1ex. 5. VI. 2025
- 17. タカサゴシロカミキリ *Olenecamptus formosanus* Pic, 1914  
(図 22)  
ノグルミ生葉 ①御崎, 1ex. 17. VII. 2025
- 18. ヤツボシシロカミキリ *Olenecamptus octopustulatus*  
(Motschulsky, 1873) (図 23-24)  
ナナカマド生葉 ①御崎, 2exs. 17. VII. 2025
- \* 19. チビコブカミキリ *Miccolamia (Isomiccolamia) verrucosa* Bates, 1884 (図 25)  
サワフタギの枯枝 ①御崎, 1ex. 1. V. 2025 ; 1ex. 20. V. 2025 ; 1ex. 5. VI. 2025
- 20. トゲバカミキリ *Rondibilis saperdina* (Bates, 1884)  
(図 26)  
枯枝や粗朶 ①御崎, 2exs. 30. VI. 2025 ; 1ex. 28. VII. 2025
- \* 21. クロオビトゲムネカミキリ *Sciades (Estoliopus) fasciatus fasciatus* (Matsushita, 1943) (図 27)  
枯枝や粗朶 ①御崎, 1ex. 1. 30. VI. 2025
- 22. ジュウニキボシカミキリ *Paramenesia theaphia*  
(Bates, 1884) (図 28)  
ハリギリの生葉 ①御崎, 1ex. 18. VI. 2025

## 5. おわりに

永幡嘉之は 90 年代に城山園地と観音山等浜坂町海岸部で詳細な調査を行い、但馬海岸のカミキリムシ相について 128 種を報告している。報文では香住区余部でオオアカミキリ等を得ていることにも触れ、「これらの地域まで調査範囲に加えるなら、但馬海岸のカミキリムシ相は一層豊かなものになるだろう」と述べている(永幡, 1999)。

筆者は対馬暖流に接する城山園地のカミキリムシに惹かれ、その後御崎・三尾林道まで足を伸ばすことになるが、訪れる度に驚きの出会いがあり、新たな発見がある但馬海岸に魅了されてきた。2025 年は 8 回訪れたが、毎回やはり心が躍るような体験をした。海を見下ろしながら林道脇のアカメガシワやノグルミの生葉を掬ってトラフホソバネやタカサゴシロなどが入る光景には既視感があった。この感覚はかつて対馬の海岸近くの林道で網を振り続けた、幸福な時間と場所の記憶に繋がる。但馬海岸は「リトル対馬」なのだ。

今回までに御崎と城山園地で確認できた 125 種のうち 44 種は永幡の報文に記載が無かったものである。御崎には島嶼性のケルシウムが多産するほか、ピドニアを含むハナカミキリなど、浜坂町の海岸部より山地系の種が多くみられる。小椋氏も近年この地を探索されているとのことで、私もまた但馬海岸のカミキリムシ相の解明に資するよう、遠距離遠征を続けたいと思う。

末尾ながら但馬海岸の特異なカミキリ相にいち早く注目し、その魅力を紹介された永幡嘉之氏に敬意を表するとともに、今回もケルシウムの同定に際し多くのご指摘やご助言を賜った池田大氏に厚くお礼申し上げます。

## 引用文献

- 岩田隆太郎・水野弘造・常喜豊, 1993. 京都府のカミキリムシ. 関西甲虫談話会. 118pp.
- 小西和夫, 2025. 兵庫県のカミキリムシの記録 (2012 ~ 2024). きべりはむし, 48(1): 1-34
- 永幡嘉之, 1999. 但馬海岸のカミキリムシ. IRATSUME, (23): 1-4
- 廣田嘉正・三木三徳・八木正道, 2001. 兵庫県のカミキリムシ. 104pp.
- 三木進, 2015. 兵庫県産テツイロヒメカミキリを追う. きべりはむし, 37(2): 24-27

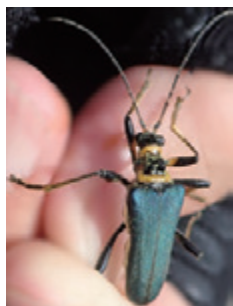


図 9. フタコブルリハナカミキリ 2025.6.18



図 10. チビハナカミキリ 2025.5.1



図 11. アカハナカミキリ 2025.7.28



図 12. ベニバハナカミキリ 2025.6.18



図 13. クロサウヒメコバネカミキリ 2025.6.18



図 14. オオアオカミキリ 2025.7.17

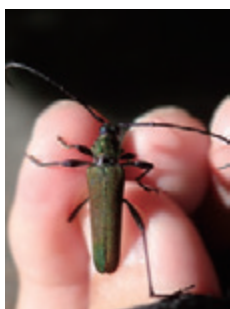


図 15. アオカミキリ 2025.7.28



図 16. ムネマダラトラカミキリ 2025.6.30



図 17. トウキョウトラカミキリ 2025.5.1



図 18. マツシタトラカミキリ 2025.5.20

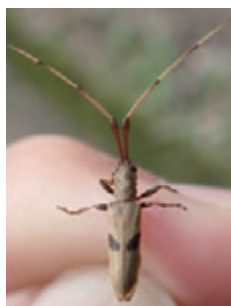


図 19. ハスオビヒゲナガカミキリ 2025.6.18

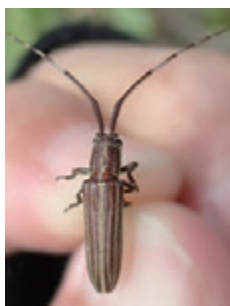


図 20. シロスジドウボソカミキリ 2025.6.18



図 21. クワサビカミキリ 2025.5.20



図 22. タカサゴシロカミキリ 2025.7.17

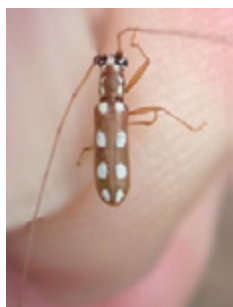


図 23. ヤツボシシロカミキリ ① 2025.7.17



図 24. ヤツボシシロカミキリ ② 2025.7.17



図 25. チビコブカミキリ 2025.5.20



図 26. トゲバカミキリ 2025.6.30



図 27. クロオビトゲムネカミキリ 2025.6.30

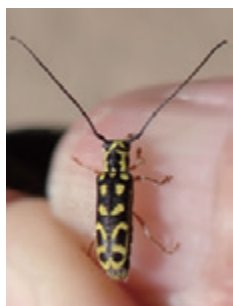


図 28. ジュウニキボシカミキリ 2025.6.18

## 兵庫県におけるアカマダラハナムグリの追加記録と古い標本記録

宮下直也<sup>1)</sup>・瀧北聖七<sup>2)</sup>・瀧北俊志<sup>3)</sup>・水田啓之<sup>4)</sup>

アカマダラハナムグリ *Anthracophora rusticola* Burmeister, 1842 は、環境省レッドリスト（環境省, 2020）で情報不足、兵庫県版レッドリスト 2022（兵庫県, 2022）で A ランクに選定されている。

2024 年、兵庫県姫路市内で本種が発見された（花房ほか, 2024）ことを受け、姫路科学館から姫路市役所広報課を通じて記者発表を行ったところ、「市内で『幻のコガネムシ』初確認 希少種アカマダラハナムグリ」の見出しで神戸新聞の姫路地域版に掲載された（神戸新聞 2024 年 8 月 5 日）。この情報をもとに、本種の未記録地である相生市及びたつの市から本種の追加個体を発見するに至ったため報告する。また、姫路科学館の収蔵室において標本調査を行ったところ、同じく未記録地である加西市産の古い標本を発見したため併せて報告する。



図 1 たつの市産アカマダラハナムグリ。

### 【標本記録】

1ex., 兵庫県相生市矢野町瓜生 羅漢の里, 8- V -2024, 水田啓之採集。

シラカシと思われる木の樹液をなめている個体を採集後、水田宅にて飼育。新聞記事を読み、姫路科学館へ持ち込み。

1ex., 兵庫県たつの市誉田町井上, 13- V -2024, 瀧北聖七・瀧北俊志採集（図 1）。

カブトムシ・クワガタムシを採集するため、畑に切断したスイカを設置したところ、見慣れないコガネムシが飛来。新聞記事を読んで本種と判断し、姫路科学館へ持ち込み。

1ex., HOKKESAN KASAI, 27- VIII -1960, 田中採集。

1ex., HOKKESAN KASAI, 27- VIII -1962。

加西市法華山産。尾崎健次コレクションに含まれる標本（一部は宮下, 2022 で報告済み）。

これらの記録を筆者が知り得た兵庫県における本種の文献記録と合わせて整理すると、兵庫県 41 市町における記録市町は 18 市町となった（表 1, 図 2）。大型鳥類の巣に依存する（例えば、楨原ほか, 2004）という特殊な生態ではありながらも、一か所のコウノトリの巣から成虫・蛹・幼虫（いずれも死亡含む）33 頭と空の

繭 268 頭が発見された報告（那須ほか, 2012）もあることから、想定されているよりも個体数が多いかもしれないと推察される。今回、新聞掲載を通じて発見があったことから、本種の認知度が向上することで未記録の市町から新たに発見される可能性が高い。一方、分布図を見るに県中央部の山地には分布していない可能性もあるため、さらなる調査が必要である。

最後に、本種の記録についてご教示くださった森正人氏にお礼申し上げる。

### 引用文献

環境省, 2020. 環境省レッドリスト 2020, <https://www.env.go.jp/press/107905.html>.

久保弘幸, 2012. 淡路島でアカマダラコガネを採集。きべりはむし, 35 (1): 43.

神戸新聞（姫路地域版）, 2024 年 8 月 5 日. 市内で「幻のコガネムシ」初確認 希少種アカマダラハナムグリ。

柴田剛, 2018. 兵庫県加古川市でアカマダラハナムグリを採集。きべりはむし, 41 (1): 28.

高橋寿郎, 1984. 兵庫県のハナムグリ（兵庫県甲虫相

<sup>1)</sup> Naoya MIYASHITA 姫路科学館；<sup>2)</sup> Sena TAKIKITA 姫路市立安室東小学校；<sup>3)</sup> Shunji TAKIKITA 姫路市立安室東小学校；<sup>4)</sup> Hiroyuki MIZUTA 兵庫県相生市

表1 兵庫県におけるアカマダラハナムグリの記録.

兵庫県版レッドリスト以外の文献記録が確認できない市町については、「文献で確認できた記録地」と「文献」を空欄とした.

| 現市町  | 県版 RL<br>2022 | 文献で確認できた記録地<br>(本報告含む) | 文献                                 |
|------|---------------|------------------------|------------------------------------|
| 神戸市  | ○             | 神戸市北区藍那                | 徳平 (2010)                          |
|      |               | 烏原                     | 高橋 (1984)                          |
|      |               | 御影                     | 関 (1933) *, 柴内 (1950) *, 高橋 (1984) |
|      |               | 六甲山                    | 高橋 (1984) : 柴内 (1950) *            |
|      |               | 摩耶山                    | 増田・橋本 (1941) *, 高橋 (1984)          |
| 姫路市  | -             | 姫路市石倉                  | 花房ほか (2024)                        |
|      |               | 姫路市石倉峯相の里              |                                    |
| 西宮市  | ○             | 西宮市内                   | 高橋 (1984)                          |
| 洲本市  | ○             | 洲本市物部                  | 堀田 (1977) *, 高橋 (1984)             |
|      |               | 洲本市三熊山<br>津名町大町        | 登日 (1978)                          |
| 相生市  | -             | 相生市矢野町瓜生 羅漢の里          | 本報告                                |
| 豊岡市  | ○             | 豊岡市日撫                  | 那須ほか (2012)                        |
|      |               | 豊岡市野上, 百合地, 伊豆, 福田, 戸島 | 那須ほか (2010)                        |
|      |               | 出石郡但東町奥矢根              | 高橋 (1963) *, 高橋 (1981), 高橋 (1984)  |
|      |               | 出石郡内町                  | 高橋 (1975) *, 高橋 (1981), 高橋 (1984)  |
|      |               |                        |                                    |
| 加古川市 | ○             | 加古川市加古川町大野 日岡山公園       | 柴田 (2018)                          |
| 宝塚市  | ○             | -                      | -                                  |
| 川西市  | ○             | 川西市芋生                  | 仲田 (1978) *, 高橋 (1984)             |
| 三田市  | ○             | -                      | -                                  |
| 加西市  | -             | 加西市法華山                 | 本報告                                |
| 養父市  | ○             | -                      | -                                  |
| 丹波市  | ○             | 黒井                     | 高橋 (1984)                          |
|      |               | 氷上郡                    | 山本 (1953) *, 高橋 (1984)             |
| 朝来市  | ○             | -                      | -                                  |
| 淡路市  | ○             | 淡路市志筑東ヶ丘               | 久保 (2012)                          |
|      |               | 津名郡一宮町江井               | 堀田 (1980) *, 高橋 (1984)             |
| 加東市  | ○             | 加東市上久米, 高岡             | 徳平ほか (2013)                        |
|      |               | 加東市上久米やしろの森公園          | 山本 (2010)                          |
| たつの市 | -             | たつの市菅田町井上              | 本報告                                |
| 新温泉町 | ○             | -                      | -                                  |

\* 他文献を介した引用であり, 原典の確認は行っていないため, 引用文献に書誌情報を示していない.



図2 兵庫県におけるアカマダラハナムグリの分布市町.

資料・130). てんとうむし, 9:1-17.

高橋匡, 1981. 但馬地方昆虫目録 (予報第6報). IRATSUME, 5:59-67.

徳平拓朗・堀内湧也・中安慎太郎, 2010. 神戸市北区藍那で採集された貴重な昆虫. きべりはむし, 32 (2):15-17.

徳平拓朗・高尾海星, 2013. 加東市で採集された注目すべき昆虫. きべりはむし, 35 (2):24-27.

登日邦明, 1978. アカマダラコガネ三熊山に産す. PARNASSIUS, 18:17.

那須義次・村濱史郎・三橋陽子・大迫義人・上田恵介, 2010. コウノトリの巣から発見された鞘翅目と鱗翅目昆虫. 昆虫. ニューシリーズ, 13 (3-4):119-125.

那須義次・三橋陽子・大迫義人・上田恵介, 2012. 兵庫県豊岡市のコウノトリの巣に共生する動物. 昆虫. ニューシリーズ, 15 (3):151-158.

花房高志・榮藤巨輝・宮下直也, 2024. 姫路市内でアカマダラハナムグリを採集. きべりはむし, 47 (1):67.

兵庫県, 2022. 兵庫県版レッドリスト2022 (昆虫類), [https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/jp/environment/leg\\_240/leg\\_289/2022](https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/jp/environment/leg_240/leg_289/2022).

槇原寛・阿部学・新里達也・早川浩之・飯嶋一浩, 2004. ワシタカ類の巣で生活するアカマダラハナムグリ. 甲虫ニュース, 148:21-23.

宮下直也, 2022. 姫路科学館収蔵の兵庫県産オサムシ標本と姫路市のオサムシ文献記録. きべりはむし, 45 (1):73-78.

山本勝也, 2010. アカマダラコガネ加東市での採集例. きべりはむし, 32 (2):39.

## 兵庫県からのニセモンキマメゲンゴロウの採集記録

Collecting records of *Platambus convexus* OKADA (Coleoptera: Dytiscidae) from Hyogo Prefecture

岡田亮平<sup>1)</sup>・森 正人<sup>2)</sup>

### はじめに

ニセモンキマメゲンゴロウ *Platambus convexus* OKADA, 2011 (以下, ニセモンキ) はモンキマメゲンゴロウ属 *maculatus* 種群に属する小型の流水性ゲンゴロウである(中島ほか, 2020)。本種は北海道江別市を基準産地として記載され(Okada, 2011), 以降, 青森県(北野, 2012), 岩手県(茅野ほか, 2023), 秋田県(佐藤, 2020), 宮城県(只野・相蘇, 2025), 福島県(吉井, 2012), 千葉県(佐野・矢口, 2025), 神奈川県(藤原ほか, 2020), 静岡県(渡部・小林, 2025), 愛知県(萩原, 2020) 及び長崎県対馬(秋田・境, 2022) から報告され, 徐々に分布地域の解明が進んでいる。

本種は平野部を流れる細流や山間部の比較的流れの緩やかな小河川で採集されることが多いが産地は局地的であり, どの地域でも記録は少ない。筆者らは従来記録のなかった兵庫県で本種を採集しているので報告する。兵庫県は本土では西限の記録となる。

標本の保管場所については次のとおり略記した: 岡田亮平コレクション (CRO); 森正人コレクション (CMM); 下野誠之コレクション (CMS)。



図1 兵庫県産ニセモンキマメゲンゴロウ♂.  
スケール 5.0mm (背面図), 1.0mm (雄交尾器中央片)

### 採集記録

兵庫県 [初記録]: 2♂♂ 3♀♀ (CRO), 三田市福島, 27-V-2012, 岡田・三橋弘宗採集; 1♂ 2♀♀ (CRO), 同所, 16-VI-2016, 岡田採集 (図1); 1♂ (CMS) 1♀ (CMM), 同所, 21-XI-2021, 森採集; 8♂♂ 8♀♀ (CMM), 同所, 9-IV-2022, 森採集; 4♂♂ 6♀♀ (CMM), 同所, 16-IV-2022, 森採集; 4♂♂ 6♀♀ (CMM), 同所, 22-V-2022, 森採集; 6♂♂ 10♀♀ (CMS), 同所, 22-V-2022, 下野誠之採集; 10♂♂ 9♀♀ (CMM), 同所, 4-IX-2022, 森採集。

### 生息環境及び確認状況

兵庫県における本種の生息環境は, 平野部の溜池に流れ込む小河川であり, 上流にはダムがない。当河川ではモンキマメゲンゴロウ *Platambus pictipennis* と混生するが, 明確なすみわけを行っており, ニセモンキは岩盤上や岸辺に木の根が張り出したエリア (図2) や僅かに水深が深くなる場所ではしか採集されていない。モンキマメゲンゴロウに比べて動きが不活発で, 特に11月21日に確認された個体はほとんど動かない状況であった。このような特異な生息環境や活動の鈍さにより, 本種の発見が遅くなった可能性が考えられる。また, 5月22日に確認された10♂ 16♀のうち4♀は上翅が軟らかく, 羽化直後の個体と思われた。それ以外の個体も新鮮なものが多く, 生態情報のひとつとして付記しておきたい。



図2 生息環境。

<sup>1)</sup> Ryohei OKADA Thailand National History Museum; <sup>2)</sup> Masato MORI 環境科学大阪株式会社

なお、筆者らは本種の特異な生息環境や生態を意識して、確認河川が流れる山塊の別河川や三田市内及び周辺地域でも確認調査を行っているが、今のところ新たな生息河川の発見に至っていない。

#### 地理的変異

兵庫県産の本種は、他地域と比べてやや小型で体幅が広い傾向にある(図1)。また雄交尾器中央片の湾曲度合いは、北海道や青森県産と比較するとやや緩やかであり、長崎県(対馬)産との中間的な形質を有している。今後の研究を待ちたい。

#### 謝辞

調査に同行頂いた三橋弘宗(兵庫県人と自然の博物館)、下野誠之(環境科学大阪株式会社)及び調査の手続き等でお世話になった八木 剛(兵庫県人と自然の博物館)、吉田峰規(三田市有馬富士自然学習センター)の各氏にあつくお礼申し上げる。

#### 引用文献

- 秋田勝巳・境 良明, 2022. 対馬産ニセモンキマメゲンゴロウの記録. 月刊むし, (670): 47-48.
- 藤原大貴・内船俊樹・大澤啓志, 2020. 三浦半島から採集されたニセモンキマメゲンゴロウ. 横須賀市博物館研究報告(自然科学), (67): 33-35.
- 萩原涼太, 2020. 愛知県でニセモンキマメゲンゴロウを採集. 月刊むし, (596): 58-59.
- 茅野輝昭・成瀬健一・菊地恭司・渡部晃平, 2023. 岩手県におけるゲンゴロウ科2種の初記録. Sayabane N. S., (49): 24-25.
- 北野 忠, 2012. 青森県におけるニセモンキマメゲンゴロウの記録. Sayabane N. S., (5): 27-28.
- 中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之, 2020. 日本の水生昆虫. 文一総合出版, 351pp.
- Okada R, 2011. A new species of the genus *Platambus* (Coleoptera, Dytiscidae) from Hokkaido, Japan. Elytra N.S., 1(1): 31-38.
- 佐野真吾・矢口孝太郎, 2025. 千葉県におけるニセモンキマメゲンゴロウの初記録. Sayabane N. S., (58): 3-4.
- 佐藤福男, 2020. ニセモンキマメゲンゴロウ秋田県での記録. 月刊むし, (598): 12-13.
- 只野心優斗・相蘇 巧, 2025. 宮城県からニセモンキマメゲンゴロウの初記録. 月刊むし, (647): 53-54.
- 吉井重幸, 2012. 福島県におけるニセモンキマメゲンゴロウ. ふくしまの虫, (30): 65-66.
- 渡部晃平・小林成彦, 2025. 静岡県におけるニセモン

キマメゲンゴロウの初記録. Sayabane, N. S., (59): 75.

## 兵庫県赤穂市におけるヒメケブカカスミカメの採集報告

菅藤康平<sup>1)</sup>

### はじめに

ヒメケブカカスミカメ *Tingitotum befui* Yasunaga, 1999 は高知県 (足摺岬) で発見され (安永他, 2016), その後, 宮崎県, 奈良県, 千葉県 (望月, 2023) から記録されている。また望月 (2023) では, 千葉県を国内における東限記録として報告されている。このことから, 本種の分布が拡大しているか, 国内における分布範囲は予想以上に広い可能性が考えられる。

筆者は兵庫県赤穂市雄鷹台山において, ヤマザクラ *Cerasus jamasakura* のスウィーピングにより, ヒメケブカカスミカメを2個体採集した (図1-3)。兵庫県における正式な記録は見当たらず, 兵庫県初記録と考えられるので, 本稿にて採集記録を報告する。採集者, 保管者はすべて筆者である。

本稿では兵庫県赤穂市における採集記録の報告及び今日までの国内における分布状況を整理し, 本種の生態に関して考察を行う。

### 採集記録

2 ♀, 赤穂市雄鷹台山, 29. IV. 2025. ヤマザクラから採集 (図1・2)

### 国内における分布状況

本種の分布状況把握のため, 本稿の調査結果に加え文献調査を行った。得られた結果を以下の表1に示す。また視覚的に分かりやすくするため, 表1の内容を図6の地図上に示した。

### 考察

筆者は, 赤穂市雄鷹台山における半翅目の調査を2022年より行っているが, 本種の採集は今回が初である。また, これまでにヤマザクラから採集された事例が見当たらず, 筆者の確認も今回のみであるため, 本種との関係性を考察するのは困難である。だが, 本種の生活史に関する詳細な調査は十分に行えていないが, 千葉県では1月にイヌマキから成虫が確認されている (望月,



図1.



図2.



図3.



図4.



図5.

<sup>1)</sup> Kohei KANTO 兵庫県立大学附属高等学校

2023) ことから成虫越冬が推察される。採集地のヤマザクラ (図 3) の周辺にはイヌマキの群落 (図 4) があり、筆者のこれまでの調査で冬季に同属のケブカカスミカメ *T. perlatus* (図 5) が確認できていることから、本種とケブカカスミカメはイヌマキで共存しており、今回採集された個体は偶然何らかの理由でヤマザクラに飛来した可能性が考えられる。

また文献調査に基づくと、本種に関する情報は極めて限られており、分布を断定することはできないが、九州から関東地方にかけて広範囲に分布している可能性が高いと考えられる。ただし、情報が不足しているため、引き続き分布状況の調査を継続していきたい。

### 謝辞

本研究の文献調査にあたり、ご協力いただき文献を

提供してくださった望月政樹氏、山田量崇氏 (兵庫県立大学／兵庫県立人と自然の博物館) に深く感謝申し上げます。

### 引用文献

望月政樹, 2023. 富津市と南房総市でヒメケブカカスミカメを採集. 房総の昆虫, (73): 95 - 96.

Yasunaga, T., 1999. A new species of the genus *Tingitotum* (Heteroptera: Miridae) from Japan. Biogeography, 1: 45 - 50.

安永智秀・高井幹夫・中谷至伸, 2001. 日本原色カメムシ図鑑—陸生カメムシ類 Terrestrial Heteropterans—第2巻 (安永智秀・高井幹夫・川澤哲夫 編). 350pp. 全国農村教育協会, 東京.

表 1. 文献調査結果.

| 採集地           | 採集日              | 備考      | 採集方法        | 文献等             |
|---------------|------------------|---------|-------------|-----------------|
| 高知県足摺岬        | 1998 年 5 月 10 日  | タイプシリーズ | ナギから複数個体を採集 | Yasunaga (1999) |
| 高知県足摺岬        | 2016 年           |         |             | 安永他 (2016)      |
| 宮崎市丑山池        | 2017 年           |         | イヌマキから採集    | 小松 (2017)*      |
| 奈良県           | 2019 年           |         |             | 市川他 (2019)*     |
| 千葉県富津市田倉      | 2022 年 6 月 17 日  | 1 ♂     | 灯火に飛来       | 望月 (2023)       |
| 千葉県富津市田倉      | 2022 年 7 月 7 日   | 1 ♂ 1 ♀ | 灯火に飛来       | 望月 (2023)       |
| 千葉県南房総市三坂     | 2022 年 10 月 2 日  | 6 ♂ 4 ♀ | イヌマキから採集    | 望月 (2023)       |
| 千葉県南房総市合戸     | 2022 年 10 月 9 日  | 1 ♂ 2 ♀ | イヌマキから採集    | 望月 (2023)       |
| 千葉県南房総市和田町    | 2022 年 10 月 16 日 | 3 ♂ 1 ♀ | イヌマキから採集    | 望月 (2023)       |
| 千葉県南房総市富浦町大房岬 | 2023 年 1 月 8 日   | 1 ♂     | イヌマキから採集    | 望月 (2023)       |
| 千葉県南房総市二部     | 2023 年 7 月 5 日   | 2 ♂     | イヌマキから採集    | 望月 (2023)       |
| 兵庫県赤穂市        | 2025 年 4 月 29 日  | 2 ♀     | ヤマザクラから採集   | 筆者記録            |

\* 他文献を介した引用であり、原典の確認は行っていないため、引用文献に書誌情報を示していない。

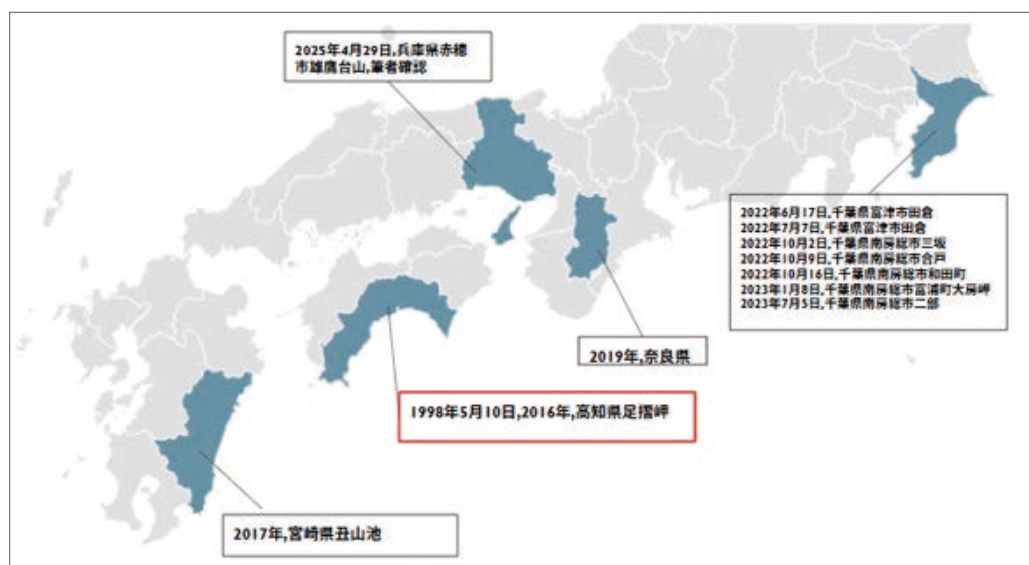


図 6. 表 1 をもとに作成したヒメケブカカスミカメの分布記録

## みんなでつなぐ 初蝶リレー 2025

久保弘幸<sup>1)</sup>

### 1. 実施方法

これまでと同じく、立春（2025 年は 2 月 3 日）から、4 月 6 日の昆虫館開館（むし開き）までの間に、参加者が目撃した蝶の種類、日時、場所を、佐用町昆虫館のブログ上に開設された入力フォームに入力するという方法で実施した。入力された情報、投稿された写真などは、自動的に筆者に送信され、筆者は寄せられた情報をとりまとめ、「初蝶ニュース」として週に 1 回メール配信し、同時にブログ記事として写真とともに公開した。本年の配信回数は 10 回（号数は 9 号までだが 7 号に追加号があったため）であった。

期間中に、初蝶種は 12 種 45 件、越冬種は 9 種 41 件、蛾は 56 種 70 件、その他の昆虫は 34 種 47 件の情報が寄せられた。頂戴した情報は、後掲の付表 1～4 にまとめて掲載している。またお寄せいただいた写真も後掲しているが、紙数の都合上、全ての写真を掲載できていない点にご容赦いただきたい。

### 2. 2025 年冬の気温傾向

2025 年の冬（前年 12 月～当年 3 月）は、2024 年の冬と比較して寒い冬であった。神戸地方気象台の記

録に基づき、12 月 1 日～3 月 31 日の、神戸市における日平均気温を積算してみると、昨年は 1081.2℃/日であったが今年は 1000℃/日に到達せず、122℃ほど低い 959.7℃/日であった（図 1）。図 2 は、12 月～3 月の積算温度を、初蝶リレーが始まった 2013 年から 2025 年まで並べたグラフである。このグラフからは、2～3 年おきに暖かい冬と寒い冬が繰り返しているように見える。

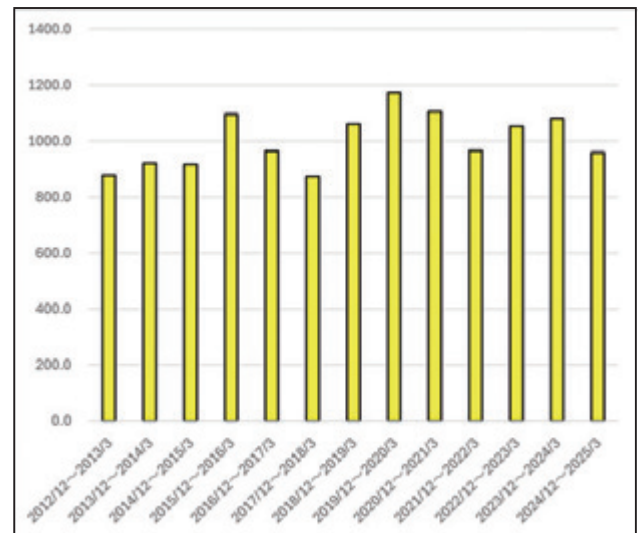


図 2 2013 年～2025 年の 12 月～3 月積算温度比較。

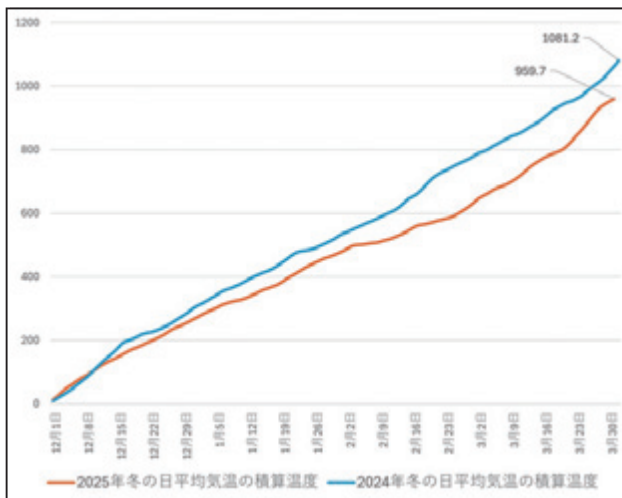


図 1 2024 年と 2025 年の冬の積算温度の比較。

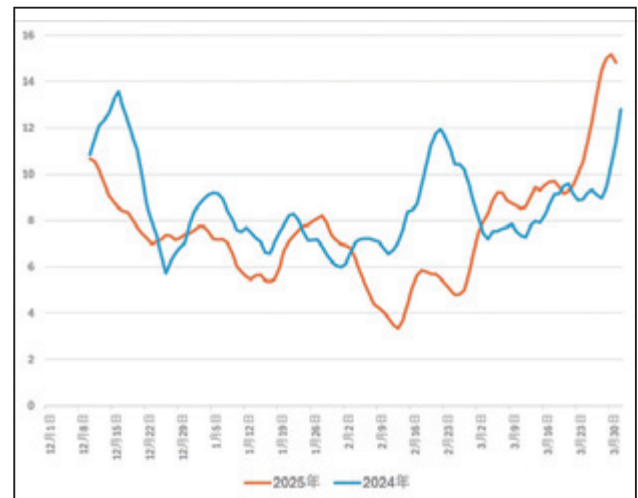


図 3 2024 年と 2025 年の日平均気温の 10 日間移動平均。

<sup>1)</sup> Hiroyuki KUBO 兵庫県明石市 兵庫ウスイロヒョウモンモドキを守る会

人が感じる冬の寒さは、気温変化の傾向にも大きく影響される。図3は、神戸市の日平均気温を、10日間の移動平均で見たグラフである。このグラフを見ると、2024年は、全体的に寒さの底が浅かったことがわかる。それに対して2025年は昨年を下回る傾向が続き、特に2月上旬には深い寒さの底があった。そして3月下旬からは急激に気温が上昇して、2024年以上に暖かい春となった。

実際の数値で見ても、日最低気温が0℃以下になった日数が、昨年は3回であったのに対し、今年は9回に達した。その最低値も昨年は-0.5℃であったのに対し、今年は2月5日から5日間連続で最低気温が氷点下を記録し、その間の最低気温は-3.1℃であった。

この寒さと対照的に、3月22日～28日の1週間は、日最高気温が20℃を超え、27日の最高気温は23.7℃と5月中旬に匹敵する気温となった。

### 3. 蝶の出現時期 (付表1・2)

#### 【初蝶組】

2025年の初蝶出現は、2024年よりもやや遅れるものが多く見られた。これは既述のように、2月の気温が、2024年と比較してかなり低く推移したことによるものだろう。

しかし多くの蝶の出現が遅れる中で、モンシロチョウは、これまでの初蝶リレーで最も早い出現だった2月14日より7日も早い、2月7日が初見日となった(宝塚市)。この記録は、羽化不全の死亡個体ではあるが、新鮮な死亡個体であったことから、今春の出現であることは間違いない。この日は最高気温がわずか5.7℃と、モンシロチョウが出現する時期の気温である、最高気温12℃～14℃よりもかなり低い。この初見日の3日前に、最高気温12.1℃が記録されていることから、この影響であった可能性がある。同時にいずれの蝶にも言えることだが、蛹化場所が人工環境の影響を受ける温暖な場所であった可能性も考慮できよう。

モンキチョウも3月1日が初見日となり、昨年よりも2週間遅い記録となった。アゲハチョウ、ベニシジミ、コツバメ、ミヤマセセリは昨年と大きく変わらない時期の初見であったが、ルリシジミ、ツバメシジミ、ヤマトシジミなどは大きく遅れている。

また例年記録されることが多いスジグロシロチョウ、ツマキチョウ、キアゲハ、ヒメアカタテハ、ツマグロヒョウモンなどは期間中に記録されず、昨年記録されたアオスジアゲハも記録がなかった。

#### 【越冬組】

越冬組の活動は、キタキチョウでやや遅れたものの、

キタテハ、アカタテハ、ルリタテハ、ヒオドシチョウなどは、昨年の初見日と前後する時期に確認されており、このあたりは初蝶組とは異なった動きをしているようである。

越冬組の代表とも言えるテングチョウは、初見が3月23日で、昨年の3月11日から2週間近く遅い初見となった。また南方系の種であるイシガケチョウも、今年は初蝶リレー期間中には報告がなく、4月12日に記録された。また越冬組では、スジボソヤマキチョウ、ツマグロキチョウ、クロコノマチョウ、ムラサキツバメの記録がなかった。

### 4. 初蛾とその他の昆虫 (付表3・4)

#### 【蛾の記録】

冬季後半に出現する蛾類は、昨年と比較してやはり遅れ気味の種が多いようである。早春を代表する種を比較してみると、トビモンオオエダシャク、イボタガなどは2週間、マイコトラガは10日遅く、オオシモフリスズメ、エゾヨツメは記録なしに終わった。

#### 【その他の昆虫】

34種47件という多くの情報をいただいた。そのうち半数の17種が、広い意味での「カメムシ類」にあたる。微小なキジラミ、コナジラミ類、アブラムシ類などはなかなか調査の対象にならないのだが、間違いなく早春を彩る生き物である。

また甲虫類では、テントウムシ情報が過半を占めるが、これまで報告されることがなかったジュウサンホシテントウの記録が注目される。本種は神戸版レッドリスト2020でCランク、環境省版レッドリストでNT(存続基盤脆弱)ランクとされており、比較的少ない種であろう。ホンクロホシテントウゴミムシダマシも初の記録であるが、こうした小型のゴミムシダマシ類自体が、これまで調査の対象になってこなかったことが原因だろう。

若い方々を中心として観察の範囲が広がっていることはたいへん素晴らしいことである。今後もこうした観察が広がることを期待したいが、一方で筆者の守備範囲を超えていて、適切にコメントできないことを申し訳なく思っている。

### 5. 終わりに

初蝶リレーも13年目となり、毎年恒例の行事となってきた。筆者にとっては、座していても多くの「春の便り」が集まってくるので、これほどの楽しみはない。多くの方々に感謝しつつ、毎年、春の先取りをさせてもらっている。

しかしこうした記録の積み重ねが、単なる「春の楽しみ」とどまらず、地域の自然環境の変化を知るための、貴重な蓄積になることは疑いない。それが多くの、昆虫に興味を抱く子どもたち、若い方々に支えられていることにも、大きな可能性を感じている。昨年も同じことを書いたが、この成果は決して筆者のものではなく、情報を寄せられたすべての方々のものである。これらの記録を活用して、皆様方がご自身で新しい研究や、新しい切り口の解釈を見つけていただければ、初蝶リレーの楽しみもさらに大きくなることだろう。できればそうした新しい見方なども、本誌へ投稿していただければと思う。

今回も、皆様から頂戴した情報の集計には十分な注意を払ったが、万一、投稿していただいたデータの記録漏れ、誤りなどがあった場合は、全て筆者の責めである。ご容赦いただくとともに、ご連絡を頂戴できれば幸いである。次号にて加除訂正させていただきたい。

末筆となるが、早春から熱心に観察・投稿をいただいた皆様に、改めて感謝を申し上げる。

付表 1. 初蝶組の記録

| 種名      | 確認日   | 確認数    | 確認場所            | 確認者           | 備考                    |
|---------|-------|--------|-----------------|---------------|-----------------------|
| モンキチョウ  | 3月1日  | 2exs.  | 洲本市都志           | 山口雄都          |                       |
|         | 3月1日  | 1♂     | 大和郡山市下三橋町       | 島岡優           |                       |
|         | 3月14日 | 5exs.  | 小野市<br>(加古川河川敷) | 植田義輔          |                       |
|         | 3月21日 | 1ex.   | 高砂市高砂町          | 三村寛子          |                       |
|         | 3月23日 | 1♂     | 榑原市南山町          | 宮武頼夫          |                       |
|         | 3月25日 | 2♂     | 高砂市松波町          | 島崎正美          |                       |
|         | 3月25日 | 1♀     | 高砂市荒井町          | 島崎正美          |                       |
|         | 3月26日 | 1♂     | 加古川河川敷          | 宮武頼夫          |                       |
| モンシロチョウ | 2月7日  | 1ex.   | 宝塚市             | 齋藤泰彦          |                       |
|         | 3月1日  | 1ex.   | 大和郡山市下三橋町       | 島岡優           |                       |
|         | 3月12日 | 1♂     | 姫路市奥山           | 松下陽子          |                       |
|         | 3月13日 | 1ex.   | たつの市新宮町         | 八木裕樹          |                       |
|         | 3月14日 | 2exs.  | 神戸市西区神出町        | 匿名            |                       |
|         | 3月17日 | 1ex.   | 淡路市尾崎           | 井嶋菜美          |                       |
|         | 3月23日 | 2♂     | 榑原市南山町          | 宮武頼夫          |                       |
|         | 3月23日 | 1ex.   | たつの市龍野町         | 前田啓治          |                       |
|         | 3月25日 | 4♂1♀   | 高砂市松波町          | 島崎正美          |                       |
|         | 3月25日 | 1♂     | 高砂市荒井町          | 島崎正美          |                       |
|         | 3月26日 | 12exs. | 加古川河川敷          | 宮武頼夫          |                       |
|         | 3月26日 | 12exs. | 榑原市木原町          | 宮武頼夫          |                       |
| アゲハチョウ  | 3月13日 | 1ex.   | 広島市東区福田町        | 内田隼人          |                       |
|         | 3月23日 | 3exs.  | 三田市大原           | 島岡優           |                       |
|         | 3月23日 |        | 小野市来住町          | 立岩幸雄          |                       |
|         | 3月26日 | 2exs.  | 榑原市木原町          | 宮武頼夫          |                       |
| ギフチョウ   | 4月4日  | 10exs. | 宝塚市大原野          | たにもとり<br>よう   | 3月29日の放蝶<br>会放蝶個体を含む? |
| ジャコウアゲハ | 4月12日 | 1♂     | 榑原市南山町          | 宮武頼夫          |                       |
| ベニシジミ   | 1月12日 | 1ex.   | 加古川市東神吉町        | 村山りりか         | 早期活動                  |
|         | 1月25日 | 1ex.   | 淡路市尾崎           | 八木剛           | 早期活動                  |
|         | 3月10日 |        | 神戸市西区           | 匿名            | 幼虫                    |
|         | 3月14日 | 2exs.  | 小野市<br>(加古川河川敷) | 植田義輔          |                       |
|         | 3月18日 | 1ex.   | 三田市内神           | 島岡優           |                       |
|         | 3月23日 | 1ex.   | 神戸市北区山田町        | くすもと<br>りよう   |                       |
| ルリシジミ   | 3月22日 | 2exs.  | 神戸市西区           | 匿名            |                       |
|         | 3月23日 |        | 三田市大原           | 島岡優           |                       |
|         | 3月23日 | 2♂     | 榑原市南山町          | 宮武頼夫          |                       |
|         | 3月26日 | 3♂     | 榑原市木原町          | 宮武頼夫          |                       |
| ヤマトシジミ  | 3月23日 | 1♀     | 榑原市南山町          | 宮武頼夫          |                       |
| ツバメシジミ  | 3月25日 | 1♀     | 高砂市松波町          | 島崎正美          |                       |
|         | 3月26日 | 1ex.   | 神戸市須磨区横尾        | 上野貢           |                       |
|         | 3月29日 | 1ex.   | 高砂市阿弥陀町         | 松口理人          |                       |
|         | 4月4日  | 1ex.   | 西宮市甲山町          | 森治己           |                       |
| コツバメ    | 3月23日 | 1ex.   | 三田市内神           | 島岡優           |                       |
|         | 3月23日 | 2exs.  | 三田市大原           | 島岡優           |                       |
| ミヤマセセリ  | 3月23日 |        | 小野市来住町          | 立岩幸雄          |                       |
|         | 3月25日 | 1ex.   | 三田市大原           | 島岡優・横<br>井那由太 |                       |
|         | 4月4日  | 2exs.  | 西宮市越水<br>社家郷山   | 森治己           |                       |

付表 2. 越冬組の記録

| 種名      | 確認日   | 確認数    | 確認場所            | 確認者         | 備考   |
|---------|-------|--------|-----------------|-------------|------|
| キタキチョウ  | 1月12日 | 1ex.   | 洲本市下内膳          | 清水瑛心        | 早期活動 |
|         | 2月26日 | 1ex.   | 高砂市阿弥陀町         | 三村剣義        |      |
|         | 2月26日 | 1ex.   | 徳島県藍住町          | 北地          |      |
|         | 3月1日  | 2exs.  | 三田市三輪           | 吉田現         |      |
|         | 3月1日  | 2exs.  | 京田辺市            | 島岡優         |      |
|         | 3月5日  | 1ex.   | 三田市弥生が丘         | 八木剛         |      |
|         | 3月10日 | 1♂     | 榑原市木原町          | 宮武頼夫        |      |
|         | 3月10日 | 1ex.   | 神戸市西区神出町        | 匿名          |      |
|         | 3月11日 | 1ex.   | 姫路市             | 松下陽子        |      |
|         | 3月14日 | 1ex.   | 神戸市西区神出町        | 匿名          |      |
|         | 3月22日 | 2exs.  | 神戸市西区神出町        | 匿名          |      |
|         | 3月23日 | 1ex.   | 高砂市松波町          | 島崎正美        |      |
|         | 3月23日 | 12exs. | 榑原市南山町          | 宮武頼夫        |      |
|         | 3月23日 | 4exs.  | 神戸市北区           | くすもと<br>りよう |      |
|         | 3月25日 | 1ex.   | 高砂市荒井町          | 島崎正美        |      |
|         | 3月26日 | 29exs. | 加古川河川敷          | 宮武頼夫        |      |
| キタテハ    | 2月15日 | 1ex.   | 三田市広野           | 島岡優         |      |
|         | 3月1日  | 1ex.   | 西宮市塩瀬町          | 森治己         |      |
|         | 3月10日 | 1ex.   | 榑原市木原町          | 宮武頼夫        |      |
|         | 3月10日 | 5exs.  | 加東市<br>(加古川河川敷) | 植田義輔        |      |
|         | 3月11日 |        | 姫路市             | 松下陽子        |      |
|         | 3月14日 | 3exs.  | 小野市<br>(加古川河川敷) | 植田義輔        |      |
|         | 3月23日 | 3exs.  | 榑原市南山町          | 宮武頼夫        |      |
|         | 3月25日 | 1ex.   | 高砂市荒井町          | 島崎正美        |      |
|         | 3月25日 | 1ex.   | 加古川河川敷          | 宮武頼夫        |      |
|         | 3月25日 | 1ex.   | 高砂市松波町          | 島崎正美        |      |
| アカタテハ   | 3月1日  | 1ex.   | 姫路市太市中          | 庄野貴美子       |      |
|         | 3月23日 | 2exs.  | 榑原市南山町          | 宮武頼夫        |      |
| ルリタテハ   | 3月22日 | 1ex.   | 神戸市西区           | 匿名          |      |
|         | 3月23日 | 1ex.   | 榑原市南山町          | 宮武頼夫        |      |
|         | 3月23日 | 多数     | 三田市大原           | 島岡優         |      |
|         | 3月23日 | 1ex.   | 神戸市北区           | くすもと<br>りよう |      |
|         | 3月25日 | 1ex.   | 高砂市松浪町          | 島崎正美        |      |
|         | 3月25日 | 1ex.   | 姫路市太市中          | 黒田修司        |      |
|         | 3月23日 | 2exs.  | 榑原市南山町          | 宮武頼夫        |      |
|         | 3月23日 | 1ex.   | 榑原市木原町          | 宮武頼夫        |      |
| ヒオドシチョウ | 4月12日 | 1ex.   | 榑原市南山町          | 宮武頼夫        |      |
| イシガケチョウ | 3月23日 | 1ex.   | 神戸市北区           | くすもと<br>りよう |      |
| デングチョウ  | 3月23日 | 1ex.   | しあわせの村          | くすもと<br>りよう |      |
|         | 3月25日 | 1ex.   | 姫路市太市中          | 黒田修司        |      |
|         | 3月26日 | 2exs.  | 榑原市木原町          | 宮武頼夫        |      |
| ウラギンシジミ | 3月22日 | 1ex.   | 西脇市西脇           | 久保弘幸        |      |
|         | 3月23日 | 1ex.   | 神戸市北区山田町        | くすもと<br>りよう |      |
| ムラサキシジミ | 3月9日  | 1ex.   | 西宮市             | 桑村祐貴        |      |
|         | 3月26日 | 14exs. | 榑原市木原町          | 宮武頼夫        |      |

付表 3. 蛾の記録

| 種名            | 確認日   | 確認数   | 確認場所              | 確認者            | 備考 |
|---------------|-------|-------|-------------------|----------------|----|
| クロテンフユシャク     | 2月11日 | 1ex.  | 淡路市尾崎             | 井嶋幸司           |    |
| ホソウスバフユシャク    | 3月1日  | 2♂    | 相生市矢野町            | 三村剣義・三村寛子・高橋弘樹 |    |
|               | 3月9日  | 1♂    | 広島県竹原市仁賀町         | 内田隼人・高橋弘樹      |    |
| シロフフユエダシヤク    | 3月1日  | 1ex.  | 淡路市尾崎             | 井嶋幸司           |    |
|               | 3月1日  | 1ex.  | 丹波篠山市             | 奥田奈緒           |    |
| ヒロバフユエダシヤク    | 3月1日  | 1ex.  | 淡路市尾崎             | 井嶋幸司           |    |
| チャオビフユエダシヤク   | 3月1日  | 8♂    | 相生市矢野町            | 三村剣義・三村寛子・高橋弘樹 |    |
|               | 3月10日 | 1♂    | 檀原市木原             | 宮武頼夫           |    |
| アトシロエダシヤク     | 3月7日  | 1ex.  | 赤穂市雄鷹山            | 菅藤康平           |    |
| ウスノキエダシヤク     | 3月26日 | 2exs. | 上郡町金出地            | 高橋弘樹           |    |
| オカモトゲエダシヤク    | 3月1日  | 1ex.  | 淡路市尾崎             | 井嶋幸司           |    |
|               | 3月9日  | 1♂    | 広島県竹原市仁賀町         | 内田隼人・高橋弘樹      |    |
| クロモンキリバエダシヤク  | 2月28日 | 1ex.  | 相生市那波野            | 高橋弘樹           |    |
| シロテンエダシヤク     | 2月16日 | 1♂    | 相生市矢野町            | 高橋弘樹           |    |
| シロトゲエダシヤク     | 3月9日  | 3♂    | 広島県竹原市仁賀町         | 内田隼人・高橋弘樹      |    |
| チャオビトビモンエダシヤク | 3月9日  | 1♂    | 広島県竹原市仁賀町         | 内田隼人・高橋弘樹      |    |
| ツマシロエダシヤク     | 3月25日 | 1ex.  | 高砂市高砂町            | 三村寛子           |    |
|               | 3月27日 | 1ex.  | 明石市貴崎             | くすもとりょう        |    |
| ホソバトガリエダシヤク   | 3月23日 | 1ex.  | 神戸市北区<br>しあわせの村   | くすもとりょう        |    |
| ミスジツマキリエダシヤク  | 3月28日 | 1ex.  | 相生市羅漢の里           | 高橋弘樹           |    |
| トビモンオオエダシヤク   | 3月1日  | 2exs. | 淡路市尾崎             | 井嶋幸司           |    |
|               | 3月1日  | 2♂    | 相生市那波野            | 三村剣義・三村寛子・高橋弘樹 |    |
|               | 3月9日  | 6♂    | 広島県竹原市仁賀町         | 内田隼人・高橋弘樹      |    |
| ハラゲチビエダシヤク    | 3月28日 | 1ex.  | 相生市羅漢の里           | 高橋弘樹           |    |
| オカモトゲエダシヤク    | 3月9日  | 1♂    | 広島県竹原市仁賀町         | 内田隼人・高橋弘樹      |    |
|               | 3月1日  | 1ex.  | 淡路市尾崎             | 井嶋幸司           |    |
| アトシロエダシヤク     | 3月21日 | 2♂    | 上郡町金出地            | 高橋弘樹           |    |
| ニッコウエダシヤク     | 3月26日 | 1ex.  | 上郡町金出地            | 高橋弘樹           |    |
| コナフエダシヤク      | 4月2日  | 1♂    | 上郡町金出地            | 高橋弘樹           |    |
| フトフタオビエダシヤク   | 3月21日 | 1ex.  | 上郡町金出地            | 高橋弘樹           |    |
| フタホシシロエダシヤク   | 3月26日 | 1ex.  | 上郡町金出地            | 高橋弘樹           |    |
| ウスベニスジナミシャク   | 3月12日 | 1ex.  | 相生市羅漢の里           | 高橋弘樹           |    |
| アカモンナミシャク     | 3月21日 | 1♂    | 相生市羅漢の里           | 高橋弘樹           |    |
| ソトカバネナミシャク    | 2月28日 | 1♂    | 相生市那波野            | 高橋弘樹           |    |
| マダラコバネナミシャク   | 3月23日 | 1ex.  | 相生市羅漢の里           | 高橋弘樹           |    |
| シタコバネナミシャク    | 3月28日 | 3exs. | 相生市羅漢の里           | 高橋弘樹           |    |
| マエナミカバナミシャク   | 3月1日  | 1♂    | 相生市矢野町            | 三村剣義・三村寛子・高橋弘樹 |    |
| モンウスカバナミシャク   | 3月12日 | 1♂    | 相生市羅漢の里           | 高橋弘樹           |    |
| ウスミドリコバネナミシャク | 3月11日 | 1ex.  | 相生市矢野町            | 高橋弘樹           |    |
| カバナミシャク sp.   | 3月19日 | 1ex.  | 神戸市中央区            | くすもとりょう        |    |
| ウスベニスジナミシャク   | 3月23日 | 1ex.  | 神戸市北区<br>しあわせの村   | くすもとりょう        |    |
| ヨホシナミシャク      | 3月28日 | 1♂    | 相生市那波野            | 高橋弘樹           |    |
| カバキリガ         | 3月21日 | 4exs. | 上郡町金出地            | 高橋弘樹           |    |
|               | 3月23日 | 1♂    | 相生市羅漢の里           | 高橋弘樹           |    |
| ケンモンキリガ       | 3月28日 | 1ex.  | 三田市波豆川            | くすもとりょう        |    |
| シロヘリキリガ       | 3月26日 | 1ex.  | 上郡町金出地            | 高橋弘樹           |    |
| スギタニキリガ       | 3月9日  | 2♂    | 広島県竹原市仁賀町         | 内田隼人・高橋弘樹      |    |
| スモモキリガ        | 3月13日 | 1ex.  | たつの市揖保町<br>揖保川河川敷 | 高橋弘樹           |    |
|               | 3月27日 | 1ex.  | 明石市貴崎             | くすもとりょう        |    |
| チャマダキリガ       | 3月1日  | 1ex.  | 西宮市塩瀬町            | 森治己            |    |
| ホソバキリガ        | 3月26日 | 1ex.  | 上郡町金出地            | 高橋弘樹           |    |
| マツキリガ         | 3月28日 | 1ex.  | 三田市波豆川            | くすもとりょう        |    |
| ミツボシキリガ       | 3月1日  | 1ex.  | 高砂市阿弥陀町           | 三村剣義           |    |
| ヨモギキリガ        | 3月13日 | 1♂    | たつの市揖保町<br>揖保川河川敷 | 高橋弘樹           |    |
| マエアカスカシノメイガ   | 2月26日 | 1ex.  | 加古川市東神吉町          | 村山リリカ          |    |
|               | 3月1日  | 1ex.  | 京田辺市              | 島岡優            |    |
|               | 3月13日 | 1ex.  | 姫路市               | 西脇大晴           |    |
| クロモンキノメイガ     | 3月11日 | 1ex.  | 明石市貴崎             | くすもとりょう        |    |

| 種名                | 確認日   | 確認数  | 確認場所              | 確認者     | 備考    |
|-------------------|-------|------|-------------------|---------|-------|
| フクラスズメ            | 2月28日 | 1ex. | 姫路市八家             | 西脇大晴    |       |
|                   | 3月30日 | 1ex. | 養父市大屋町            | 正垣善彬    | 屋内で発見 |
| ハイイロフコハマキ         | 3月23日 | 1ex. | 神戸市北区<br>しあわせの村   | くすもとりょう |       |
| イボタガ              | 3月30日 | 1ex. | 赤穂市 雄鷹台山          | 菅藤康平    |       |
| ナシケンモン            | 3月13日 | 1ex. | たつの市揖保町<br>揖保川河川敷 | 高橋弘樹    |       |
| ウスギヌカギバ           | 3月26日 | 1ex. | 相生市羅漢の里           | 高橋弘樹    |       |
| オオアオシャチホコ         | 4月2日  | 1♂   | 上郡町金出地            | 高橋弘樹    |       |
| オオシロテンクチャ         | 3月13日 | 1ex. | たつの市揖保町<br>揖保川河川敷 | 高橋弘樹    |       |
| マイコトラガ            | 3月26日 | 1ex. | 上郡町金出地            | 高橋弘樹    |       |
| 未同定蛾 (ノメイガ sp. ?) | 2月17日 | 1ex. | 播磨町               | 中谷      |       |
| 未同定蛾 (ヤガ科 sp. ?)  | 3月24日 | 1ex. | 鳥取市               | 匿名      |       |

付表 4. その他の昆虫の記録

| 種名                                        | 確認日   | 確認数      | 確認場所              | 確認者     | 備考       |
|-------------------------------------------|-------|----------|-------------------|---------|----------|
| ツチイナゴ                                     | 2月13日 | 1ex.     | 淡路市尾崎             | 井嶋幸司    |          |
|                                           | 2月18日 | 1♂       | 檀原市耳成山            | 宮武頼夫    |          |
|                                           | 3月10日 | 1ex.     | 加東市<br>(加古川河川敷)   | 植田義輔    |          |
|                                           | 3月14日 | 1ex.     | 小野市<br>(加古川河川敷)   | 植田義輔    |          |
| クビキリギス                                    | 2月18日 | 1♀       | 檀原市耳成山            | 宮武頼夫    |          |
|                                           | 2月26日 | 1ex.     | 徳島県藍住町            | 北地      |          |
| エンマコオロギ                                   | 3月14日 | 1ex.     | 神戸市西区神出町          | 匿名      | 幼虫       |
| コナジラミの一種<br><i>Indoaleynodes japonica</i> | 3月6日  | 4exs.    | たつの市新宮町           | 菅藤康平    |          |
| カシトガリキジラミ                                 | 3月8日  | 1ex.     | 赤穂市雄鷹台山           | 菅藤康平    | 幼虫       |
| アラカシコムネアブラムシ                              | 3月5日  | 1ex.     | 上郡町光都             | 菅藤康平    |          |
| イヌツゲクビレコナジラミ                              | 3月7日  | 多数       | 赤穂市雄鷹台山           | 菅藤康平    | 幼虫       |
| シラカシムネアブラムシ                               | 3月5日  | 多数       | 上郡町光都             | 菅藤康平    |          |
| ジャガイモヒゲナガアブラムシ                            | 3月23日 | 1ex.     | 赤穂市山手町            | 菅藤康平    |          |
| アブラムシ科 sp.                                | 3月30日 | 多数       | 赤穂市雄鷹台山           | 菅藤康平    | 幼虫       |
| アズキナシオアブラムシ                               | 3月30日 | 5exs.    | 姫路市               | 菅藤康平    | 幼虫       |
| ナシミドリオアブラムシ                               | 3月19日 | 多数       | 赤穂市雄鷹台山           | 菅藤康平    |          |
| ソラマメヒゲナガアブラムシ                             | 3月22日 | 多数       | 赤穂市山手町            | 菅藤康平    |          |
| ホトケノザクギケアブラムシ                             | 3月21日 | 1ex.     | 相生市本郷町            | 菅藤康平    |          |
| スジコシラウンカ                                  | 3月10日 | 多数       | 上郡町光都             | 菅藤康平    |          |
| クサギカメムシ                                   | 3月12日 | 1ex.     | 加古川市東神吉町          | 村山リリカ   |          |
| アオクサカメムシ                                  | 3月2日  | 1ex.     | 加古川市東神吉町          | 村山リリカ   |          |
| ツマキヘリカメムシ                                 | 3月7日  | 1ex.     | 赤穂市雄鷹台山           | 菅藤康平    |          |
| マツノヒゲボソカスミカメ                              | 3月17日 | 1ex.     | 上郡町光都             | 菅藤康平    |          |
| カメムシ sp.                                  | 3月14日 | 1ex.     | 神戸市西区神出町          | 匿名      |          |
| ピロードツリアブ                                  | 3月26日 | 1ex.     | 神戸市中央区鷺合町         | くすもとりょう |          |
|                                           | 3月31日 | 1ex.     | 上郡町光都             | 高橋弘樹    |          |
| オオハナアブ                                    | 3月1日  | 1ex.     | 明石市貴崎             | くすもとりょう |          |
| ハナアブ sp.                                  | 3月31日 | 1ex.     | 赤穂市加里屋            | 菅藤康平    |          |
| アブ sp.                                    | 3月10日 | 3exs.    | 神戸市西区神出町          | 匿名      |          |
|                                           | 3月14日 | 4exs.    | 神戸市西区神出町          | 匿名      |          |
| ナナホシテントウ                                  | 2月26日 | 1ex.     | 徳島県藍住町            | 北地      |          |
|                                           | 2月27日 | 1ex.     | 穴穂市山崎町            | 八木裕樹    |          |
|                                           | 3月1日  | 2exs.    | 洲本市都志             | 山口雄都    |          |
|                                           | 3月1日  | 1ex.     | 明石市貴崎町            | くすもとりょう |          |
|                                           | 3月10日 | 1ex.     | 加東市<br>(加古川河川敷)   | 植田義輔    |          |
|                                           | 3月10日 | 1ex.     | 神戸市西区神出町          | 匿名      |          |
|                                           | 3月14日 | 2exs.    | 神戸市西区神出町          | 匿名      |          |
| ジュウサンホシテントウ                               | 2月27日 | 1ex.     | 高砂市伊保町            | 三村寛子    |          |
| カメノコテントウ                                  | 3月13日 | 1♂1♀     | たつの市揖保町<br>揖保川河川敷 | 高橋弘樹    | 交尾中      |
| コガタリハムシ                                   | 3月10日 | 1ex.     | 加東市<br>(加古川河川敷)   | 植田義輔    |          |
|                                           | 3月10日 | 約10exs.  | 神戸市西区神出町          | 匿名      | 交尾個体・卵あり |
|                                           | 3月14日 | 8~12exs. | 神戸市西区神出町          | 匿名      |          |
| ホンクロホシテントウゴミムシダマシ                         | 3月10日 | 1ex.     | 上郡町光都             | 菅藤康平    |          |
| オオズアリ                                     | 3月7日  | 多数       | 赤穂市雄鷹台山           | 菅藤康平    |          |
| ホソウメマツオオアリ                                | 3月7日  | 多数       | 赤穂市雄鷹台山           | 菅藤康平    |          |
| アザミウマ sp.                                 | 3月19日 | 1ex.     | 赤穂市雄鷹台山           | 菅藤康平    |          |
| クロゴキブリ                                    | 3月12日 | 1ex.     | 赤穂市加里屋            | 菅藤康平    | 幼虫       |

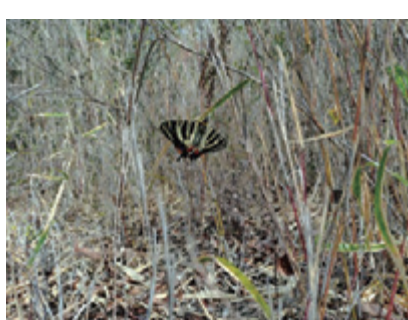
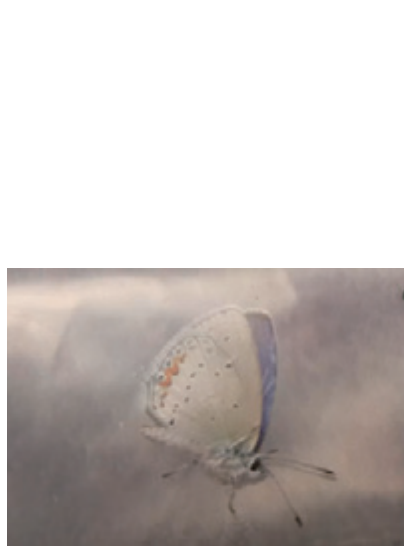


写真1 初蝶組.

- 1列目: モンシロチョウ (神戸市西区 匿名), ツバメシジミ (加古川市 島崎正美)  
 2列目: モンキチョウ (島岡 優), モンキチョウ (山口雄都), モンシロチョウ (淡路市 井嶋茉美)  
 3列目: ペニシジミ (加古川市 村山リリカ), ミヤマセセリ (三田市 島岡優), ツバメシジミ (神戸市須磨区 上野 貢)  
 4列目: ジャコウアゲハ (樫原市 宮武頼夫), ギフチョウ (宝塚市 たにもとりょう), ペニシジミ幼虫 (神戸市西区 匿名)

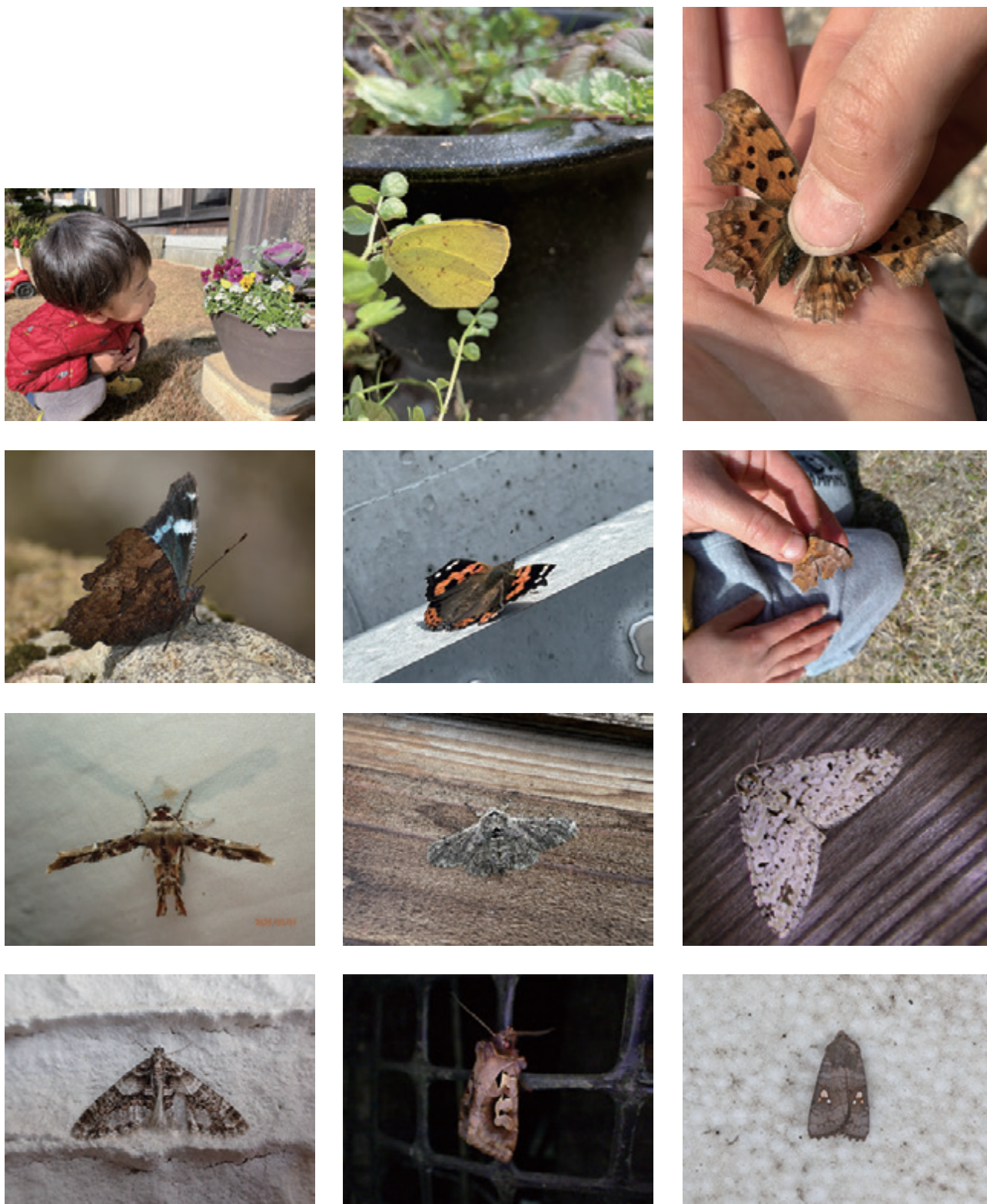


写真2 越冬組の蝶・蛾.

- 1 列目: キタキチョウ (洲本市 清水瑛心), キタキチョウ (三田市 吉田現), キタテハ (西宮市 森治己)  
 2 列目: ルリタテハ (姫路市 黒田修司), アカタテハ (姫路市 庄野貴美子), キタテハ (藍住町 北地)  
 3 列目: オカモトトゲエダシヤク (淡路市 井嶋幸司), トビモンオオエダシヤク (淡路市 井嶋幸司), ウスミドリコバネナミシヤク (相生市 矢野町 高橋弘樹)  
 4 列目: ウスベニスジナミシヤク (神戸市北区 くすもとりょう), スギタニキリガ (竹原市 内田隼人・高橋弘樹), ミツボシキリガ (高砂市 三村剣義)

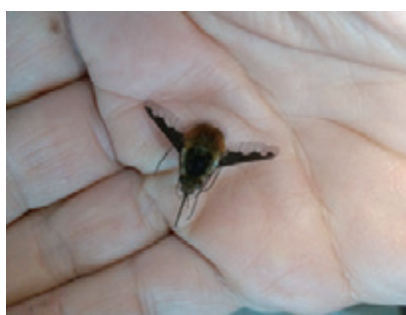
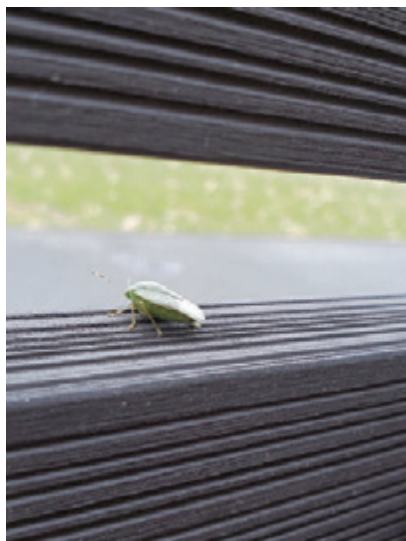
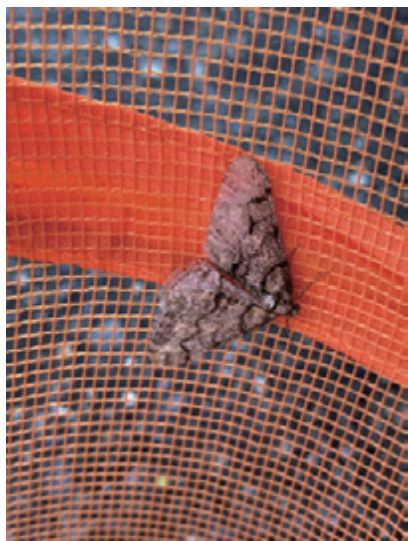


写真3 蛾・その他の昆虫.

1列目: シロフフユエダシャク (丹波篠山市 奥田奈緒), アオクサカメムシ (加古川市 村山りりか), ナナホシテントウ (宍粟市 八木裕樹)

2列目: ホンクロホシテントウゴミムシダマシ (上郡町 菅藤康平), ビロードツリアブ (上郡町 高橋弘樹), オオハナアブ (明石市 くすもとりょう)

3列目: ツチイナゴ (淡路市 井嶋幸司), ジュウサンホシテントウ (高砂市 三村寛子), ホトケノザクギケアブラムシ (相生市 菅藤康平)

## 蝶と訪花植物：兵庫県におけるシルビアシジミの吸蜜植物－第9報－

板野 隆<sup>1)</sup>・大畑俊雄<sup>2)</sup>・島崎正美<sup>3)</sup>

筆者らは「加古川の里山・ギフチョウ・ネット」のボランティア活動員として、兵庫県に生息する絶滅危惧種選定（環境省，2020）希少蝶類の保全活動を継続する過程で、シルビアシジミ（絶滅危惧ⅠB類，以下、本種）の生息・分布調査時に吸蜜植物も記録している。これまでに2015-2024年の観察記録24科63種を第1-8報として報告し、第8報ではツユクサでの吸蜜が期待できるとしたが、2025年になってそのツユクサに確かに口吻をのばす場面とさらに新たな7種を記録できた。第1-8報に記載できなかった過去の記録5種も追加し、ツユクサ科とバラ科の2科を加えた7科13種の記録を報告する。

今回の追加記録を植物種が多い科別順に、植物名、観察年月日、観察地を示す（下線部が新規に観察できた科名）。

### ●マメ科

カワラケツメイ（図1）2025/9/2，神戸市  
クスダマツメクサ（図2）2022/4/23，三木市  
コメツブツメクサ（図3a）2025/4/30，神戸市  
（図3b）2025/6/20，三木市  
ヤマハギ（図4）2025/10/23，加古川市

### ●キク科

ジシバリ（図5）2024/4/30，三木市  
セイヨウタンポポ（図6）2024/4/22，神戸市  
ハナニガナ（図7）2024/4/25，神戸市

### ●バラ科

オヘビイチゴ（図8）2025/4/30，三木市  
キジムシロ（図9）2010/4/25，神戸市

### ●シソ科

ヤマハッカ（図10）2025/10/28，加古川市

### ●ツユクサ科

ツユクサ（図11）2025/9/28，神戸市

### ●ナデシコ科

ノハラナデシコ（図12）2025/6/21，神戸市

### ●ヒルガオ科

ホシアサガオ（図13）2025/9/25，加古川市

兵庫県における本種の訪花・吸蜜植物については「兵庫県の蝶」（広畑・近藤，2007）に4科6種の記載があるが、筆者らによる記録の追加で合計26科76種（表1）となった。

訪花植物を花卉の色別に分類すると黄色：25，赤色：25，青色：14，白色：12種で、黄色と赤色を好む傾向が見られる。一方、モンシロチョウが紫外線反射色覚で認識度の低い赤色の花を訪花する場合、黄色い花芯の認識によるとされていて（福田ら，1982），花芯が黄色のツユクサ（花卉青），ヨメナ（青系統），ヒメジョオン（白），ベニバナセンブリ（赤系統）を黄色系統とすれば、黄色：29，赤色：24，青色：12，白色：11種となって本種が黄色を最も好むという結果になる。

今後は、2025年6月に高砂市阿弥陀町で本種が接近する場面を観察したセイヨウヒキヨモギ（ゴマノハグサ科，黄色）と第8報に記述したノアザミ（キク科）に注意する。第8報ではノアザミの芳香成分であるアルデヒド類（大村，2006）を本種が好まない可能性について考察したが、近藤（2000）による蝶類の訪花・吸蜜植物に関する報告に、蝶に最も人気があるとされたノアザミでベニシジミが吸蜜したとの記載があり、本種による訪花・吸蜜の観察を続ける。

第7，8報で触れたニワゼキショウ（アヤメ科）は具体的撮影地が非公開の愛知県で2024年6月15日に本種が吸蜜中の画像がSNSに投稿されている。ニワゼキショウは本種の生息地に普通に見られる草花で、人や犬・猫などの動物に有毒な成分を有することが蝶類の訪花・吸蜜例がほとんどみられない理由とも考えられるが、近藤による他に類を見ない調査記録（植物：70科269種；計964例，蝶類：8科94種）中にも記載はなく（近藤，2000），本種による上記吸蜜例は極めて珍しい記録である。

これまでに観察記録した植物に関して、花蜜の成分までの分析調査はしていなく、花に毒性成分「オレアンドリン」を含むキョウチクトウでイチモンジセセリが吸蜜した観察例がみられる上記報文（近藤，2000）中でも花蜜成分に関する記述はない。芳香性が高いキンモク

<sup>1)</sup> Takashi ITANO 兵庫県神戸市；<sup>2)</sup> Toshio OHATA 兵庫県神戸市；<sup>3)</sup> Masami SHIMAZAKI 兵庫県高砂市

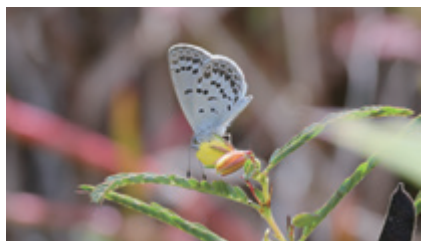


図 1. カワラケツメイで吸蜜.  
(2025 年 9 月 2 日, 神戸市, 板野 隆)



図 2. クスダマツメクサで吸蜜.  
(2022 年 4 月 23 日, 三木市, 板野 隆)



図 3. コメツブツメクサで吸蜜.  
a: (2025 年 4 月 30 日, 神戸市, 板野 隆)  
b: (2025 年 6 月 20 日, 三木市, 大畑俊雄)



図 4. ヤマハギで吸蜜.  
(2025 年 10 月 23 日, 加古川市, 板野 隆)



図 5. ジシバリで吸蜜.  
(2024 年 4 月 30 日, 三木市, 板野 隆)



図 6. セイヨウタンポポで吸蜜.  
(2024 年 4 月 22 日, 神戸市, 板野 隆)



図 7. ハナニガナで吸蜜.  
(2024 年 4 月 25 日, 神戸市, 板野 隆)

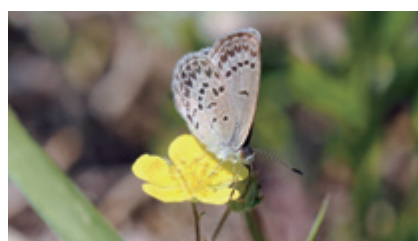


図 8. オヘビイチゴで吸蜜.  
(2025 年 4 月 30 日, 三木市, 大畑俊雄)



図 9. キジムシロで吸蜜.  
(2010 年 4 月 25 日, 神戸市, 板野 隆)



図 10. ヤマハッカで吸蜜.  
(2025 年 10 月 28 日, 加古川市, 板野 隆)



図 11. ツユクサで吸蜜.  
(2025 年 9 月 28 日, 神戸市, 板野 隆)



図 12. ノハラナデシコで吸蜜.  
(2025 年 6 月 21 日, 神戸市, 板野 隆)

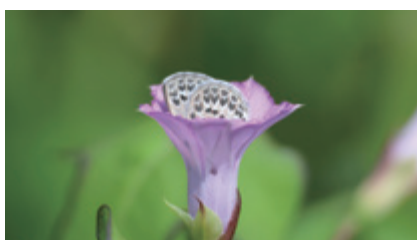


図 13. ホシアサガオで吸蜜.  
(2025 年 9 月 25 日, 加古川市, 板野 隆)

セイ, クチナシ, ドクダミなどを訪花する蝶類を観察したことはなく, 一方, 「リコリン」「ガランタミン」といった有毒アルカロイドを含むヒガンバナで, アゲハチョウ, キアゲハ, カラスアゲハ, モンキアゲハなどのアゲハ類, およびキタキチョウなどが訪花・吸蜜する場面を普通に観察できるなど, 蝶と吸蜜植物の花蜜成分との関わりも今後の興味ある研究課題となる。

## 参考文献

- 大村 尚, 2006. チョウ成虫の採餌行動と嗅覚情報物質. 比較生理生化学, 23(3): 134-142  
近藤伸一, 2000. 蝶類の観察記録ー訪花・吸蜜植物等ー. きべりはむし, 28(2): 22-28  
島崎正美, 2015. 兵庫県におけるシルビアシシミ吸蜜植物. きべりはむし, 38(1): 4-5

- 島崎正美, 2016. 兵庫県におけるシルビアシジミの吸蜜植物—続報. きべりはむし, 39(1): 17-18
- 島崎正美・島崎能子, 2019. 兵庫県におけるシルビアシジミの吸蜜植物—第3報. きべりはむし, 42(2): 15-16
- 島崎正美・島崎能子, 2020. 兵庫県におけるシルビアシジミの吸蜜植物—第4報. きべりはむし, 43(2): 11-12
- 島崎正美・島崎能子, 2022. 兵庫県におけるシルビアシジミの吸蜜植物—第5報. きべりはむし, 45(2): 34-35
- 島崎正美・島崎能子, 2023. 兵庫県におけるシルビアシジミの吸蜜植物—第6報—および天敵の観察. きべりはむし, 46(2): 40-41

- 島崎正美・島崎能子, 2024. 蝶と訪花植物: シルビアシジミの吸蜜植物—第7報—. きべりはむし, 47(2): 41-45
- 島崎正美・島崎能子, 2025. 蝶と訪花植物: シルビアシジミの吸蜜植物—第8報—. きべりはむし, 48(1): 126-129
- 広畑政巳・近藤伸一, 2007. 兵庫県の蝶. 330pp., 岩峰社, 東京
- 福田晴夫・浜 栄一・葛谷 健・高橋 昭・高橋真弓・田中 蕃・田中 洋・若林守男・渡辺康之, 1982. 原色日本蝶類生態図鑑 (I). 277pp., 保育社, 大阪

表 1. これまでに確認したシルビアシジミの吸蜜植物.

| 吸蜜植物種        | 年    | 月    | 日  | 場所   | 観察者 | 参考文献, 参照図    |
|--------------|------|------|----|------|-----|--------------|
| マメ科 (21 種)   |      |      |    |      |     |              |
| 1 アカツメクサ     | 2020 | Oct. | 2  | 高砂市  | 島崎  | 島崎・島崎 (2020) |
| 2 アレチヌスビトハギ  | 2024 | Sep. | 24 | 加古川市 | 板野  | 島崎・島崎 (2025) |
| 3 カラスノエンドウ   | 2024 | Apr. | 22 | 三木市  | 大畑  | 島崎・島崎 (2024) |
| 4 カワラケツメイ    | 2025 | Sep. | 2  | 神戸市  | 板野  | 図 1          |
| 5 クスダマツメクサ   | 2022 | Apr. | 23 | 三木市  | 板野  | 図 2          |
| 6 コマツナギ      | 2020 | Aug. | 1  | 高砂市  | 島崎  | 島崎・島崎 (2020) |
| 7 コメツブウマゴヤシ  | 2016 | Apr. | 24 | 加古川市 | 島崎  | 島崎 (2016)    |
| 8 コメツブツメクサ   | 2025 | Apr. | 30 | 神戸市  | 板野  | 図 3a         |
|              | 2025 | June | 20 | 三木市  | 大畑  | 図 3b         |
| 9 シナガワハギ     | 2024 | Nov. | 5  | 三木市  | 大畑  | 島崎・島崎 (2025) |
| 10 シロツメクサ    | 2019 | July | 21 | 高砂市  | 島崎  | 島崎・島崎 (2019) |
| 11 スズメノエンドウ  | 2024 | Apr. | 22 | 神戸市  | 大畑  | 島崎・島崎 (2024) |
| 12 セイヨウミヤコグサ | 2021 | Apr. | 18 | 三木市  | 板野  | 島崎・島崎 (2024) |
| 13 ツルマメ      | 2018 | Sep. | 11 | 三木市  | 大畑  | 島崎・島崎 (2024) |
| 14 ヌスビトハギ    | 2019 | Oct. | 1  | 加古川市 | 島崎  | 島崎・島崎 (2019) |
| 15 ネコハギ      | 2022 | Sep. | 10 | 三木市  | 大畑  | 島崎・島崎 (2024) |
| 16 ノアスキ      | 2024 | Sep. | 24 | 加古川市 | 板野  | 島崎・島崎 (2025) |
| 17 ミヤコグサ     | 2015 | Sep. | 30 | 加古川市 | 島崎  | 島崎 (2015)    |
| 18 メドハギ      | 2022 | Sep. | 24 | 三木市  | 大畑  | 島崎・島崎 (2024) |
| 19 レンゲソウ     | 2024 | Apr. | 30 | 三木市  | 大畑  | 島崎・島崎 (2024) |
| 20 ヤハズソウ     | 2023 | Sep. | 10 | 加古川市 | 板野  | 島崎・島崎 (2024) |
| 21 ヤマハギ      | 2025 | Oct. | 23 | 加古川市 | 板野  | 図 4          |
| クク科 (18 種)   |      |      |    |      |     |              |
| 1 アキノキリンソウ   | 2018 | Nov. | 11 | 三木市  | 大畑  | 島崎・島崎 (2024) |
| 2 アメリカセンダングサ | 2013 | Oct. | 30 | 加古川市 | 島崎  | 島崎 (2015)    |
| 3 オニタビラコ     | 2024 | Apr. | 22 | 神戸市  | 板野  | 島崎・島崎 (2024) |
| 4 カンサイタンポポ   | 2016 | Apr. | 16 | 加古川市 | 島崎  | 島崎 (2016)    |
| 5 コオニタビラコ    | 2024 | Apr. | 22 | 神戸市  | 大畑  | 島崎・島崎 (2024) |
| 6 サウヒヨドリ     | 2024 | Sep. | 25 | 加古川市 | 板野  | 島崎・島崎 (2025) |
| 7 ジシバリ       | 2024 | Apr. | 30 | 三木市  | 板野  | 図 5          |
| 8 セイタカアワダチソウ | 2022 | Oct. | 19 | 三木市  | 大畑  | 島崎・島崎 (2024) |
| 9 セイヨウタンポポ   | 2024 | Apr. | 22 | 神戸市  | 板野  | 図 6          |
| 10 タウコギ      | 2024 | Sep. | 25 | 加古川市 | 板野  | 島崎・島崎 (2025) |
| 11 タカサブロウ    | 2015 | Sep. | 5  | 加古川市 | 板野  | 島崎・島崎 (2024) |
| 12 ニガナ       | 2016 | Apr. | 23 | 加古川市 | 島崎  | 島崎 (2016)    |
| 13 ハナニガナ     | 2024 | Apr. | 25 | 神戸市  | 板野  | 図 7          |
| 14 ヒメジョオン    | 2022 | July | 12 | 加古川市 | 島崎  | 島崎・島崎 (2022) |
| 15 ヒヨドリバナ    | 2018 | Nov. | 4  | 加古川市 | 板野  | 島崎・島崎 (2024) |
| 16 ブタナ       | 2022 | July | 13 | 加古川市 | 島崎  | 島崎・島崎 (2023) |
| 17 ホソバニガナ    | 2014 | Oct. | 4  | 加古川市 | 板野  | 島崎・島崎 (2024) |
| 18 ヨメナ       | 2013 | Oct. | 30 | 加古川市 | 島崎  | 島崎 (2015)    |
| タデ科 (6 種)    |      |      |    |      |     |              |
| 1 イヌタデ       | 2024 | Apr. | 30 | 三木市  | 大畑  | 島崎・島崎 (2024) |
| 2 ハナタデ       | 2012 | Oct. | 6  | 加東市  | 宮下  | 島崎・島崎 (2020) |
| 3 ボントクタデ     | 2024 | Sep. | 25 | 加古川市 | 板野  | 島崎・島崎 (2025) |
| 4 ミソバ        | 2012 | Oct. | 6  | 加東市  | 宮下  | 島崎・島崎 (2020) |
| 5 イタドリ       | 2024 | Sep. | 25 | 加古川市 | 板野  | 島崎・島崎 (2025) |
| 6 ホソバノウナギツカミ | 2024 | Sep. | 25 | 加古川市 | 板野  | 島崎・島崎 (2025) |
| オオバコ科 (2 種)  |      |      |    |      |     |              |
| 1 オオイヌノフグリ   | 2021 | Apr. | 10 | 加古川市 | 島崎  | 島崎・島崎 (2023) |
| 2 マツバウンラン    | 2024 | Apr. | 22 | 神戸市  | 大畑  | 島崎・島崎 (2024) |

| 吸蜜植物種         | 年    | 月    | 日  | 場所   | 観察者 | 参考文献, 参照図    |
|---------------|------|------|----|------|-----|--------------|
| キキョウ科 (2 種)   |      |      |    |      |     |              |
| 1 ツリガネニンジン    | 2015 | Sep. | 30 | 加古川市 | 島崎  | 島崎 (2015)    |
| 2 ヒナギキョウ      | 2016 | Apr. | 24 | 加古川市 | 島崎  | 島崎 (2016)    |
| クマツヅラ科 (2 種)  |      |      |    |      |     |              |
| 1 アレチハナガサ     | 2024 | Oct. | 17 | 加古川市 | 島崎  | 島崎・島崎 (2024) |
| 2 ダキバアレチハナガサ  | 2015 | Sep. | 5  | 加古川市 | 板野  | 島崎・島崎 (2024) |
| シソ科 (2 種)     |      |      |    |      |     |              |
| 1 イヌコウジュ      | 2012 | Oct. | 16 | 加東市  | 宮下  | 島崎・島崎 (2020) |
| 2 ヤマハッカ       | 2025 | Oct. | 28 | 加古川市 | 板野  | 図 10         |
| スミレ科 (2 種)    |      |      |    |      |     |              |
| 1 アリアケスミレ     | 2025 | Apr. | 16 | 加古川市 | 島崎  | 島崎 (2016)    |
| 2 マスミレ        | 2021 | Apr. | 10 | 加古川市 | 島崎  | 島崎・島崎 (2022) |
| ナデシコ科 (2 種)   |      |      |    |      |     |              |
| 1 ノハラナデシコ     | 2016 | June | 21 | 神戸市  | 板野  | 図 12         |
| 2 ミチバタナデシコ    | 2019 | July | 21 | 高砂市  | 島崎  | 島崎・島崎 (2019) |
| バラ科 (2 種)     |      |      |    |      |     |              |
| 1 オヘビイチゴ      | 2025 | Apr. | 30 | 三木市  | 大畑  | 図 8          |
| 2 キジムシロ       | 2010 | Apr. | 25 | 神戸市  | 板野  | 図 9          |
| ヒルガオ科 (2 種)   |      |      |    |      |     |              |
| 1 ホシアサガオ      | 2025 | Sep. | 25 | 加古川市 | 板野  | 図 13         |
| 2 マメアサガオ      | 2024 | Sep. | 23 | 神戸市  | 板野  | 島崎・島崎 (2025) |
| アオイ科 (以下 1 種) |      |      |    |      |     |              |
| 1 アメリカキンゴジカ   | 2024 | Sep. | 23 | 神戸市  | 板野  | 島崎・島崎 (2025) |
| アカネ科          |      |      |    |      |     |              |
| 1 メリケンムグラ     | 2024 | Aug. | 6  | 神戸市  | 大畑  | 島崎・島崎 (2024) |
| アカバナ科         |      |      |    |      |     |              |
| 1 アカバナユウゲショウ  | 2023 | July | 4  | 加古川市 | 島崎  | 島崎・島崎 (2023) |
| カタバミ科         |      |      |    |      |     |              |
| 1 カタバミ        | 2015 | Sep. | 30 | 加古川市 | 島崎  | 島崎 (2015)    |
| キジカクシ科        |      |      |    |      |     |              |
| 1 ツルボ         | 2020 | Oct. | 1  | 高砂市  | 島崎  | 島崎・島崎 (2020) |
| キツネノマゴ科       |      |      |    |      |     |              |
| 1 キツネノマゴ      | 2024 | Sep. | 24 | 加古川市 | 板野  | 島崎・島崎 (2025) |
| キンボウゲ科        |      |      |    |      |     |              |
| 1 キンボウゲ       | 2024 | Apr. | 16 | 加古川市 | 立岩  | 島崎・島崎 (2024) |
| セリ科           |      |      |    |      |     |              |
| 1 ヤブジラミ       | 2024 | June | 25 | 神戸市  | 大畑  | 島崎・島崎 (2024) |
| ツユクサ科         |      |      |    |      |     |              |
| 1 ツユクサ        | 2025 | Sep. | 28 | 神戸市  | 板野  | 図 11         |
| トウダイグサ科       |      |      |    |      |     |              |
| 1 オオニシキソウ     | 2023 | Sep. | 2  | 加古川市 | 島崎  | 島崎・島崎 (2023) |
| ハエトリソウ科       |      |      |    |      |     |              |
| 1 トキワハゼ       | 2024 | Apr. | 30 | 三木市  | 大畑  | 島崎・島崎 (2024) |
| ヒメハギ科         |      |      |    |      |     |              |
| 1 ヒメハギ        | 2016 | Apr. | 16 | 加古川市 | 島崎  | 島崎 (2016)    |
| フウロソウ科        |      |      |    |      |     |              |
| 1 アメリカフウロ     | 2024 | Apr. | 25 | 神戸市  | 板野  | 島崎・島崎 (2024) |
| ラン科           |      |      |    |      |     |              |
| 1 ネジバナ        | 2018 | June | 30 | 神戸市  | 大畑  | 島崎・島崎 (2024) |
| リンドウ科         |      |      |    |      |     |              |
| 1 ベニバナセンプリ    | 2024 | June | 25 | 神戸市  | 大畑  | 島崎・島崎 (2024) |

# 「兵庫県立大学附属高等学校付近で確認されたシタベニハゴロモの記録と行動観察」 の訂正について

菅藤康平<sup>1)</sup>

## はじめに

筆者がきべりはむし第 47 巻第 2 号に掲載した報文（菅藤，2024）について，シタベニハゴロモの雌雄判別，一部寄主植物データに誤りがあった．本稿にて訂正するとともに正しいデータを示す．

## 訂正箇所

当該報文をまとめる際，筆者は腹部先端が赤いものを雄，黒いものを雌として，調査結果を『表 1. 8 月以降の記録。』としてまとめ報告していた（菅藤，2024）．しかし，腹部先端が赤いものは雌で黒いものが雄であることが分かった（倉敷昆虫館，2024）．また，ヤマハンノキと示したところは，正しくはノグルミである．訂正箇所を表 1 に示す．また雌雄の腹部先端を図 1 に示す．

表 1. 訂正箇所.

|                       | 誤                | 正                |
|-----------------------|------------------|------------------|
| 表 1 2 行目<br>2024/8/9  | ♂ : 4 匹 ♀ : 10 匹 | ♂ : 10 匹 ♀ : 4 匹 |
| 表 1 3 行目<br>2024/8/23 | ♂ : 1 匹 ♀ : 2 匹  | ♂ : 2 匹 ♀ : 1 匹  |
| 表 1 4 行目<br>2024/9/3  | ♂ : 2 匹          | ♀ : 2 匹          |
| 表 1 4 行目<br>2024/9/3  | ヤマハンノキから 1 匹     | ノグルミから 1 匹       |
| 表 1 5 行目<br>2024/9/4  | ♂ : 5 匹 ♀ : 3 匹  | ♂ : 3 匹 ♀ : 5 匹  |



図 1. シタベニハゴロモの雌雄の腹部先端

個体数欄の雌雄の数が逆となり，また寄主植物データの誤りによって，読者の皆様には大変ご迷惑をお掛けしてしまったこと，おわび申し上げます．

今後は雌雄判別や同定作業を正確に出来るようにし

ていきたい．引き続き，「シタベニハゴロモ情報提供フォーム」への報告をよろしくお願い申し上げます．

## 引用文献

菅藤康平，2024. 兵庫県立大学附属高等学校付近で確認されたシタベニハゴロモの記録と行動観察 当地での観察から得られた生態に関する知見. きべりはむし, 47(2) : 57-59

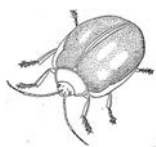
倉敷昆虫館，2024. 標本の紹介 シタベニハゴロモ *Lycorma delicatula* (White). [https://www.shigei.or.jp/ento\\_museum/hyouhon\\_shitabenihagoromo01.htm](https://www.shigei.or.jp/ento_museum/hyouhon_shitabenihagoromo01.htm) (参照日：2025 年 9 月 9 日)

シタベニハゴロモの情報提供フォーム  
<https://forms.gle/DpTBUmhNFufq1vRA9>



<sup>1)</sup> Kohei KANTO 兵庫県立大学附属高等学校

# たんぽう



## 兵庫県初記録のヤマナラシハムシ

森 正人

ヤマナラシハムシ *Phratora (Phyllodecta) laticollis* (Suffrian, 1851) は、ハムシ亜科、ホソルリハムシ属に属する北方系のハムシで、日本では北海道と本州に分布する。西日本における本種の記録は希薄で、秋山 (2025) が報告した広島県庄原市道後山の記録だけと思われる。兵庫県においても記録がない (高橋, 1997; 高橋, 1998; 高橋, 1999; 高橋, 2000 など) が、筆者は以下のとおり兵庫県北部で採集しており、県初記録として報告する。

### 採集記録

3exs, 兵庫県美方郡香美町岡区 alt.700m, 30-VIII-2025. 森採集 (図1); 8exs, 同所, 6-IX-2025, 森採集; 5exs, 同所同日, 下野誠之採集。

### 確認状況

採集環境は良好な落葉広葉樹林 (図2) で、本種は斜面林内に生育するヤマナラシ高木の樹幹から採集された。当該地の樹林内にはヤマナラシが比較的多く生育しているが、本種が採集できた木は限られていた。

本種が確認された地域は養父市と香美町にまたがる鉢伏山・高丸山稜線部の北側に位置し、所謂「ハチ北」と呼ばれているエリアである。南側に位置する鉢伏高原の草原湿地では、同じく北方系種のシラハタネクイハムシ *Plateumaris shirahatai* Kimoto, 1971 が隔離分布的に記録されており (林・森, 2024), この山塊及び周辺地域は昆虫類の分布上、大変に興味深い地域である。

### 謝辞

本種の同定および有益な情報を頂いた末長晴輝氏 (倉敷市), 有益なアドバイスを頂いた大生唯統氏 (鳥取市) および採集に同行頂いた下野誠之氏 (大阪府池田市) にあつくお礼申し上げる。

### 引用文献

秋山美文, 2025. 道後山の中相. 比和科学博物館研究報告, (66): 73-165.

林成多・森正人, 2024. 兵庫県におけるシラハタネクイハムシの記録. Sayabane N.S., (55): 42-43.



図1 ヤマナラシハムシ (兵庫県産)。



図2 生息環境 (兵庫県香美町)。

木元新作・滝沢春雄, 1994. 日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説. 東海大学出版会. 539pp.

高橋寿郎, 1997. 兵庫県のハムシ (1). Iratsume, 21: 16-26.

高橋寿郎, 1998. 兵庫県のハムシ (2). Iratsume, 22: 25-34.

高橋寿郎, 1999. 兵庫県のハムシ (3). Iratsume, 23: 5-17.

高橋寿郎, 2000. 兵庫県のハムシ (4). Iratsume, 24: 15-30.

(Masato MORI 環境科学大阪 株式会社)

## ギンヒゲナガをハチ高原で撮影

植田義輔

ギンヒゲナガ *Nemophora askoldella* (Millière, 1879) は草原性のヒゲナガガ科の一種である。従来、本種は西日本からは知られていなかったが、近年になって鳥取県および島根県から発見された（松井, 2023）。

ところで、2024 年に「兵庫県産蛾類分布記録データベース」がインターネット上で公開され（宇野ら, 2024）、兵庫県下のこれまでの蛾類の記録を調べる上で非常に便利になった。宇野（2024）は、このデータベースの概要を解説しているが、この中でギンヒゲナガについて触れられている。これによると、本種は兵庫県では未記録であるが、隣の鳥取県からの記録があることから、今後新たに兵庫県から発見される可能性のある種であるとされている。筆者は過去に兵庫県で本種を撮影していたので報告する。本稿の作成にあたり、撮影画像で同定を確認していただいた、池田大氏・宇野宏樹氏・阪上洗多氏、現地調査に同行させていただいた近藤伸一氏にお礼申し上げる。

### 【データ】

1 ♂（写真撮影・図 1）・2exs（目撃）、兵庫県養父市大久保（ハチ高原）、4. VIII. 2017、筆者撮影・目撃

ギンヒゲナガを撮影・目撃したのは、ハチ高原スキー場のゲレンデから小代越に至る登山道の道端である。撮影した 1 ♂以外に 2 個体を目撃した。確認地点の周辺はススキ草原が広がっており、ススキの株と株の間にはアザミ類・シシウド・ヨモギ等の広葉草本や、ハギ類などの低木が点々と生育していた。筆者が本種を撮影・目撃したのは 16 時半頃である。本種は夕方に草原上や低木上で群飛する（梅津, 2014；松井・土井・中, 2018）とされているが、今回はこのような行動は確認できなかった。

ギンヒゲナガは、ススキ草原に依存している種と考えられており（松井ら, 2018；田中, 2020；松井,



図 1 養父市産ギンヒゲナガ。

2023）、ハチ高原の個体群についてもスキー場のススキ草原に依存しているのであろう。今後は、上山高原や低峰高原などのススキの名所や、但馬地域のスキー場のススキ草地を調査すれば、新たな生息地が確認される可能性があると思われる。

### ○引用文献

松井悠樹, 2023. ギンヒゲナガ. 鳥取県生活環境部緑豊かな自然課（発行）、レッドデータブックとっとり第 3 版 2022－鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物－, p.153.

松井悠樹・土井美春・中 秀司, 2018. ギンヒゲナガの産卵行動と交尾個体の観察例. 蛾類通信, 285：237-238.

田中政行, 2020. ギンヒゲナガ. 秋田県生活環境部自然保護課（編集・発行）、秋田県の絶滅のおそれのある野生生物－秋田県版レッドデータブック 2020－動物 II [哺乳類・昆虫類], p.111.

梅津一史, 2014. 秋田県のヒゲナガガ科（鱗翅目）. 秋田県立博物館研究報告, 39：3-9.

宇野宏樹, 2024. 兵庫県産蛾類の概観について－兵庫県産蛾類分布記録データベースの作成にあたって－. きべりはむし, 47（2）：12-27.

宇野宏樹・池田 大・阪上洗多, 2024. 兵庫県産蛾類分布記録データベース. [https://www.konchukan.net/moths/moths\\_of\\_hyogo.html](https://www.konchukan.net/moths/moths_of_hyogo.html) (2025 年 5 月 30 日閲覧)

(Yoshisuke UEDA 大阪府枚方市)

## 兵庫県川西市でシナチクノメイガを撮影

宇野宏樹

シナチクノメイガ *Eumorphobotys eumorphalis* (Caradja, 1925) は、岩下・松井（2022）によって日本初記録として報告されたノメイガの 1 種で、中国南部からの外来種と考えられている。兵庫県における本種の記録は、兵庫県美方郡香美町ハチ北高原が知られている（阪上, 2024）。筆者は、本種を記録がないと思われる川西市で撮影したので、報告しておきたい。阪急川西能勢口駅構内にいた個体を撮影した。

1ex. (図), 兵庫県川西市阪急川西能勢口駅. 17. VI. 2025. 筆者撮影.

### ○引用文献

岩下幸平・松井悠樹, 2022. 中国南部からの外来種



図. 兵庫県川西市で撮影されたシナチクノメイガ.

と考えられるノメイガ *Eumorphobotys eumorphalis* (Caradja, 1925) の日本からの初記録. 蛾類通信, 300 : 683-684.

阪上洸多, 2024. ハチ北高原から得られた蛾類 3 種の採集例. きべりはむし, 47(1) : 68-69.

(Hiroki UNO 大阪府池田市)

## 兵庫県初記録のアブラムシ 2 種

菅藤康平

筆者が実施している兵庫県赤穂市, 兵庫県立大学附属高等学校周辺を中心としたアブラムシ類のファウナ調査で兵庫県初記録となるアブラムシを 2 種採集し, 興味深い知見が得られたので報告する. 本稿作成にあたり, 写真・情報の使用を承諾いただいた定 倫太郎氏, ウネビシンムネアブラムシの同定にご協力くださった青木重幸氏にお礼申し上げる.

### (1) ウネビシンムネアブラムシ *Neodermaphis unebiensis* Sorin, 2006

1985 年に奈良県畝傍山でアラカシの枝から採集された 1 個体をもとに, 宗林氏によって 2006 年に記載された種で, その後は記録されていない.

今回の調査で兵庫県内の 3 地点から確認され, いずれもアラカシの枝から得られた. 周年アラカシの枝で生活すること, 秋ごろに幼虫が生まれるということが明らかとなった. 幼虫と思われる個体は, 成虫のすぐそばにいたことから幼虫と判断した.

赤穂市 塩屋高山ピクニック公園, 無翅成虫, 9. II. 2025 ; 無翅成虫, 9. III. 2025 ; 無翅成虫 (多数), 22. VIII. 2025 (図 1).  
たつの市 新宮町角亀川付近, 無翅成虫, 23. VII. 2025.

上郡町 兵庫県立大学附属高等学校の駐車場, 無翅成虫, 8. IX. 2025 ; 無翅成虫及び幼虫と思われる個体, 16. X. 2025 (図 2).

### (2) コルクガシミツアブラムシ *Thelaxes suberi* (Del Guercio, 1911)

本種はヨーロッパ原産の外来種であり, 日本では東京都から日本初記録として報告されている (Sasaki, 2023). その後, 神奈川県および大阪府においても確認されている (Sasaki et. al., 2025). 国内における本種の寄主植物については, 現在のところウバメガシ *Quercus phillyraeoides* に限定されている.

筆者は, 兵庫県赤穂市寿町のつばき公園 (兵庫県赤穂市寿町 3-3) において, ウバメガシの新葉に寄生する本種を確認した. また, 同時に本種に随伴していたハリフトシリアゲアリ *Crematogaster matsumurai* の存在も認められた. このアリ (図 7) については, 「日本産アリ類画像データベース」を参照し, 「触角べん節のこん棒部は 3 節からなること. 中胸背面は平たく, 側方で縁どられること. 前伸腹節刺は短く歯状で, 中胸背面側方の縁どりは鈍いこと」から同定した. 本種に随伴する種は, トビイロケアリ *Lasius japonicus*, アミメアリ *Pristomyrmex punctatus*, ハリフトシリアゲアリが知られている (Sasaki et. al., 2025). 筆者が調査を実施したつばき公園では, ハリフトシリアゲアリの随伴のみを確認している. また本種をシラカシで確認したとの情報もあるが (定氏, 私信), 筆者は未見である.

赤穂市 寿町つばき公園, 無翅成虫と幼虫 (多数), 22. VIII. 2025 (図 3-6) ; 無翅成虫と幼虫 (多数), 24. VIII. 2025.

引き続き, この 2 種を含め兵庫県におけるアブラムシ相を調査していきたい. 特にウネビシンムネアブラムシに関しては, 全国的に見ると発見例が少ないため, 新

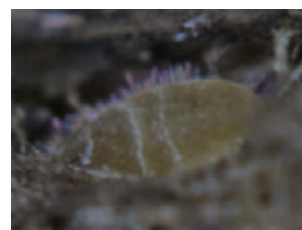


図 1.

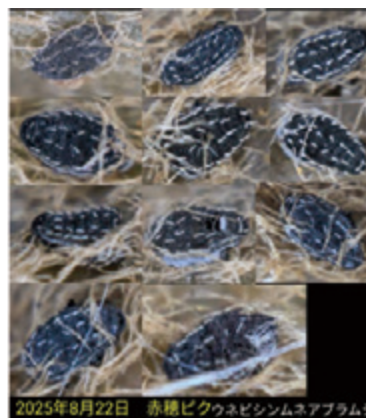


図 2.

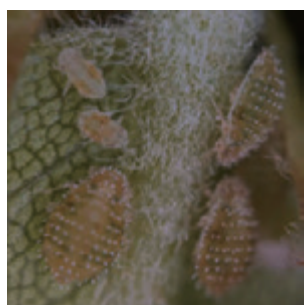


図 3.



図 4.



図 5.



図 6.



図 7.

たな生態に関する知見を調査していきたい。

#### ○引用文献

アリ類データベース作成グループ, 2008. 日本産アリ類画像データベース. 宮城教育大学. <http://ant.miyakyo-u.ac.jp/J/>

Sasaki D., S. Sugimoto, Y. Yamauchi, 2025. Additional Records of a Non-native Species, *Thelaxes suberi* (Hemiptera: Aphididae: Thelaxinae) on Its Distribution, Host Plant, and Attending Ant in Japan, with Notes on Its Nymphal Morphology and Phenotypic Plasticity. Japanese Journal of Systematic Entomology, 31 (1): 64-68.

(Kohei KANTO 兵庫県立大学附属高等学校)

#### 兵庫県におけるケナガゲンバイの採集記録及びその生態

菅藤康平

ケナガゲンバイ *Tingis (Tropidocheila) shaowuana* Drake & Maa, 1953 は, 体長 3.6-3.8 mm で, 背面は褐色, 濃褐色の不規則な斑紋が散在する. 全国的に稀な種であり, ネット上において観察事例は散見されるものの生態についてはほとんど不明である.

筆者は 2025 年 7 月 24 日に定 倫太郎氏より本種の情報を頂き, 2025 年 7 月 25 日に兵庫県立大学附属高等学校周辺の調査を実施したところ, キランソウ *Ajuga decumbens* である可能性が高い植物にて成虫及び幼虫, 食痕を確認した.

#### 採集記録

兵庫県上郡町光都 兵庫県立大学附属高等学校～星の広場, 24. VII. 2025. 定 倫太郎採集 (図 2, 3); 同地, 25. VII. 2025. 筆者採集 (図 4-8).

すべてキランソウである可能性が高い植物より採集された. 今回得られたサンプルの一部は, 相馬 純氏 (弘前大学) に郵送している.



図 1.



図 2.

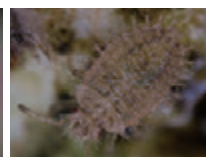


図 3.



図 4.



図 5.



図 6.



図 7.



図 8.



図 9.



図 10.

## 寄主植物の同定について

今回のキランソウである可能性が高い植物 (図 9, 10) の同定についても触れておきたい. 全体に毛が多く, 根生葉が地面に張り付くように這って広がること, 近縁種のニシキゴロモよりも葉の銀歯細かくなく, タチキランソウやツクバキンモンソウなどのように立っておらずロゼットのようにになっていたこと, 葉の長さが 5.5 cm であることから同定した. しかし確定するには少なすぎる形質であるため, ここではキランソウである可能性が高い植物とする.

## 考察

本種は, キランソウである可能性が高い植物を寄主植物とし, 生活していることが明らかになった. しかし生態は不明な点が多く, 稀な種類であるため, 今後も調査を継続し, 知見が得られ次第, 報告していきたい.

## 謝辞

本調査にあたり同定, アドバイスくださった前原 諭氏, 相馬 純氏には重ねてお礼申し上げる. また写真について, 快く使用を承諾してくださった定 倫太郎氏にもお礼申し上げる.

## ○引用文献

三河の植物観察会. 「キランソウ *Ajuga decumbens*」『三河の植物観察』.<https://mikawanoyasou.org/data/kiransou.htm> (参照日: 2025 年 7 月 25 日)

(Kohei KANTO 兵庫県立大学附属高等学校)

兵庫県相生市における *Brentiscerus putoni* の採集報告

菅藤康平

*Brentiscerus putoni* (White, 1878) は, インドネシア (ジャワ島, バリ島, フローレス島, スンバ島), パプアニューギニア, オーストラリア, ニュージーランド (北島, 南島, チャタム諸島, スリーキングス諸島) に分布するカメムシで, 日本では本州 (愛知県, 岡山県, 広島県), 九州 (福岡県), 上甕島から確認されている (Ban et al., 2024). 日本では灯火に飛来した個体の確認がほとんどで, 生態はあまり解明されていないが, ニュージーランドでは低地から山地にかけて広く見られ, ナンキョクブナ属 *Nothofagus* の林内や, 草地 *Ozothamnus-Aciphylla* 群落および *Acaena novae-zelandiae* 群落を含む雑草地, 小石や岩の表面に付着した地衣類の下, さらに溪流沿いなどから採集されており, 普通種と見なされている (Ban et al., 2024).

筆者は, JR 相生駅の待合室にて本種を採集したので, 兵庫県における初記録及び日本国内における生息状況の参考として, 採集情報を報告する.

## 採集記録

兵庫県相生市 JR 相生駅, 1 ♀, 26. VI. 2025. 灯火に飛来 (図 1)

筆者は 2023 年より JR 相生駅に飛来する昆虫類の調査を実施し, 本稿においてもいくつか短報として報告したが (菅藤, 2023; 菅藤, 2025), 本種の採集は今回が初となった.

同定については Ban et al. (2024) を参照し, 体長は約 3.0 mm で, 本属の唯一の近縁種である *B. obscurus* の体長 3.5 mm 超より小型であること, 前胸背板後葉の地色が黄褐色で黒っぽい斑紋を伴うこと, 脚が黄褐色であることより, *B. putoni* と同定した.



図 1.

筆者の採集では、未だ♀ 1 個体のみの採集に留まっております。生態に関する知見は不明な点が多いが、ニュージーランドにおいて、雑草地や小石や岩の表面に付着した地衣類の下、溪流沿いなど低地から山地にかけて広く見られていることから、日本においても同様な環境下で生息している可能性がある。

日本における本種は、Ban et al. (2024) で近年人為的に持ち込まれた外来種と見なすべきと考察されていることから、今後の本種の動向に注目して調査を継続していきたい。

#### ○引用文献

Ban T., Souma J., Hisasue Y., 2024. Unexpected discovery of the Australian seed bug *Brentiscerus putoni* (White, 1878) (Hemiptera, Heteroptera, Lygaeoidea, Rhyparochromidae, Drymini) in Japan suggests the possibility of a recent introduction due to human activity. Check List 20 (3) · <https://doi.org/10.15560/20.3.622.622-629>

(Kohei KANTO 兵庫県立大学附属高等学校)

## [ 書評 (10) ]

『ムシの考古学』 森 勇一著 雄山閣 237pp. 2012

竹田真木生

昔、神戸大学の昆虫研がキャッチフレーズに「化石から DNA まで」というような言い回しをしていた時があった。研究室のメンバーで野尻湖の発掘グループで昆虫化石を調べていた学生がいたからだ。DNA のテクノロジーの進展は昆虫科学の分野でもその利用は簡便になってきて、面白い成果が上がってきている（希少種群に入るとされるコブヤハズカミキリにおける中峰空氏の貢献を参照）。とはいえ、化石を材料にするのはまだまだ制約が多く、困難は想像するに難くない。第一、軟弱な組織は残らないし、体全体が残ることは珍しい。いきおい、利用できる部分は胸部、エリトラ、大顎がほとんどということになってしまう。これらは軽いので水に流されたり風に飛ばされる可能性がある。胸部やエリトラの篆刻を、現代の生存種と比較しながら、限られた発掘場所の植生、遺跡などでは、住民の生活様式などを推測してゆくという作業に限られてしまう。しかし、最近、地層や遺物の年代測定技術が進んできたおかげで、いろいろ面白いことが分かってきた。植生で言えば、そこが草原であったか、水田であったか、住居があったら、そこが食物貯蔵庫であったか、便所であったか、害虫防除が行われていたか、酒を造っていたか、燃料などの目的で木の伐採が行われてきたか等の出来事を、異なる地域や時代の遺跡のデータを比較しながら残された絵や文献とつなぐ作業をやっていく。海外の状況（黄河文明、三星堆の青銅器文明、竜馬遺跡、アンコール、雲南のテン王朝）につないでいく、地震や噴火の記録などにつないでいく。三重象や同時代のワニが私の出身地の子供の頃走り回っていたあたりからゾクゾク出てきたのは丁度人類の出アフリカの頃、70 万年くらい前のこと、その頃からいろいろな人類の文化的刻印が残されてきた縄文期までは途方もない出来事が地球には起こっただろう。しかし、何らかの刻印を昆虫が残り、私たちにメッセージを与えていることをこの本は気づかせてくれた。今、出された 1 群の虫のサンプルを与えられて、これは野原、これは畑、これは水田、これは雑木林、これは松林、これは沼沢地、これは河川、これは牧場、これは人家、これは醸造所、これは食物蔵などと彼らの生息場所を同定することがあなたはできますか？今、生物多様性の保全が叫ばれているが、私たちも未来の保全のために考古学的なセンスも求められているのかもしれない。何が変わりつつあるのかというのをヒトの人生のスケールくらいで言い当てられるようにならなければ種の保全の対策はとれないだろう。

(Makio TAKEDA ムシの恵み社)

## [ 書評 (11) ]

『超遺伝子』 藤原晴彦著 光文社新書 222pp. 2023

竹田真木生

「超遺伝子」という言葉は聞きなれないものである。トピックは蝶の擬態のメカニズムであり、ウォレスとダーウィンの関心を集めたものである。ウォレスは、ダーウィンに対する手紙の中に、いくつかのアゲハチョウの翅の斑紋は多様であり、それは雌だけにおいてそうで、雄は一様であるという指摘を行った。雌の 2 型は中間型を生み出さない。なぜか？これについて、生物統計学でだれも知っている R.A. フィッシャーも大いに興味を掻き立てられた。ダーウィンとウォレスが自然選択説を固めている頃、モラビアはブルノーの僧院で、グレゴール・メンデルが遺伝子の考え方をまとめていた。メンデルの法則はド・フリースらによる再発見まで長い年月を要したが、追ってミュシャが核酸を見つけ、また DNA は染色体の構造をとり、遺伝子は染色体の上に乗る、特定の遺伝子座には対立遺伝子が座上するということが分かってきた。まとまった表現型を発現するためには関連する遺伝子は近くに並んでいなければならない（連鎖）。しかし、連鎖は基本構造として大事ではあるが、組み換えがある限り、連鎖は絶対的ではあり得ない。フィッシャーは性染色体と同様、なにか自由な組み換えを妨げる染色体の特別な機構があると考えた（メンデル要素）。性染色体は、そうした特別の構造的な仕掛けの一つで、常にではないが、性の決定などに決定的に重要な役割を持っている。組み換えの前段階である、相同染色体の対合が妨げられる。組み換えによる分断をまぬかれるように、性染色体には分断が起こっては拙いような遺伝子が詰め合わされている。しかし、それらの形質は、致死又は弱勢によってゲノムのクリーニングが行われなくなってしまうという側面もある。組み換えを妨げるもう一つの装置は、染色体逆位である。ショウジョウバエで種分化を研究していた、セオドシウス・ドブジャンスキーがこれを見つけた。こうした装置を今日では超遺伝子という言葉で扱うようになっている。メンデル型の分離を示す例は教科書などに記載されているが、実はそう多くない。日本では東大の外山亀太郎がカイコ幼虫の体色決定で明らかにしているが、虎蚕の原因遺伝子は Spatzel3、黒縞および姫蚕は Apl-like と呼ばれる転写因子、褐丸は Wnt1 という遺伝子が明らかになっている。著者の研究材料はシロオビアゲハとナガサキアゲハの擬態斑紋であるが、両者とも性決定遺伝子の一つ dsx のところに、逆位が入っている（シロオビ）か、転移因子の挿入がある（ナガサキ）。2つの装置の獲得により、組み換えが抑制される。ウォレスやフィッシャーの問題提起からだいぶ時間がたったが、この古い問題が今解明されつつある

のには理由がある。それはゲノムのシーケンシングのスピードとコストが急激に低下してきたことだ。今コロナのせいであふれかえった PCR 装置が大幅にダンピングされているようで、足りないのは問題提起と労力である。どうぞ若い人たちには、千載一隅のチャンスとこのような分野に参入することを期待する。

(Makio TAKEDA ムシの恵み社)

## [ 書評 (12) ]

『「腸と脳」の科学』 坪井貴司著 ブルーバックス 264pp. 2024

竹田真木生

IPS 細胞が、パーキンソン病や糖尿病の治療において治験段階に入ったというニュースが席卷した。細胞系列においては一度分化した細胞は初期化しないという発生学の基本的な常識が IPS 細胞で覆り、ヒトがその過程を制御できるということが新しい段階に入ったということは朗報である。本書は無頭一分散神経系でヒドラによく似た消化管の話であるが、消化管は脳との相関があって、昆虫でも古くから生理機能の制御に両者が精緻な応答を示すことが言われてきた。私たちが CCAP/sNPF の系でそれを示した。最近では、免疫系と消化管バイオータという次元が加わり、飛躍的な解明が進んでいる。勿論、脳の関連する生物時計や睡眠などにかかわる部分を含め、パーキンソン、認知症、寿命、発達障害、肥満だけではなく、腸―腎相関、腸―肺相関、腸―筋相関、腸―肝相関、腸―肝―脳―腸相関など、生理機能の殆どすべての側面で消化管の役割が重要視され始めてきていることが分かる。こちらの方は狭いスペースながら重要な新知見がぎゅう詰めになっている。神経と内分泌という dichotomy にシャラー夫妻による神経分泌の概念が大きな哲学的革新をもたらし、そこに、藤田恒夫と小林繁によるパラニューロンの概念が加わり、消化管は神経内分泌学的な重要な役割が与えられた。その消化管と対話する相手として、腎、肺、筋、肝が加わったのである。筋肉からホルモン因子が分泌されるというのは古い内分泌的な常識からするとばかげたことに響くだろう。しかも、これはヒトの内分泌だけでなく、昆虫やその他の分類群でもどうやらそうらしい。神経系の方の系統では、新しい役割はグリア細胞に次々と見つかった。第②書が明らかにするように、ニューロンとグリア細胞の dichotomy が崩れようとしている。バイオリンやピアノの独奏もありうるが、最も総合的な音楽はオーケストラによるものだろう。そうした音楽が、生態系のすべての構成要素に鳴り響いている状態こそ、ダーウィンの、endless forms, most beautiful の実体なのだろう。

(Makio TAKEDA ムシの恵み社)

## [ 書評 (13) ]

『糸を出すすごい虫たち』 大崎茂芳著 ちくまプリマー  
新書 186pp. 2019

竹田真木生

本書の著者は、高分子化学から蜘蛛の糸について多くの啓蒙書を出版してきたが今回は、クモ以外の糸を作る昆虫類について紹介している。すでに発表されたものは以下のとおりである。①「クモの糸のミステリー」中公新書 (2000), ②「クモはなぜ糸から落ちないのか」PHP 新書 (2004) ③「クモの糸の秘密」岩波ジュニア新書 (2008), ④「クモの糸でバイオリン」岩波化学ライブラリー (2016)。クモについてはやや饒舌になっているが今回の検体は、蚕, ミノムシ, ハダニ, ミノウスバ, シャクトリムシ, ミツバチ, イラガ, トビケラ, シロアリモドキ, ガムシ, ノミと広範に及んでいる。最後の3つはあまり遭遇しない例であるので, 私も実物を詳しく拝んだことがない。シロアリモドキというのは Embioptera という独立の目を形成するが, 他の場合と異なり, 絹糸腺からではなく前脚から糸を紡ぐ。ガムシはゲンゴロウと違って成虫は植物食であるが, 幼虫は昆虫食である。蛹の間に消化管の大規模なリモデリングが起こるに違いない。蜜ろうをかじるハチミツガが蛹の間に消化管のかなり大きな改変をとまなう変態を行うが, 蛹のなかでの脱皮も, 1度キリではなく, 何回も行うことは我々も観察して驚いた。なぜ, ガムシは蛹で食性を変えるのだろうか? ゲンゴロウとの競合? では, なぜ幼虫期には競争関係を維持したままでやっていけるのか? よい説明が見つからない。アミノ酸組成のレベルでこれらの糸吐きムシの絹は違っているが, それぞれの絹の特性は, 張力, 変性力, 形などに大きく依存するのだろうか, タンパク質レベルでは塩基配列の解明はもうそんなに大きな問題ではないし, 工業的な発現もおそらく実現に近いのだろう。クモも7種類の糸を出すのだそうだが, クモの中には, 釣り糸を垂れたり, 粘球で長縄を投げたりするものもある。これらの機能の違いや, 分類にも使われているように, いくつかの紡績腺があり, その分泌腺ごとの絹の特徴などの記載が欲しかった。そのうえで, 細い繊維が欲しければ, ハダニの発現ベクター, 中くらいのものが必要なら蚕, 太いものがあるようならヤマユまたは柞蚕を用いることでいろいろな繊維が得られるだろう。工業的, 衣料, 医療素材, 食品加工以外にも, コンタクトレンズ, 防弾チョッキや, 落下傘などにも注目される。面白い機能を持った糸が作られるとよいと思う。

(Makio TAKEDA ムシの恵み社)

〔新刊紹介〕

『増補 害虫の誕生 虫からみた日本史』

瀬戸口明久著 筑摩書房 2025

前藤 薫

野口雨情の童謡「黄金虫」の黄金むしは、コガネムシではなくチャバネゴキブリではないかと言われている。ゴキブリにしては落ち着いた曲調だが、子供に水飴をなめさせる様子はよく似合っている。一般家庭でも冬の室内が暖かくなってゴキブリが身近な〈害虫〉になったのは高度経済成長期以降のことであり、それまでは豊かさの象徴として大事にされることさえあったという。〈害虫〉は普遍的な存在ではなく、人間との関係のなかで歴史的に作りあげられてきたものなのだ。本書は、〈害虫〉の誕生を徹底した文献調査によって辿り、日本の近代化をより深く理解しようとする意欲的な挑戦である。

本文は、“近世日本における「虫」”、“明治日本と〈害虫〉”、“病氣—植民地統治と近代都市の形成”、“戦争—「敵」を科学で撃ち倒す”の4章からなる。

人々が「有害な虫」を「人間の力で排除されるべき〈害虫〉」と考えるようになったのは最近のことらしい。日本に水田稲作が広まって以来、農民たちは稲を食害する昆虫類「蝗」（イナゴだけではない）に悩まされていた。だが、「蝗」を排除する有効な手段がないなか、彼らは虫害を天災あるいは神罰だと考えて「虫送り」や「驅虫札」などの宗教的な方法によって堪え忍んできた。

ところが明治になって政府が〈稲作害虫〉の積極的な防除（排除）に乗り出すと、農民たちは激しく反発した。それは農民たちの旧来の自然観に反していただけでなく、「公益」という「国家にとっての利益」を目指したものであり、農民たちに厳しい労働を強いるものでもあった。そこで、新しい学問である応用昆虫学が、農民たちの「盲信」を断ち切り、彼らを近代的な〈害虫〉防除へといざなう役割をになうことになる。

明治以前の人々にとっても蚊やハエはうっとおしい存在であり、蚊帳をつったり火を焚いたりして虫を遠ざけたが、積極的に排除すべき〈害虫〉ではなかった。しかし、ハエがコレラなどの病原菌を媒介することが判明してしばらくすると近代都市では過剰ともいえる〈衛生害虫〉の排除が始まり、やがて農村にも広がった。それ以前に大日本帝国の両端にある北海道と台湾において深刻なマラリア被害が発生し、マラリア原虫を媒介するハマダラカを防除するための研究が進展していたという背景もあるのだが、台湾におけるハマダラカの駆除は住民にはなかなか受け入れられなかったという。

昭和初期になり近代科学の装いをととのえた応用昆虫学者たちは、天敵導入や誘蛾灯開発といった大規模な先端研究プロジェクトに取り組むことになるが、やがて



近代日本が突入することになる戦争の時代は、人と〈害虫〉の関わりにも大きな影を落とすことになった。戦争では〈害虫〉を兵器として使用するという発想も現実のものとなる。満洲の関東軍で兵士の感染症予防を主任務としていた731部隊は、ノミの増殖法についても研究し、ペスト菌を感染させたノミを中国の都市に散布している。他方では、戦争のための毒ガス研究と並行して世界中で新しいタイプの化学殺虫剤の開発が進められた。なかでもDDTやパラチオンなどの有機合成殺虫剤の発明は、戦後の〈害虫〉防除にきわめて大きな恩恵を与えるとともに、きわめて深刻な問題も課すことになり、その解決は今日の総合的害虫管理IPMへと引き継がれている。

さて、本書は2007年にちくま新書として刊行された『害虫の誕生—虫からみた日本史』の増補版である。本文は基本的に新書版のままだが、300項目を超える詳細な註が付されて出典が明示されているので論考を深めるのに役立つ。また、補章には戦後に整備された〈害虫〉監視システムや〈害虫〉の消滅を実現した不妊虫放飼法などの歴史が加えられているだけでなく、人類の誕生以来の長い時間スパンを見通して再考された、著者の〈害虫〉観が披露されている。ヒトが作りだした人工環境では、ヒトが増殖するほどに特定の共生生物（シナントロフ）が増える。ヒトの社会がそれらを「敵」と見なしたとき、〈害虫〉という存在が生まれ、それらを積極的に排除するために大量の物質とエネルギーがつぎ込まれるようになり、そうした人工環境の産業化の行きついた先に戦争があるのだと。そういえば本文(第四章)にも紹介されているように、太平洋戦争最中の米海兵隊の機関誌では、日本兵が新種の〈害虫〉ニホンジラミ“Louseous Japanicas”として風刺されている。強力な敵国を鬼畜に見立てて恐れ、それを吹き払う神風を期待した時代のことである。

(Kaoru MAETO 兵庫県宝塚市)

## [ 既刊紹介 ]

## 『江戸の図譜 蟲』

狩野博幸 監修 河出書房新社 2023

前藤 薫

本書には、江戸中期から明治初期にかけて描かれた、蟲類の美しく精密な絵画が豊富に紹介されている。日本初の昆虫図鑑とされる栗本丹洲の『千蟲譜』は、さすが江戸博物学（本草学）の集大成らしく守備範囲が広い。なかでもノミとシラムの顕微鏡下の見事な精密図は、作者が実際に観察したものがどうかは分からないが、とにかく圧巻である。ほぼ同時代の増山雪斎による『虫豸帖』には、飛翔したり餌を採ったりする虫の姿が生き生きと描かれている。少し古く江戸中期に成立した『東秀南畝識』には、ギフチョウをはじめとする多彩な虫たちが野生植物とともに生きる様子が観察されていて興味深い。江戸後期の木版画帖である森春溪の『肘下選蠹』にも、昆虫を他の生き物との関係性でとらえる生態学的な視点が見てとれる。西洋流の近代博物学・生態学が本格的に紹介されるまえに、江戸の日本人はそれを直ちに咀嚼して発展させることのできる文化的基盤をすでに育んでいたことがわかる。明治初期の松森胤保による『両羽飛虫図譜』には、特定地域（山形・秋田）のファウナに注目するとともに、従来は扱われていなかった寄生蜂や花蜂などの小型昆虫を加えるなど、近代博物学の影響がうかがわれる。

だが、本書の特色のひとつは、江戸時代の博物学の研究成果に加えて、同時代の一流画家が虫を描いた多数の絵画を紹介しているところにある。初っ端から口絵にすえられた円山応挙の『百蝶図』には心底ウットリする。金色を背景にして咲きほころぶ野生の草花のあいだを蝶と蛾が乱舞している。多種類のチョウやガが、とても美しく正確に、なによりも自然に描かれているのだが、彼の『写生帖』を見れば、その秘訣がたしかに腑に落ちる。また、伊藤若冲、喜多川歌麿、酒井抱一が描く、草花と虫の織りなす、それぞれに独自の世界観も楽しむことができる。監修者であり美術史家の狩野は、歌麿と若冲がともに虫に深い関心を寄せていたことを指摘し、その背景をくわしく考察していて面白い。

さて、博物画にもどれば、幕末から明治期にかけて穴戸昌が編写した『海雲樓博物雜纂』には興味深い図譜が多い。メンガタスズメやナミアゲハの写生図には触りたくなるほどの質感があるが、そうした虫体の絵画だけでなく、クヌギエダイガタマバチのものと思われる〈虫こぶ〉やスズバチのものらしい〈泥の巣〉を描いた図譜も気になる。一緒に描かれているそれぞれの主の絵はあまり上手ではないのだが、虫たちが作る造形物に注がれる観察眼が新鮮である。そうした図譜のなかに、樹木の



枝から垂れ下がる長い糸状のものに 20 個ほどの小さな粒のようなものが房なりになっている不思議な絵がある（83 頁の右上）。拡大された粒のようなものの先端は蓋のように割れていて、そこから羽化脱出したと思われる小さな虫の絵も添えられている。明らかに腰が細くくびれていて小型の蜂である。誤って「ツチスガリ（土棲蜂）」と付記されているが、実はこれはハラボソコマユバチの仲間である *Meteorus kurokoi* かその近縁種の集合繭に違いない。この種群はチョウ目幼虫に多寄生し、脱出した幼虫は集団で数十センチに達する長い吐糸を垂らし、その途中に多数の繭を散りばめることが知られるが、観察例は少なく生態はよく分かっていない。図譜はおそらく世界初の観察記録であり、ホストは不明だが、ホストの食草らしい枝葉も一緒に描かれていて貴重な生態情報を提供している。

本書は江戸から明治にかけての日本の昆虫学の黎明期を生き生きと感じ取ることのできる良書なのだが、残念ながら難点もある。上記のような珍しい寄生蜂が正確に同定されていないのは仕方ない。しかし、ヤマトシジミがゴイシツバメシジミ、ジャコウアゲハがクロアゲハ、ベッコウトンボがハラビロトンボなどと、明らかな誤同定が散見される。画家・作者が記した元々の名称と編集者による同定名の区別が明記されていないのも良くない。もちろん本書は図鑑ではないので実害はなく、むしろ間違い探しは楽しみともいえるが、今日にいたる博物学の蓄積が軽んじられているようでやはり残念に思う。本書に掲載された図譜は膨大に遺された作品群のごく一部でもある。我々はそうした先達の文化遺産をまだ正しく引き受けてはいないことになる。

(Kaoru MAETO 兵庫県宝塚市)

## きべりはむし 投稿案内

### 1. 内容

「きべりはむし」は、老若男女を問わず、昆虫に関心のある読者を対象とし、兵庫県ならびに地域の昆虫相、昆虫の採集・観察・飼育の記録や方法、昆虫学の解説、昆虫を題材とした教育や地域づくりに関する記録や方法などの、未発表の報文を掲載します。

### 2. 編集・発行

「きべりはむし」は、兵庫昆虫同好会の機関誌ではなく、独立した雑誌とし、「きべりはむし編集委員会」が編集し、「NPO 法人こどもとむしの会」が発行します。巻号は、兵庫昆虫同好会発行の「きべりはむし」の継続とします。

### 3. 著作権

掲載報文の著作権は、「NPO 法人こどもとむしの会」に帰属するものとします。

### 4. 体裁・媒体

本誌の判型は A4 判とし、横書き 2 段組とします。本誌は、Adobe PDF 形式による電子ファイルとして出版し、データは「NPO 法人こどもとむしの会」の web サイト (<http://www.konchukan.net/kiberihamushi>) からダウンロードできるものとします。また、紙媒体による印刷物を別途製作し、希望者に時価で頒布します。

### 5. 投稿者

「きべりはむし」には、NPO 法人こどもとむしの会正会員および賛助会員、学生（小学生、中学生、高校生、大学生および大学院生）ならびにきべりはむし会員のいずれかが著者に含まれる原稿を投稿することが出来ます。なお、きべりはむし会員が 1 年間に投稿できるのは、報文 2 報・短報 2 報までとなります。

### 6. 原稿提出時のお願い

原稿は、原則としてデジタルデータでお願いします。以下を参考に、文字部分と、図や表の部分は別々のファイルとして提出ください。従来通りの紙原稿でも受付しますので、ふるって投稿ください。

#### 1) 文字部分

図表以外の部分と図表のキャプションは、1 つのファイルとして、リッチテキスト形式 (.rtf) もしくは MS ワード形式 (.docx) で保存してください。ゴシック体、イタリック体などの書体も指定ください。原稿は、一般に、表題、著者、要旨、本文、謝辞、文献で構成します。本文が数ページに及ぶ報文の場合は、本文の前に 400 字以内程度の要旨をつけることも可能です。文献、ホームページの引用は、一般的な学術雑誌の例にならってください。

#### 2) 図表

それぞれの図表ごとに別々のファイルとして作成し、(jpeg), (psd), (pdf) などの形式で保存してください。また画像データにつきましては可能な限り、高解像度での保存をお願いします。図表の幅は、1 段または 2 段分となります。原則として、単純な拡大縮小以外を行わず、そのまま印刷に供しますので、図表中の文字サイズは、刷り上がりの大きさを考えて適切に設定してください。また、写真のトリミングは、適切にトリミングしたものを提出してください。著者以外が作成した地図や、人物が写っている写真を用いる場合は、事前に、著作権者や本人の承諾を得ておいてください。

### 3) 引用文献

文献を引用する場合、雑誌や単行本は「著者名 (年号)」または「(著者名, 年号)」, ウェブサイトは「サイト作成者名 (年号)」、「(サイト作成者名, 年号)」または「(ウェブサイト名)」と、本文の引用箇所に書き、文末に引用文献をまとめて記載してください。引用文献の記載方法は、以下の例を参考にしてください。

- ・雑誌を引用する場合

(例 1) 福岡誠行・黒崎史平・高橋晃, 2000. 兵庫県産維管束植物 2. 人と自然, 11: 85 - 104.

(例 2) 石原誠一, 1959a. トビイロスズメの生活史 (I). 新昆虫, 12 (2): 36 - 39.

(例 3) 石原誠一, 1959b. トビイロスズメの生活史 (II). 新昆虫, 12 (7&8): 37 - 39.

(例 4) Hardy, D. E., and M. Takahashi. 1960. Revision of the Japanese Bibionidae (Diptera, Namatocera). Pacific Insects, 2(4): 383-449.

- ・単行本を引用する場合

(例 5) 安永智秀・高井幹夫・中谷至伸, 2001. 日本原色カメムシ図鑑－陸生カメムシ類 Terrestrial Heteropterans－第2巻 (安永智秀・高井幹夫・川澤哲夫 編). 全国農村教育協会, 東京. 350pp.

- ・ウェブサイトを引用する場合

(例 6) 神戸市, 2015. 神戸の希少な野生動植物－神戸版レッドデータ 2015－, (<http://www.city.kobe.lg.jp/life/recycle/biodiversity/rd/img/rdb2015.pdf>).

(例 7) Web 東奥 (東奥日報), 2020 年 8 月 25 日. 青森県初確認? 深浦町にアカギカメムシ, <https://www.toonippo.co.jp/articles/-/399599> (参照 2020 年 11 月 26 日).

## 7. 原稿送付先

きべりはむし編集委員会 kiberihamushi@konchukan.net

## 8. 原稿の修正, 採否等

編集委員会は、内容や文言の修正を著者に求めることがあります。また趣旨に合わない原稿は掲載をお断りすることがあります。

## 9. 投稿者, 原稿内容に関する問い合わせ

個人情報保護の観点から、投稿者個人の連絡先は明記しておりません。お問い合わせ等につきましてはきべりはむし編集委員会メールアドレス kiberihamushi@konchukan.net までお願いいたします。

## 10. ISSN について

きべりはむしは第 32 巻第 2 号からオンラインジャーナルの PDF 版が正式版となりました。これに伴い、ISSN (国際標準逐次刊行物番号: International Standard Serial Number) を取得しました。ISSN とは、雑誌などの逐次刊行物の情報を識別するための国際的なコード番号です。

- ・参考 web サイト

ISSN 日本センター: <http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/issn.html>

きべりはむし 第48巻 第2号

2025年12月25日 発行

編集 きべりはむし編集委員会

発行 NPO 法人こどもとむしの会

事務局 NPO 法人こどもとむしの会  
きべりはむし編集委員会 kiberihamushi@konchukan.net

きべりはむし web サイト：<http://www.konchukan.net/kiberihamushi/index.html>

## きべりはむし 第48巻 第2号 目次

### 【報 文】

|                                               |                     |       |
|-----------------------------------------------|---------------------|-------|
| 兵庫県のゲンゴロウ類目録(2)                               | 森 正人                | 1-14  |
| 兵庫県で報告の少ないツトガ科の蛾類について                         | 高橋輝男・坪田 瑛           | 15-20 |
| 兵庫県南部で撮影した県内初記録および記録の少ない蛾類                    | 柴田 剛                | 21-28 |
| 兵庫県西播磨地域で確認した県内初記録及び記録の少ない蛾類について(1)           | 高橋弘樹                | 29-40 |
| 上郡町で得られた兵庫県で記録のない蛾類について                       | 大貝秀雄                | 41-45 |
| 但馬海岸のカミキリムシ                                   | 小西和夫                | 46-49 |
| 兵庫県におけるアカマダラハナムグリの追加記録と古い標本記録                 | 宮下直也・瀧北聖七・瀧北俊志・水田啓之 | 50-51 |
| 兵庫県からのニセモンキゲンゴロウの採集記録                         | 岡田亮平・森 正人           | 52-53 |
| 兵庫県赤穂市におけるヒメケブカカスミカメの採集報告                     | 菅藤康平                | 54-55 |
| みんなでつなぐ 初蝶リレー 2025                            | 久保弘幸                | 56-62 |
| 蝶と訪花植物：兵庫県におけるシルビアシジミの吸蜜植物 ー第9報ー              | 板野 隆・大畑俊雄・島崎正美      | 63-65 |
| 「兵庫県立大学附属高等学校付近で確認されたシタベニハゴロモの記録と行動観察」の訂正について | 菅藤康平                | 66    |

### 【短 報】

|                                             |      |       |
|---------------------------------------------|------|-------|
| 兵庫県初記録のヤマナラシハムシ                             | 森 正人 | 67    |
| ギンヒゲナガをハチ高原で撮影                              | 植田義輔 | 68    |
| 兵庫県川西市でシナチクノメイガを撮影                          | 宇野宏樹 | 68-69 |
| 兵庫県初記録のアブラムシ                                | 菅藤康平 | 69-70 |
| 兵庫県におけるケナガグンバイの採集記録及びその生態                   | 菅藤康平 | 70-71 |
| 兵庫県相生市における <i>Brentiscerus putoni</i> の採集報告 | 菅藤康平 | 71-72 |

### 【書評】

|                           |       |       |
|---------------------------|-------|-------|
| [書評(10)]『ムシの考古学』          | 竹田真木生 | 73    |
| [書評(11)]『超遺伝子』            | 竹田真木生 | 73-74 |
| [書評(12)]『「腸と脳」の科学』        | 竹田真木生 | 74    |
| [書評(13)]『糸を出すすごい虫たち』      | 竹田真木生 | 75    |
| [新刊紹介]『増補 害虫の誕生 虫からみた日本史』 | 前藤 薫  | 76    |
| [既刊紹介]『江戸の図譜 蟲』           | 前藤 薫  | 77    |

|      |  |       |
|------|--|-------|
| 投稿案内 |  | 78-79 |
|------|--|-------|